



Guidance on Running a Competition

競技運営ガイダンス (日本語訳)



(財)日本ゴルフ協会©



Guidance on Running a Competition

by
R&A Rules Limited

Effective 1 January 2009

Copyright © R&A Rules Limited
All Rights Reserved.



The activities of The R&A through all its areas of responsibility are detailed on www.randa.org. Keep up-to-date with the latest news of rules, championships, golf development and course management and discover the history and facts and figures behind The R&A's worldwide role.

www.randa.org



The Open Championship website at www.opengolf.com not only covers the four rounds of the championship in words, pictures, video and statistics, it also runs year-round with an archive of past results, a wealth of information and regularly updated news.

www.opengolf.com

目 次

はじめに	4
第1章 序論	5
第2章 競技の条件	6
1. 通 則	6
2. 参加資格	6
3. 参加申込	7
4. 形式	7
5. スタート時間と組み合わせ	9
6. ハンディキャップ	11
7. タイの決定	12
8. 賞	14
9. 練習	15
10. 適合ドライビングクラブリスト	15
11. 公認球リスト	16
12. ワンボール条件	16
13. キャディー	16
14. ゴルフカート	16
15. ティーム競技でのアドバイス	18
第3章 ローカルルール	19
1. 通 則	19
2. アウトオブバウンズ	20
3. 修理地	20
4. 準環境保護区域	24
5. 若木の保護	24
6. 地面にくい込んでいる球	25
7. プリファードライ/ウインタールール	25
8. バンカー内の石	26
9. パッティンググリーンに近接する動かさない障害物	26
10. 道路と通路	26
11. コースと不可分の部分	27
12. 臨時の動かさない障害物	28
13. 指定ドロップ区域	28
14. 距離計測機器	29
第4章 コースのマーキング	30
1. 通 則	30

2.	アウトオブバウンズ.....	30
3.	ウォーターハザード.....	32
4.	修理地.....	34
5.	障害物.....	36
6.	準環境保護区域(ESA).....	36
7.	指定ドロップ区域(第3章参照).....	36
第5章	コースセットアップ.....	38
1.	通則.....	38
2.	ティーインググラウンド.....	38
3.	ホールロケーション.....	41
第6章	競技運営.....	45
1.	ゴルフ規則.....	45
2.	登録.....	45
3.	スタート.....	45
4.	スコアカードの発行とスコアの記録.....	47
5.	ルールズオフィシャル.....	49
6.	フォアキャディーとマーシャル.....	49
7.	プレーのペース.....	50
8.	険悪な気象状況とプレーの中断.....	52
第7章	ルールズオフィシャルの職務.....	56
1.	通則.....	56
2.	レフェリー.....	56
3.	オブザーバー.....	60
4.	委員会のメンバー.....	61
第8章	その他の内容.....	62
1.	エントリーフォーム.....	62
2.	服装規制事項.....	62
3.	スコアボード.....	62
4.	早朝、午後スタートのプレーヤーへの便宜.....	62
5.	ストロークインデックス.....	63
6.	コースレコード.....	63
7.	レーキの位置.....	63
8.	エチケットの重大な違反.....	64
9.	障害を持つゴルファーのためのゴルフ規則の修正.....	64
10.	ゴルフ規則についての質問の提出.....	64
付属 A	THE OPEN CHAMPIONSHIP 申込書.....	65
付属 B	2 ティー・スタート時間.....	71

付属 C	ローカルルール	75
付属 D	臨時の動かさない障害物に関するローカルルールの簡単な解説	80
付属 E	ホールロケーションの計測	93
付属 F	スコアカードの発行、記入、確認のガイドライン	94
付属 G	プレーのペースの条件	96
付属 H	落雷の安全への助言、プレーの中断とコース避難計画	100
付属 I	チームマッチでのプレーの中断 — 委員会のためのガイド	105
付属 J	競技会場でのクラブの適合性についての質問に関するルールズオフィシャルへのアドバイス	107
付属 K	R&A 公式ルール出版物	111

はじめに

重要で実用的なこのガイドは第3版となります。この第3版には世界中で開催されるゴルフトーナメントを成功させるための最新のアドバイスを収録し、初めて競技を運営する方や最良の方法を確認したいと思っている方の助けとなるように構成されています。

このガイドを作成するに当たって、私達は内容を監修し、提案や意見を出すことに協力していただいたヨーロッパアンツァーの多くの方に対して引き続き感謝しております。

ゴルフ競技の運営を行なうとき、ゴルフクラブやゴルフ団体が競技を円滑に進めるために競技当日に複数名の資格のあるルールズオフィシャルだけに頼ることは明らかに十分ではありません。コースのことだけでなく、競技に関わるすべての面において十分な準備をすることは重要です。そのすべてのことを予測して解決することを助けることがこの本の役目です。

この本の将来の版のために含めるべき事項、あるいは改善すべき事項に関する提案、意見などがあれば是非お知らせ下さい。

ご成功をお祈りいたします。

R&A ルールズ・リミテッド
ゴルフ規則委員会 委員長
アラン・W.J.・ホームズ

第1章 序論

ゴルフは本質的に自己規制のゲームです。プレーヤーには規則を知っておくことと責任があり、そして規則を正しく適用することを期待されています。しかしながら、ゴルフは時に複雑なゲームになることもあるので競技は適正に運営される必要があるのです。

競技の条件やローカルルールを制定しなければなりません。コースは入念にセットアップされ、正確なマーキングがなされなければなりません。規則はすべてのプレーヤーに対して間違えることなく、また公正に適用されなければなりません。この本はゴルフ競技を運営する委員会のために個別の参考文献を提供するために製作されました。

成功したイベントを開催することに関わるすべての主要な要素を扱っているので、当然に初歩的な事や、競技運営の経験が比較的少ない委員会に関心を持つ事項も含まれています。一方、トップクラスのアマチュアやプロフェッショナルのイベントだけに関係するより詳細に事項についても記述されています。この本のどの部分を運営するイベントに適用するかどうかはその委員会の決定事項となります。

このガイドはすべての範囲を扱うようにしていますが、競技に関するある部分(例えば、テレビ映像や写真の権利、損害保険、プレーヤーの宿泊施設、観客の駐車場)については一般的なガイダンスを提供することは実際的ではないと考えられるので取り扱っていません。

本書全体にわたって、ゴルフ規則書やゴルフ規則裁定集が参照されています。ゴルフ競技を運営するすべての委員会がこれらの必要な書籍の最新版を利用することを前提としています。いずれの書籍もオンライン www.randa.org。(日本語版は www.jga.or.jp)で閲覧することもできます。競技運営ガイダンスを含め、これらの書籍の中で人に関連して用いられている性別は両性を含むと理解されます。

第 2 章 競技の条件

1. 通 則

ゴルフ規則では委員会とは「競技を管理する委員会」と定義しています。また、規則 33-1 では「委員会は、競技規定を作らなければならない。」と規定しています。

しかしながら、何よりもまず、競技運営のすべての事項を管理することになる委員会を指定しなければなりません。さらに、規則紛議、プレーの中断などの事項に裁定を与える委員会のメンバーの権限を明確にしなければなりません。予め定められた委員会がないと、うまく組織化された競技を運営することが難しくなります。

倶楽部レベルでは、倶楽部内に異なる委員会があるかもしれません。ゴルフ競技を運営する委員会は特定されなければならない、その委員会のメンバーだけが競技に関する裁定を行なう権限を有するべきです。よく委員会が委員会の運営義務を倶楽部プロやスターターに引き渡すことがありますが、それらの個人は自動的に委員会のメンバーとはならず、したがって、その倶楽部プロやスターターの役割を明確にし、委員会に代理して裁定を行なう権限(スタート時間を変更の承認、プレーの中断など)を有しているのであれば明記することを勧めます。

競技の条件は競技を構築するうえでの基礎であり、とりわけ、誰に参加資格があるのか、どのように申込するのか、どの形式でプレーが行なわれるのかを明記します(The Open Championship エントリーフォームのコピー参照—付属 A)。

タイが生じたり、プレーヤーのプレーしている球が公認球リストに掲載されていなかったりなど、起きる可能性のあるすべての状況に委員会が対応できるようにこの条件は競技の前に制定されることが重要です。

委員会が制定した条件を説明することはその委員会の責任であり、したがって、その条件は明確で、ある状況が生じたときにどのような行動をとるべきかについての的確なガイダンスを与えるものであるべきです。

2. 参加資格

まず、委員会は誰が競技に参加できるのか(男性、女性、ジュニア、シニアなど)を決定しなければなりません。

ハンディキャップの制限もあるかもしれません。一般的に、競技には参加人数の制限があり、委員会は受け入れることのできる人数以上の申込みを受けた場合の手続きを決めておかなければなりません。「先着順」を採用することもできますし、代案として、委員会は最も低いハンディキャップのプレーヤーを受け入れることもできます。この場合、委員会は最も低いハンディキャップを決定するために正確なハンディキャップ(つまり、小数点第 1 位)を採用するか、プレーイング・ハンディキャップ(つまり、整数)を採用するかを決めなければなりません。

参加を年齢で制限する場合、年齢に関するすべての条件を明確にしておくべきです。ジュニア競技では、参加は競技が開催される年の1月1日までに18歳に達していない選手に制限されるべきことが勧められます。他の年齢制限(例えば、ミッド・アマチュア、シニア競技)については、競技の初日までに制限年齢に達していなければならないことが勧められます。しかしながら、他の日限を採用することも可能です。

3. 参加申込

委員会はプレーヤーがどのようにして競技に参加申込をするのかを決定しなければなりません。地区や国のイベントでは、プレーヤーが申込書を完成させ、期日までに委員会に届けなければならないのが通常です。ほとんどの場合、参加費は申込書に添付しなければなりません。

委員会は郵便でのみ申込みを受けるのか、ファックスや E-mail などの他の方法でも受けるのかを決定しなければなりません。クレジットカード以外では参加料を同封できないということになると参加申込の管理に影響を与えることになります。

倶楽部競技での参加申込は期日までに紙に名前を記入することによって行なうか、あるいは単純に、競技当日にコースに来てプレーの意思を示すことによって行なうことができます。このようなあまり公式ではない参加方法であっても、委員会は明確な手続きのガイドラインを制定し、正しい手続きが採用されなかった場合、どのようになるのかについて規定しなければなりません。例えば、競技当日にスタート時間を決めるためにプレーヤーが名前を記入することによって競技に参加申込できる場合、プレーヤーはそのスタート時間に限定されるのか、あるいはその後に変更できるのかということです。このような場合、委員会はプレーヤーが一度スタート時間に名前を記入したら、そのスタート時間は委員会によって決められたスタート時間であり、委員会の承認なしには変更することはできないという規定を定めることを勧めます。

4. 形式

多くの競技は伝統的な形式で行われます。一方、新しいイベントを作る委員会は採用したいと考えるプレーの形式を決めなければなりません。

(a) マッチプレー

競技がマッチプレーでプレーされる場合、マッチプレーをシングル、スリーサム、フォアサムあるいはフォアボール・マッチプレーとすることができます。また、スクラッチ、またはハンディキャップ付とすることもできます。

競技がハンディキャップ付でプレーされる場合、委員会は与える許容ストローク数(例えば、プレーヤー一間の差のすべてなのか、3/4 なのか)を決めなければなりません。

マッチプレーの参加人数を決める方法は様々です。参加者を特定の数に制限したり、マッチプレーに進出するためのストロークプレー予選競技を行ったり、あるいは委員会はすべての申込者を受け入れ、組み合わせ方式にしたがって組み合わせを作することもできます。

参加者数を制限したい場合、通常、参加者数はすべてのプレーヤーがそのイベントに優勝するまでに同じ数のマッチをプレーしなければならない数にするべきで、したがって、総参加者数は 64 名、128 名、256 名のプレーヤーまたはチームとなるのが一般的です。

ストロークプレー予選競技を行う場合、委員会は通常、予選通過者を 16 名、32 名、64 名に設定します。このようなイベントでは、どのように最後の予選通過枠のタイを決定するかを委員会は前もって決定していくことが不可欠です。例えば、ホールバイホールのプレーオフか、マッチングスコアカード方式か、あるいは委員会は第 1 ラウンドへの進出者を決定するための予備ラウンドを決定することもできます。

必要な予選通過者の人数が決まったら、委員会はマッチプレーの組み合わせを作らなければなりません。ストロークプレー予選競技を行った場合、「順位による組み合わせ方式」が勧められます。この方式では予選のスコアの順に、例えば、最少スコアの予選通過者には 1 番、2 番目の予選通過者数には 2 番などというようにプレーヤーに番号が与えられます。

マッチの組み合わせの場所を決定するために、最後の予選通過者の場所を除き、予選ラウンドのタイの者の場所はスコアを提出した順番によって決められるべきです。つまり、最初に提出されたスコアに最少の番号が与えられます。スコアが提出された順番によって決めることができない場合は、タイはクジによって決定すべきです。

ストロークプレーの予選競技で 1 番、10 番の両方からプレーヤーをスタートさせている場合は、タイについてはクジを使用することを勧めます。

予選通過者が 8 名、16 名、32 名、64 名のイベントの組み合わせ表については、ゴルフ規則の付属 I (C)12 をご参照下さい。

組み合わせを完成するのにプレーヤーの数が足りない場合、予選競技でのスコアが少ない順に不戦勝が与えられます。不戦勝が 1 つの場合は 1 番のプレーヤーが不戦勝となり、2 つの場合は、1 番と 2 番のプレーヤーが不戦勝となります。

注目すべきは、ストロークプレーの予選競技があるマッチプレー競技の一部では、前回優勝者に予選を免除していることです。これは委員会の決定事項ではありますが、予選はその競技の 1 つの本質的な部分でもあるので、そのような慣例は勧められません。

(b) ストロークプレー

競技がストロークプレーでプレーされる場合、ストロークプレーをシングル、フォアサムあるいはフォアボール・ストロークプレーとすることができます。また、ステーブルフォードあるいはパー/ボギー競技とすることもできます。

委員会は何ラウンドをプレーするのか、競技のどの段階で参加者を減らすのか、スクラッチ、ハンディキャップイベントなのかどうかを決めなければなりません。

競技がハンディキャップ付の場合、委員会はそれぞれのクラスで賞品が授与される異なるハンディキャップクラスを設けることができ、その結果、同じレベルの技量を持つ競技者達で競うことができます。委員会はそのようなクラスを前もって決めることができますし、参加申込後に参加者総数に応じて各ハンディキャップクラスに偏らずに分けることもできます。

(c) 他のプレー形式

委員会は、グリーンサムや4人のプレーヤーのベストボール、あるいは「スクランブル」といったゴルフ規則では扱っていないプレー形式の採用を決定することができます。これらのゴルフ形式は規則の中で具体的に承認していませんので、委員会はこれらのイベント特有の規則や条件を制定しなければなりません。例えば、「スクランブル」の場合、委員会は、インプレーの球でないプレーヤーの球をストロークが行われる箇所にとどのように、どこにドロップあるいはプレースするのかを決めておく必要があるでしょう。さらに、委員会はこのような競技で生じるすべての質問に回答するための準備をしておかなければなりません。なぜなら、R&Aは規則で扱っていない形式で生じた質問に回答することができないからです。

5. スタート時間と組み合わせ

ゴルフ規則 33-3 に基づいて、委員会はスタート時間を決定し、ストロークプレーの場合には組み合わせを作成する責任があります。しかしながら、マッチプレーでもストロークプレーのいずれの場合も委員会はプレーヤーが自身でスタート時間を決定することを認めることができます。また、ストロークプレーでは、組み合わせをプレーヤー自身が決めることを認めることができます。

(a) スタート時間

倶楽部マッチの多くは、委員会がスタート時間を決定せずに、マッチの編成をプレーヤー達に任せます。このことは問題とはなりません。しかしながら、委員会は各ラウンドをいつまでにプレーしなければならないかを決める必要があります、これらの時限には厳しい強制力があることが重要です。委員会はマッチのどちらのプレーヤーがプレー日時を決める責任があるのかについても規定すべきです。そして、もし、マッチが規定の日時までにはプレーされなかった場合、委員会はどちらのプレーヤーを次へ進めるのか、両者とも競技失格とするのかどうかを決める方法を持つておくべきです。このことは委員会にとって難しい問題となります。条件を厳格で一貫して実施することはこのような競技を適切に組織するために重要なことです。

理想としては、マッチプレー、ストロークプレーに関わらず、競技の各ラウンドは決まった日時にプレーし、その場合は委員会がマッチプレー、ストロークプレーのスタート時間を決定し、またストロークプレーの組み合わせを決定するのが一般的です。できることなら、委員会は競技の前にスタート時間と組み合わせをプレーヤー達が入手できるようにしておくべきです。しかしながら、ストロークプレー競技で予選カットがある場合は必ずしもそれが可能というわけではないでしょう。

予選カットがある場合、いつスタート時間と組み合わせを入手できるようになるのか、あるいはこれらに関する情報がどこに掲示されるのか、できれば、選手が連絡をとる電話番号(いつまでその電話番号が通じるかを含め)をプレーヤーに知らせておくべきです。電話を受ける人はどのプレーヤーがスタート時間を知っているかを識別できるように組み合わせ表に電話があった選手に目印をつけておくこ

とを勧めます。プレーヤー達がそのイベントでプレーするために移動している場合は Email を利用したり、宿泊先のホテルに組み合わせ表を FAX したり、見やすい場所に掲示したりすると良いでしょう。

適切なスタート間隔は十分なプレーのペースを実現するうえで重要な要素です。マッチや組の間隔が不十分な場合、各組のプレーヤーは前の組がドライビングエリアやパッティンググリーンからいなくなるのを常に待たなくてはならなくなります。その結果、プレーヤー達はリズムを失い、不必要に長い時間コースにいることになってしまいます。委員会は短い期間にできるだけ多くのプレーヤーをコースに入れるため、あるいは最後のスタート時間がその日の遅くなることを避けるために短い間隔を使用するという過ちをしばしば犯します。

しかしながら、このようにすると、ラウンドは必要以上に時間がかかり、プレーヤーやオフィシャルにフラストレーションを感じさせるという逆効果を生みます。スタート時間に関するさらなる情報はガイドンス本の中の「ペースオブプレー」の項をご参照下さい。

委員会はアウト・インの両方のティーからスタート(two-tee start)させることができます。このスタート方法はより多くのプレーヤーをより早くコースに出すことができるので、多くの参加者がいる場合に有効です(two-tee start のシートの例は付属 B 参照のこと)。

(b) 組み合わせ

委員会はストロークプレーで組み合わせを決めますが、組は通常 2 名、あるいは 3 名となります。4 名でのプレーは、プレーのペースに有害な影響をもたらす可能性があるため勧められません。72 ホール競技で予選カットをしなければならない多くの参加者がいる場合、大抵、最初の 2 ラウンドは 3 人組で、後の 2 ラウンドは 2 人組でプレーされます。通常、最初の 2 ラウンドは同じ組で、1 日は早いスタート時間、もう 1 日は遅いスタート時間となります。

第 3 ラウンドでは、組み合わせは 36 ホール後の競技者のスコアに基づくのが慣例です。競技者が偶数の場合、スコアの多い競技者からティーオフしていき、最後に 1 位の競技者と 2 位の競技者がティーオフします。競技者が奇数の場合、最もスコアの多い競技者に 1 人でプレーするか、ノン・プレーイングマーカあるいはプレーイングマーカを同伴させるかを選択させるか、委員会がどちらかを決めることができます。

第 4 ラウンドは 54 ホールのスコアに基づいて同様の手続きが適用されます。同じスコアのプレーヤーの組での順番を決める場合、通常、前のラウンドのスコアが最も少ないプレーヤーが後にプレーします。プレーヤーの総スコアが同じで、かつ前のラウンドのスコアも同じである場合は、通常、最初に前のラウンドのスコアを提出したプレーヤーが後にスタートすることになります。

多くのアマチュア競技では、競技者は 1 日 36 ホールをプレーします。このような場合、委員会はラウンドとラウンドの間でプレーヤーが休憩するための十分な時間を考慮すべきです。委員会は各組が 1 ラウンドを終える時間を決め、その時間に 1 時間を加えた時間を第 2 ラウンドのスタート時間とすることを勧めます。このことは、ラウンドが予定よりも遅れたとしても、ラウンド間に十分な時間がまだあることを意味しています。

マッチプレー競技では、1日に2つのマッチをプレーする場合があります。もし、早いマッチが結果決定のためにエキストラホールに行く場合、その勝者は次のマッチまで少しの時間しかなくなってしまいます。このような状況は一般的でなく、委員会は前もってそのようなケースでマッチとマッチの間にプレーヤーに与える最小限の時間を決めておくべきで、例えば、委員会はプレーヤーがマッチの結果を報告して次のマッチをスタートするまでに15分の時間を与えることができます。言うまでもなく、スタート時間と組み合わせの順番の変更を要する可能性があります、その日の最初のマッチでエキストラホールをプレーしたためにプレーヤーが不利益を受けることは合理的であるとは思われません。

「プレーヤーは、委員会が決めた時間にスタートしなければならない」と規定している規則 6-3 によって定められた時間どおりにスタートすることができない場合、規則違反の罰は競技失格となります。しかし、規則 6-3 注では次のように規定しています。

「規則 33-7 に決められているような競技失格の罰を免除する正当な事情がなくても、プレーヤーが自分のスタート時間後 5 分以内にプレーできる状態でスタート地点に到着したときは、委員会は遅刻の罰を競技失格とはせずに、マッチプレーでは最初のホールの負け、ストロークプレーでは最初のホールで 2 打とすると、競技規定(規則 33-1)で決めておくことができる。」

この条件はすべての R&A 選手権競技で制定されています。しかしながら、この条件を効率よく適用するためには、ティーで遅刻を記録し、適切な行動をとるために指名されたスターターがいる必要があります。

スターターが委員会の実際のメンバーでない場合、ティーで遅刻があった場合にはスターターが委員会に報告して委員会が適切な措置をとることを指示すべきです。そのような状況では、スターターではなく、委員会が罰を課すことについてプレーヤーと話しをするべきなのです。5 分間の条件が制定されている場合、あるプレーヤーがスタート時間に到着していないときは、その組の他のプレーヤーを 5 分間その場で待たせておくことを勧めます。

スタートする組のすべてのプレーヤーはプレーの順番に関係なく、委員会が決めたスタート時間にプレーする準備をしてその場になければならないことに注意をしなければなりません。したがって、ある組のスタート時間が 9 時 00 分であった場合、プレーの順番が 3 番目のプレーヤーであっても、9 時 01 分に到着したとすれば、そのプレーヤーは規則 6-3 に違反することになります(裁定 6-3a/2 参照)。さらに、スタート時間が午前 9 時 00 分の場合、そのプレーヤーが 9 時 00 分 45 秒に到着すると遅刻したことになります(裁定 6-3a/2.5 参照)。

6. ハンディキャップ

ゴルフ規則ではハンディキャップの配分や調整に関して規定していません。また、R&A はどのようなハンディキャップスキームも管理していません。これらの事項は競技が行なわれる国のユニオン、協会、連盟の管轄事項であり、ハンディキャップに関するすべての質問はそれに従って案内されるべきです。

競技がハンディキャップに基づいてプレーされる場合、採用されるプレー形式に対してハンディキャ

アップ許容差を指定するのは委員会の決定事項となります。各国ユニオン、連盟、協会は、ハンディキャップシステムの一環として、様々なプレー形式に関する許容差と、それらの競技に関する手続きのガイドラインを示すことができます。しかしながら、あるクラブがそうした許容差を強制することになっている国のユニオンに加盟している場合、そうした条件を決定するクラブの権利を事実上国のユニオンに付託しているため、そのクラブはこうした条件を遵守すべきです。

すべてのハンディキャップストロークの計算において、小数点以下は四捨五入します。

ある期間にわたってマッチプレー競技が行われる場合、委員会は競技開始時、あるいは各マッチの開始時のいずれの時点での最新のハンディキャップを適用するのかを競技規定の中に明記すべきです。後者が一般的です。ストロークプレーのプレーオフでは、最後のラウンドに対して適用されるハンディキャップ(プレーオフの時点でのハンディキャップではなく)が適用されるべきで競技規定でこのことを明確にしておくべきです。36 ホールストロークプレー競技では、そのイベントの間はハンディキャップを変更しないことを勧めます。

36 ホールのハンディキャップ付マッチプレーでは、ストローク数は委員会が別途ストロークインデックスを導入しない限り、18 ホールストローク・インデックスにしたがって2つの18ホールラウンドに基づいて与えられるべきです。

一般的にハンディキャップストローク数を受けるプレーヤーはスコアカードに指定された順番で受けなければなりません。例えば、ハンディキャップ14と11のプレーヤーでは、3つのストロークを受けるプレーヤーはハンディキャップが割り当てられた最初の3つのホールで受けることができます。

7. タイの決定

規則 33-6 では「**委員会**は、ハンディキャップ競技であるかどうかにかかわらず、ハーフのマッチやストロークプレーでのタイの順位を決定する方法と実施の日時を、前もって知らせておかなければならない。」と規定しています。このような決定は競技の前に行なわれ、競技規定に明記されることが必要です。タイの決定について推奨される方法はゴルフ規則付属 I (C)に記載されています。

その競技の次のステージのための予選競技があるストロークプレー競技では多くの競技者が最後の予選通過順位でタイとなるのは珍しいことではありません。ジ・オープンの地区予選や最終予選ではまさにそういう状況が起きやすく、予選通過者を決定するためにホール・バイ・ホールのプレーオフが用いられると競技規定に定められています。

ストロークプレーのプレーオフで1組を何人とするかを規定する規則はありませんが、通常5人を超えないことが勧められます。

したがって、プレーオフに7人の競技者がいる場合、委員会は3名と4名の組に分け、前のラウンドを最初に終えた順でティーオフさせるべきです。

例えば、7人の競技者が4つの枠を競うホール・バイ・ホールのプレーオフは次のように運営します。

A,B,Cから成る第1組は1ホール目をプレーし、それからD,E,F,Gから成る第2組が1ホール目をプレーするのを待ちます。1ホール目のスコアはA,C,Fは4打、B,D,Gは5打、Eは6打でした。この結果に基づき、A,C,Fは枠を獲得し、Eは排除され、B,D,Gは残りの1つの枠のためにプレーオフを続けなければなりません。

プレーオフが2人だけで行われる場合でもストロークプレーの規則に従って行います。規則 33-6では「ハーフのマッチをストロークプレー競技で決めたり、ストロークプレーのタイをマッチで順位を決めてはならない」と規定しています。プレーオフの競技者はスコアカードが委員会によって発行された場合は、スコアカードを提出しなければなりません(裁定 33-5/1)、しかし委員会がスコアを管理する者を指名すればスコアカードを発行する必要はありません。

ストロークプレーのプレーオフでは、委員会はプレーヤーがプレーオフの目的について、また何のためにプレーしているのかを正確に知るよう努めなければなりません。例えば、ジ・オープン・のローカル最終予選で5人のプレーヤーを伴うプレーオフは、選手権への1つの枠と1つの予備枠(ウェイトティング)だけを競うものであります。



委員会は競技に先立って、タイの決定方法を決めておかなければなりません。

The Open Championship では4ホールでのプレーオフが採用されています。

8. 賞

委員会は競技で授与される賞を前もって公表しておくべきです。競技規定には1人のプレーヤーがスクラッチ競技、ハンディキャップ付競技の両方で賞を受ける場合についても規定しておくべきです。

アマチュアゴルファーが競技に参加する場合、委員会はアマチュア資格規則に抵触することなくアマチュアゴルファーが受けることができる賞に関する規定に注意しなければなりません。委員会はアマチュア資格規則やアマチュア資格規則裁定を簡潔に参照すべきです。

アマチュアゴルファーに対する賞金は金額に関わらず認められません。賞金がアマチュアに用意されている競技で、アマチュアが賞金を受け取る権利を前もって放棄しなければ、その競技でプレーしただけでアマチュア資格規則に違反することに注意しなければなりません。そのような賞を受賞しなかったり、受け取らなかったとしてもアマチュア資格規則に違反するのです。スイープステークスの場合は違います。これは、ギャンブルの形式で、プレーヤーが自発的に参加するのであれば認められます。そうでなければ、参加者はアマチュア資格規則の目的と精神に反する行動をしているものとみなされるでしょう。

アマチュアゴルファーは500ポンド(日本では75000円)を超える賞品、あるいは賞品券を受け取ることはできません。この限度額は同じイベントで獲得する賞品、あるいは賞品券の合計に対して適用されます(ただし、ホールインワン賞は除く)。ホールインワン賞についても同じ限度額が適用されますが、ホールインワン賞は同じイベントで獲得する他の賞に加えて受け取ることができます。

アマチュアゴルファーは、特定の状況(アマチュア資格規則4参照)を除いて、ゴルフ競技に参加するための旅費を賞として受け取ることはできません。

ゴルフ競技と同時におこなわれる慈善などを目的としたくじ(以下ラッフルとする)や賞品の抽選(以下クジとする)は次のことを条件にアマチュア資格の問題とはなりません。

- (a) 真正なクジであること
- (b) 相当数の人が参加できること
- (c) そのクジへの参加がゴルフの技術を要件としないこと
- (d) 賞に関する規則の裏をかく口実のものでないこと

以下はアマチュア資格規則で認められないラッフル、クジの例です。

- (a) ラッフルやクジへの参加がイベントに参加するローハンディキャップゴルファーに限定されるもの
- (b) ラッフルやクジへの参加がイベントに参加してホールインワン、ロングスト・ドライブ、ニヤレスト・ザ・ピンなどを達成したプレーヤーに限定されるもの

上記2例はゴルフをプレーすることが、ラッフルやクジへの参加を認める要件となっています。したがって、アマチュア資格規則が適用となり、アマチュアゴルファーは規定の限度額を超えた小売価格のラッフルやクジといった賞を受け取ることはできません。

9. 練習

規則 7-1 では、マッチプレー競技の行われる当日のラウンド前にその競技が行われるコース上でプレーヤーが練習することができますが、ストロークプレー競技ではストロークプレー競技の行われる当日のラウンド前やプレーオフの前に競技者が練習することはできず、また、球を転がしたり、表面をこすったり、引っかいたりすることによってコース上のパッティンググリーンをテストをしてはならないことを規定しています。しかし、規則 7-1 注では次のとおり規定しています。

注：委員会は、競技規定(規則 33-1)の中で、マッチプレー競技の行われる当日の、競技の行われるコースでの練習を禁止すること、逆に、ストローク競技の行われる当日やラウンドとラウンドの間の、競技の行われるコースやそのコースの一部(規則 33-2c)での練習を許すことができる。

したがって、規則 7-1 に優先する条件を制定することができます。

連日にわたってプレーする参加者の多いマッチプレー競技では、グリーンスタッフ(コース管理)が途切れることなくコースの準備をするための十分な時間を確保するために競技当日の練習を禁止することが望ましいでしょう。

倶楽部に練習施設がなくストロークプレー競技の競技者が練習のためにコースの一部を使用することを認める必要があるかもしれない場合はこの競技規定を制定しなければなりません。倶楽部の練習場がコースの境界内にある場合、競技規定でストロークプレー競技の行われる当日にその区域での練習を認める必要が特にあるでしょう。さらに、練習区域として限定されるスペースを最大限活用するために、委員会は球を打つことができる区域やプレーの方向を明確に表示しておくことが望ましいでしょう。

10. 適合ドライビングクラブリスト

R&A は審査されてゴルフ規則に適合であることが分かったドライビングクラブヘッドを掲載した適合ドライバーヘッドリストを定期的に発行しています。規則 4-1 注では次のとおり規定しています。

注：委員会は、プレーヤーが持ち運ぶドライバーは R&A によって発行された最新の適合ドライバーヘッドリストに掲載されているクラブヘッド(モデル及びロフトによって識別される)を持つものでなければならないと競技規定(規則 33-1)で定めることができる。

委員会がプレーヤーに、リストに掲載されているモデルとロフトによって識別されるクラブヘッドを持つドライバーの使用を限定したい場合、リストを利用できるようにしておくべきです。リストは R&A のウェブサイト(www.randa.org)で閲覧できます。

この競技の条件は通常、エリートレベルのエキスパートプレーヤーに関わる競技に対して制定されるもので、倶楽部レベルでの競技においてこのような条件を制定することは勧められません。

リストを採用しない場合でもプレーヤーのクラブは規則 4-1 と、ゴルフ規則付属 II 4 の規定、規格、解釈に適合しなければなりません。

この競技の条件の文言参考例はゴルフ規則付属 I (C)1.a に収録されています。

11. 公認球リスト

R&A はテストされてゴルフ規則に適合であると分かった公認球のリストを発行しています。このリストはR&A のウェブサイト(www.randa.org)で閲覧できます。規則 5-1 注では次のとおり規定しています。

注：委員会は、プレーヤーの使用球は R&A 発行の公認球リストに載っている球でなければならないと、競技規定(規則 33-1)で定めることができる。

このような条件が実施されている場合、違反の罰は競技失格となります。

このリストは通常、アマチュアとプロフェッショナルイベントに対する国や地区レベルのエキスパートプレーヤーに関わる競技について制定されます。一般的に、この条件を倶楽部競技に制定することは勧められません。この競技の条件の文言参考例はゴルフ規則付属 I (C)1.b に収録されています。

このリストが採用されていない場合は個々の球が違反であるとの強い証拠がなければ規則に適合しているものとみなされます。これには、例えば「クロスアウト球」や「再生球」といった公認球リストに掲載されていない球を含みます(裁定 5-1/4)。しかしながら、プレーヤーがゴルフ規則付属Ⅲに記述されている規格に明らかに合わない球を仕様した場合、そのプレーヤーは競技失格となります。

12. ワンボール条件

委員会は、プレーヤーは同じブランド、タイプの球を使用しなければならないとする競技の条件を制定することができ、その場合、プレーヤーはブランド名を変更することはできないし、同じブランドの他のタイプの球に取り替えることもできません。この条件はエリートレベルの競技においてのみ採用することを勧めます。R&A は現在どのアマチュア競技でもこの規定は採用していませんがジ・オープンでは採用しています。この規定の参考例は、ゴルフ規則の付属 I (C)1.c に収録されています。

13. キャディー

ゴルフ規則は誰をキャディーとするかについて制限を設けていません。しかし、委員会は競技の条件でキャディーの使用を禁止したり、制限したりすることができます(規則 6-4 注参照)。

しかしながら、規則は明確にプレーヤーがキャディーを使用することを認めていますので、一般的には委員会がその使用を禁止するといった条件を制定することは勧められません。そうであっても、いろいろな理由から、ジュニア競技においては委員会がキャディーの使用を禁止したり、制限したりするのが通常です(例えば、親をキャディーにはいけないなど)。さらに、ある競技においては、プロフェッショナルゴルファーがキャディーとなることを禁止することが適切だと考えられる場合があります。

14. ゴルフカート

競技中にゴルフカートを使用すること(つまり乗用カートに乗ること)は競技の条件でゴルフカートの使用を明確に禁止していなければ認められます。委員会がゴルフカートの使用を禁止する条件を制定

したい場合は、ゴルフ規則の付属 I (C)9 の文言参考例が勧められます。

このような条件で、委員会がプレーのペースの援助となるためにプレーヤーにカートの使用を委員会
が認めることまでを禁止するべきではありません。例えば、プレーヤーが別の球をインプレーにする
ために前のストロークの場所に戻る場合です。

R&A は身体的障害のあるゴルファーにできるだけゲームをプレーしてもらいたいし、カートの使用は
そのことに大きな貢献をするだろうという方針を持っています。委員会はカートの使用を取り巻く問
題、身体障害の関連法規その他の法律上の問題を考慮することが重要です。委員会が、競技における
ゴルフカートの使用を禁止することを決定し、そのことが身体障害者の不利益となる場合、委員会は
そのような決定をするための正当な理由があることを説明しなければならないでしょう。そのような
理由には、健康、安全面での配慮、天候、地面の状態、あるいはカートの使用が合理的でないことを
裏づけるコースレイアウトなどが含まれるでしょう。

委員会がゴルフカートの使用を認める場合、その使用に制限を設けたい場合もあるでしょう。例えば、
ゴルフカートは診断書を持つ競技者に対して、あるいはカートの使用を認めないと年齢による身体的
制限のため参加することができないというある年齢以上の競技者に対してのみ認めるというような場
合です。

これは、競技を管理する委員会が決定して、別途法的な立場を説明する事項となります。さらに、委
員会がゴルフカートの使用を認める場合、コース上での事故の結果生じる怪我や死亡を担保する適切
な保険をかけておくことが賢明です。



委員会は、他の球をインプレーにするために戻るプレーヤーにカートの使用を認めることができます。

15. ティーム競技でのアドバイス

規則 8 注では次のとおり規定しています。

注：委員会は、ティーム競技の競技規定(規則 33-1)の中で、各ティームがそのティームのメンバーにアドバイス(パッティングラインの指示を含む)を与えることのできる人を 1 人指名することを許すことができる。また、委員会はそのような人の指名手続きやその人に許される行為についての規定を設けることができる。なお、アドバイスなどを与えることのできる人の氏名は、前もって委員会に届け出ておかなければならない。

指名された人がティームのプレーイングメンバーである場合、その人が正規のラウンドを実際にプレーしている間は(パートナーに対して以外は)アドバイスを与えることはできません。その人がプレー前や自分のラウンドを終了した後であれば他のティームメンバーにアドバイスを与えることができます(裁定 8/2)。

委員会はティームキャプテンの指名について制限を設けることができます。例えば、キャプテンはそのティームのプレーイングメンバーでなければならないとか、アマチュアゴルファーでなければならない(裁定 8/1)との規定をすることができます。加えて、そのような人の行動を制限することもできます。例えば、キャプテンがパッティングラインを示すことを制限するためにキャプテンはパッティンググリーン上には立ってはならないという条件を設けることがあります。

また、委員会はキャプテンがマッチ、あるいは競技者サイドの一部であり、局外者ではないという条件を採用することができます。このような条件はプレーヤー、あるいはある状況下では、ティームに対して、キャプテンによる規則違反の責任を負わせることとなります(裁定 33-1/11.5)。

第3章 ローカルルール

1. 通則

規則 33-8 では次のとおり規定しています。

a 制定の方針

委員会は、付属規則 I と付属規則 IV に示す方針と矛盾しないものであれば、地域的な異常な状態に対応するためローカルルールを作ることができる。

b 規則の無視や修正

ローカルルールによりゴルフ規則を無視したりしてはならない。地域的な異常な状態があつて、規則の修正ともなるようなローカルルールを作ることが必要とするほどに、ゴルフゲーム本来のプレーに支障をきたしていると委員会が考えるときは、委員会はそのローカルルールの制定につき日本ゴルフ協会の承認を受けなければならない。

一般的に、ローカルルールはコースの境界を明確にするため(例：コースの境界、修理地など)や、ゴルフ規則によって扱われていない地域的な異常な状況に救済を与えるために制定されます。ゴルフ規則の付属 I では推奨されるローカルルールの特別事項を提案しています。加えて、ゴルフ規則裁定集では規則 33-8 に基づいて認められるローカルルール、または認められないローカルルールについての詳細を記載しています。

委員会が制定したローカルルールの解釈を示すことはその委員会の責務であり、ローカルルールの適用や解釈について疑問が生じた場合に裁定を行なうのはその委員会の責任です。R&A ゴルフ規則委員会は、ローカルルールの案やゴルフ規則の修正を要するケースを検討しますが、ゴルフ規則付属 I によって扱われている以外のローカルルールについては解釈を示しません。

R&A と USGA の各規則書にはまったく同一の付属規則 I を掲載しています。したがって、委員会が付属規則 I に規定されているローカルルールの参考例を採用したいのであれば、単にゴルフ規則に言及するだけでよいでしょう。例えば、委員会がパッティンググリーンに近接する動かさない障害物についてのローカルルールの標準的な文言を採用する場合、そのローカルルールは次のようになるでしょう。

「パッティンググリーンに近接する動かさない障害物

ゴルフ規則書のローカルルール参考例を適用する(規則書付属 I (B)6 参照)。」

ローカルルールはストロークプレーのラウンドがスタートした後に追加したり、変更したりすることはできないことに注意しなければなりません。ラウンドしているすべての競技者は一定の規則のもとでプレーしなければなりません。しかしながら、できる限り避けるべきですが、複数のラウンドからなる 1 つのイベントの中で別のラウンドに対してローカルルールを変更することは認められます。トーナメントでのローカルルールの例については、付属 C を参照下さい。

2. アウトオブバウンズ

委員会がコースの境界を明確にするローカルルールを制定したり、境界の標示方法が他のホールと異なる場合にはそれを強調したりすることは必要でしょう。例えば、

「アウトオブバウンズ(規則 27-1)

1. コースの境界を標示しているフェンスや、白杭の線の外側
2. 18 番ホールで、クラブハウスを囲むコンクリート道路上やその外側」

2つのホールの間にあるアウトオブバウンズの杭が一方のホールにだけ適用される場合、どちらのホールに境界が適用されるのかをローカルルールで明確にすべきです。さらに、境界杭として適用されないホールをプレーしている間はその杭は動かさない障害物とみなされることをローカルルールで規定しておくことを勧めます(裁定 24/5)。

境界フェンスからの救済を受けることをローカルルールで認めることは、それがフェンスが損傷することを防ぐためであるとの委員会の理由があつたとしても、認められません。しかしながら、境界フェンスが電気フェンスである場合、特定の距離(例えば、2 クラブレンジス)に球を置く救済を規定するローカルルールは認められます。プレーヤーの安全を確保しなければならない状況では、プレーヤーはフェンスから 2 クラブレンジスを計測し、さらに 1 クラブレンジスのところでホールに近づかない場所に球をドロップすることができます。

ホールの境界を標示する道路がコース内にあり、球がその道路を越えて他のコース上に止まった場合、ゴルフ規則に基づけば、その球はインバウンズとなります(裁定 27/20 参照)。しかしながら、球がその道路上に止まった場合はアウトオブバウンズとなり、球が道路を転がって越えた場合ではなく、道路上に止まった場合には規則 27-1 に基づく罰を負わなければならないのは幾分不公平です。このような状況の場合、次のローカルルールの採用が勧められます。

「アウトオブバウンズと標示されている公道を越えた球は、球がその公道の向こう側のコース上に止まったとしても、アウトオブバウンズの球とする。」

球全体がアウトオブバウンズにある場合、その球はアウトオブバウンズとなります。したがって、球が境界を一度横切って、再び境界を横切ってコース上の同じ部分に止まった球をアウトオブバウンズの球とするローカルルールの制定は認められません。プレーヤーがドッグレッグをカットしないようにするそのようなローカルルールは受け入れられないゴルフ規則の修正となります(裁定 33-8/38)。

3. 修理地

「修理地」には委員会の指示によって修理地として標示されたコース上の部分も含まれます(定義「修理地」参照)。そのように標示された区域はローカルルールの中で明記すべきです。しかしながら、そのような標示は一時的なものであるため、倶楽部のスコアカードに明記すべきでなく、むしろローカルルールを掲示板に掲示すべきです。ローカルルールカードが選手権のために特別に作成される場合は、「修理地」とするすべての区域は参照されるべきです。例えば、

「修理地(規則 25-1)

青杭で標示された 8 番ホール左側の芝を張り替えた区域は修理地とし、規則 25-1b が適用となる。」

あるいは、修理地の標示をより一般的にすることもできます。例えば、

「修理地(規則 25-1)

白線で囲ったすべての区域は修理地とする。」

委員会が、どのようなプレーをすることも許さずに、ある区域を完全に保護したいと考えるのであれば、その区域を「プレー禁止の修理地」として宣言することができます。その場合、プレーヤーはその状態による障害があれば必ず救済を受けなければなりません。そのようなローカルルールの文言参考例は次のとおりです。

「修理地;(プレー禁止)

3 番ホール右側の青杭で表示されたナーセリーはプレー禁止の修理地とする。プレーヤーの球がその区域内にあるか、その区域がプレーヤーのスタンスや意図するスイング区域の障害となる場合、プレーヤーは規則 25-1 に基づいて救済を受けなければならない。

このローカルルールの違反の罰

マッチプレーでは そのホールの負け

ストロークプレーでは 2 打 」

修理地の区域からプレーを禁止する前に、その救済がプレーヤーにとって有効であるかを評価することが重要です。そのプレーヤーの救済のニヤレストポイントがブッシュや木の中や、その他のプレーが不可能な位置となる場合は、本来、通常のプレーが可能な区域からプレーヤーに救済を受けさせることは不公平となるでしょう。

修理地が人工の表面を持つ道路や通路（障害物）に近接している場合、ときに一つの状態から救済を受けた後、もう一つの状態からの障害が発生することがあります。その場合は別の障害として別のドロップをすることになります。これはやっかいで複雑でもあります（裁定 1-4/8 参照）。それゆえに、白線で修理地を道路や通路と一体に囲み、次のようなローカルルールの文言を勧めます。

「動かせない障害物(規則 24-2)

動かせない障害物と標示された区域に近接する白線の区域は修理地ではなく、その障害物の一部とみなす。」

バンカー全体が改造中の場合であってもその取り扱いがハザードであることは変わりありません。しかしながら、委員会は、改造期間中は、そのバンカーを修理地と標示してスルーザグリーンとして分類することを勧めます。そのようなバンカーがスルーザグリーンとして分類されずに修理地として標示された場合、プレーヤーは 1 打の罰のもとにバンカー外に救済を受けることしかできなくなります（規則 25-1b(ii)、裁定 25/13 参照）。



バンカー全体を改修中の場合、そのバンカーはスルーザグリーンの修理地とすべきです。

水浸しのバンカーに関して、委員会は、すべての水浸しのバンカーはスルーザグリーンの修理地とする、とのローカルルールを制定することはできません。そのようなローカルルールは規則 33-8b に違反してゴルフ規則によって課せられる罰を放棄するものだからです。しかしながら、極端な大雨の場合、競技を開始する前にある特定のバンカーが完全に水浸しとなり、競技中にはそのバンカーが乾く可能性がない場合、委員会はそれらのバンカーをスルーザグリーンの修理地とみなすローカルルールを制定することができます。これにより、規則 25-1b(i)に従って罰なしの救済を許すこととなります。このローカルルールの文言参考例は次のとおりです。

「バンカー(場所や標示方法でバンカーを特定する)は修理地とし、スルーザグリーンとして扱う。プレーヤーの球がそのバンカー内にあるか、プレーヤーのスタンス、意図するスイング区域が障害となる場合、プレーヤーは規則 25-1b(i)にしたがって、罰なしにそのバンカーの外に救済を受けることができる。コース上の他のすべてのバンカーは、カジュアルウォーターがあるかどうかにかかわらず、その取り扱いはハザードのままとし、その規則を適用することとする。

このローカルルールの違反の罰は
マッチプレー そのホールの負け
ストロークプレー 2 打の罰 」

大雨の結果、コースの多くの区域で異常な損傷（車の深い轍のようなもの）が生じ、杭や線でそれら損傷を標示することができない場合、以下のような文言でプレーヤーに告知することを勧めます。

「修理地には、観衆やその他の往来が湿潤状態と相まって地面に著しく影響を与える区域や、異常な損傷の区域を含む。ただし、委員会の委員によってそのように宣言された場合に限る。」

そのような告知がされていない場合でも、委員会によって権限が与えられていれば、委員会の委員は

異常な損傷を修理地として宣言する権限があります。しかしながら、告知をすることは異常な損傷からの救済が与えられるかもしれないということをすべてのプレーヤーに通知するという利点があります。



雨天や、車、観客による異常な損傷は委員会によって修理地と宣言することができます。

動物や機械によってもコースに異常な損傷が生じる場合があります。規則 25-1 では穴掘動物によって作られた穴からの救済は認めています。例えば、足跡やトラクターの車輪の轍からの救済は認めていません。このような状態からの救済が正当であると思われる場合、規則 25-1 と同じ条件に基づき認められるべきであり、その場合のローカルルールの文言は（それぞれの状況に合うように）以下のようになります。

「足跡（またはトラクターの車輪の跡）は修理地である（規則 25-1 を適用）。」

損傷(特に機械によるもの)が特定の区域に限定される場合、ローカルルールの適用もその特定の区域に限定することを勧めます。そのようなローカルルールは一時的なものであるべきで、倶楽部のスコアカードに含めるべきではありません。

規則 25-1 によって受けることのできる救済が、そのような状況において寛容すぎると委員会が判断する場合、プレーヤーのスタンスに障害が生じただけでは救済を認めないとすることができます（規則 25-1a 注参照）。例えば、暑くて乾燥した状況の中で、コースのフェアウェイにひび割れが生じていることもあるかもしれません。球がそうしたひび割れの上に止まった場合、球のライは深刻な影響を受けるかもしれませんが、プレーヤーのスタンスはこのような状況に妨げられることはありません。そうした状況では、委員会は次のようなローカルルールを採用したいと考えるでしょう。

「芝草を短く刈った区域の地面のひび割れ

芝草を短く刈り込んである区域の地面のひび割れは修理地である。プレーヤーの球がそのような

状況に止まった場合、またはプレーヤーの意図するスイングの区域の妨げになる場合、規則 25-1 の救済を受けることができる。

注：プレーヤーのスタンスに障害が生じただけでは救済は受けられない。」

規則 25-1 に基づく救済を制限するその他の例は、穴掘り動物や爬虫類、鳥によって作られた穴・吐き出したり、掻き出した土・通り道に関する場合です。こうした状況がコース上に蔓延している場合、委員会は以下のローカルルールを採用することで救済の事例を減らしたいと考えるでしょう。

「異常なグラウンド状態(規則 25-1a 注)

規則 25-1 に基づく救済は、スタンスが穴掘り動物や爬虫類、鳥によって作られた穴や、吐き出したり、掻き出した土・通り道からの障害に対しては受けることはできない。」

同様に、委員会は次のローカルルールを導入することによって新しい芝の継ぎ目からの救済を、ゴルフ規則付属 I (B)4.e に収録されているローカルルール参考例を制定して球のライや意図するスイング区域に対してのみに制限することができます。

4. 準環境保護区域

コース上の、あるいはコースに隣接した区域が、関係当局により準環境保護区域と指定され、その区域に立ち入ることやその区域からのプレーが禁止される場合、ゴルフ規則付属 I にある準環境保護区域のためのローカルルールの採用が勧められます。ゴルフ規則裁定集にある規則 33-8 に関するいくつかの裁定がこのローカルルールの解釈をさらに明確にしています。委員会がその区域を準環境保護区域として宣言することはできないことに注意することは重要です。宣言することができるのは関係当局(例えば、政府機関)だけです。

5. 若木の保護

多くのコースには委員会が保護したいと考える新しく植えられた木があります。若木を保護したい場合には何らかの方法(例: 杭やテープ等)でその木を識別するべきです。そして、ゴルフ規則の付属 I (B)3 に記載されているローカルルールが勧められます。

このようなローカルルールを導入するときは、木は動かさない障害物とみなされ、その枝や葉はすべてその障害物の一部であることに注意すべきです。

場合によっては、新しく植えられた木が互いに近接しているために、一つの木からの救済を受けることにより、自動的に他の木からの障害が発生することがあります。このような状況では、影響を受ける区域を「修理地」として指定し、プレーヤーがその区域の外側に救済を受けられるようにすることを勧めます。植えられた木の特定の側(たとえばプレーしているホールのフェアウェイ側)にのみ救済を受けられるように委員会が指示することは許されません。これは規則 25-1b を修正することになるからです。しかしながら、プレーヤーが木の間からプレーすることによって木に損傷を与えることになるために、規則 25-1b にしたがって処置することが実際的でないと考える場合、委員会は一つまたはそれ以上の指定ドロップ区域を設けることができます(後述第 3 章 9 項を参照)。



委員会が若木からの救済を認めるローカルルールを制定する場合は杭やその他の方法で標示すべきです。



保護を要する木々が近接している場合、修理地としてその区域を標示することが勧められます。

6. 地面にくい込んでいる球

規則 25-2 はスルーザグリーンの芝草を短く刈り込んである区域の自分のピッチマークにくい込んでいる球について罰なしの救済を認めています。しかしながら、地面が異常に柔らかく、ゴルフゲームの本来のプレーを妨げられると委員会が判断した場合には、委員会は臨時のローカルルールでスルーザグリーンのどこでも地面にくい込んだ球を拾い上げることを許すことができます。このローカルルールは短い期間のみとし、可能であれば特定の区域に限定することを勧めます。委員会は状況が正常なものとなり次第すぐにこのローカルルールを撤回しなければなりません。したがって、スコアカード等には印刷すべきではありません。

そのようなローカルルールの参考例はゴルフ規則付属 I (B)4 に収録されています。

7. プリファードライ/ウインタールール

コースの劣悪な状態や、ぬかるみを含む悪条件は特に冬季においては時々、一般的なものであり、委員会はコースの保護、あるいはフェアで楽しいプレーを促進するために一時的なローカルルールによって救済を与えることを決めることができます。プリファードライやウインタールールのローカルルールはそのような状態が無くなればすぐに撤回すべきです。このようなローカルルールの文言参考例はゴルフ規則付属 I (B)4c に収録されています。単に「プリファードライ/ウインタールール」を適用する、というだけでは十分ではありません。

8. バンカー内の石

定義上、バンカー内の石はルースインペディメントです。プレーヤーの球がハザード内にある場合、ハザード内にあるかまたはそれに接している石に触れたり、動かしたりすることはできません（規則 13-4）。しかしながら、バンカー内の石は、他のプレーヤーにとっても危険となる可能性があります（例えば、球をプレーしようとする際にプレーヤーのクラブに打たれた石によってプレーヤーが怪我をする）。また、バンカー内の石はゴルフゲーム本来のプレーを妨げてしまいます。

バンカー内の石を拾い上げることを許すほうが妥当と思われる場合には、ゴルフ規則付属 I (B)5 のローカルルールを実施すべきです。

9. パッティンググリーンに近接する動かさない障害物

規則 24-2 では動かさない障害物からの罰なしの救済を規定しています。しかし、パッティンググリーン上以外では、プレーの線上の介在それ自体はこの規則に基づいた障害ではないことも規定されています。

しかしながら、あるコースではパッティンググリーン周辺のエプロンが非常に短く刈ってあり、プレーヤーがパッティンググリーン外からパットをしたいと考えることがあります。そのような場合、エプロン上の動かさない障害物(固定スプリンクラーヘッドのようなもの)がゲームの公正なプレーの妨げとなり、動かさない障害物による介在から罰なしに追加の救済を規定するローカルルールの導入の正当な理由となるでしょう。このようなローカルルールの参考例は、ゴルフ規則付属 I (B)6 参照。

10. 道路と通路

定義「障害物」では「障害物とは人工の物をいい...ただし...委員会によりコースと不可分の部分に指定されているすべての構築物は除く」と規定されています。従って、委員会は人工の表面に覆われた道路または通路をコースの不可分の部分として宣言することができます。このことは、道路や通路から罰なしに救済を与えることがそのホール本来の特徴を損なうような場合にのみ勧められます。おそらくこの最も良い例はロードホールとして知られているセントアンドルーズのオールドコースの 17 番ホールでしょう。このホールのパッティンググリーン後方の道路はコースと不可分の部分となっています。

委員会が人工の表面に覆われた道路や通路の全てをコースと不可分の部分として扱いたい場合は、その主旨のローカルルールを制定しなければなりません、例えば、

「道路と通路

すべての道路と通路はコースと不可分の部分とする。球はあるがままにプレーするか、アンプレヤブルとみなさなければならない(規則 28)。」



St Andrews の The Old Course の 17 番ホールのように委員会は人工の表面を持つ道路をコースと不可分の部分と宣言することができます。

道路や通路に人工の側壁や縁がある場合、それらが上記ローカルルールのように規定されていなければ、動かさない障害物として扱うことになることに注意することが重要です。人工の側壁や縁をコースと不可分の部分とするためにはローカルルールの中でその縁に対して個別の規定を作成しなければなりません。カート道路に近接する排水溝はローカルルールでその動かさない障害物の一部とみなすことを勧めます。

上記のように、定義では、人工の表面で覆われた道路や通路は「動かさない障害物」であり、それらによる障害が生じた場合は規則 24-2b に基づいて救済を受けることができます。これらの障害物からの救済のニヤレストポイントが木の中、藪、厳しい傾斜となるような場合、それによって実際には救済となっていないことがあります。しかしながら、そのような状況は「異常」であるとは考えられないので、委員会が全てのケースにおいて道路や通路の指定された側への救済を規定するローカルルールを制定することは認められません。加えて、そのような問題を軽減するために指定ドロップ区域を設けることは適切ではありません(裁定 33-8/19)。

11. コースと不可分の部分

道路や通路に加え、委員会がコースと不可分の部分と宣言したい他の構築物があるかもしれません。

例えば、新設されたバンカーにはプラスチックの裏張りがある場合がありますが、定義上この裏張りは障害物となります。しかしながら、その裏張りがプレーヤーのプレーを妨げることはなさそうな場合には、委員会はプレーヤーにバンカー内で救済を受けさせないようにするためにその裏張りをコースと不可分の部分とするローカルルールを制定することができます。

逆に、境界を標示していない壁のような構築物はそのホールの特徴であって規則 24-2b に基づく救済を

認めることがそのホールの特徴を弱めてしまうことがあります。そのような状況では、委員会がその壁をコースと不可分の部分とすることを勧めます。例えば、

「壁

8 蕃と 13 蕃ホールの石垣はコースと不可分の部分とする。球はあるがままの状態プレーするか、アンプレヤブルとみなさなければならない(規則 28)。」

委員会は、全ての構築物は「障害物」(規則 24 に基づいて救済を受けることができる)か、「コースと不可分の部分」(球をアンプレヤブルとすることで罰打を払う以外に救済はない)のどちらかであるということに留意しなければなりません。ローカルルールで規則 24-2b に基づいて受けられる救済に対して罰を課したり、またアンプレヤブルの処置の罰を修正したりすることは認められません。



12. 臨時の動かさない障害物

ほとんどの競技ではコース上にテントやスコアボード、飲食スタンド、移動式トイレなどの臨時の動かさない障害物はありません。しかしながら、臨時の動かさない障害物がコース上にある場合には、臨時の障害物のローカルルール(ゴルフ規則付属 I 参照(B)7)が必要になります。臨時の動かさない障害物のローカルルールの適用についてのガイダンスは付属 D に収録されています。

13. 指定ドロップ区域

ゴルフ規則付属 I (B)8 に規定されているように、規則 24-2b または 24-3(動かさない障害物)、規則 25-1b または 1c(異常なグラウンド状態)、規則 25-3(目的外のグリーン)、規則 26-1(ウォーターハザード、ラテラル・ウォーターハザード)、規則 28(アンプレヤブル)にしたがって正しく処置することが不可能または実際的できない場合に、委員会は球をドロップすることのできる特定の区域を設定する権限を持っています。

例えば、パッティンググリーンの後方にラテラル・ウォーターハザードがあり、球が最後にそのハザ

ードを横切った地点からホールに近づかず、2クラブレンジ以内に球をドロップする区域が無い場合、プレーヤーが規則 26 によって処置することができないと委員会は判断するでしょう。このような状況では、委員会は指定ドロップ区域を設定して次のようなローカルルールを採用することができます。

「球が 13 番ホールパッティンググリーン後方のラテラル・ウォーターハザード内にあるか、その中で紛失したことが分かっているか、ほぼ確実な場合、プレーヤーは、

- (i) 規則 26-1 に基づいて処置するか、または
- (ii) 追加の選択として、1 打の罰のもとに指定ドロップ区域にドロップすることができる。

このローカルルールの違反の罰は
マッチプレーでは、ホールの負け
ストロークプレーでは、2 打

指定ドロップ区域に適用されるドロップや再ドロップに関する処置は付属規則 I (B)8 に要点がまとめられています。

指定ドロップ区域を設定する前に、委員会はそうした区域はプレーが集中することから損傷を受けるかもしれない、したがって古い区域がひどく損傷した場合には新しいドロップ区域を設定しなければならないかもしれないことを承知しておくべきです。そうしたことがあるので、ドロップ区域を設けることは必ずしも予想するような簡単な解決方法を与えてくれるとは限りませんし、委員会は指定ドロップ区域を設定する前にすべての可能な代替案を検討すべきです。

14. 距離計測機器

正規のラウンド中に距離計測機器を使用することはゴルフ規則の違反となります。しかしながら、規則 14-3 注では委員会がそのような機器の使用を認めるローカルルールを制定することを許しています。最終的には、このような機器の使用をコース上や競技において認めるかどうかは各委員会の決定事項となります。このローカルルールがなければ、そのような機器の使用は規則違反となります。

委員会が規則 14-3 注にしたがってローカルルールを制定する場合、ゴルフ規則付属 I (B)9 に掲載されている文言参考例をお勧めします。正規のラウンド中にプレーヤーのプレーに影響する可能性のある他の条件(例えば、傾斜、風速、気温など)を計測するためにデザインされた距離計測機器の使用は、そのような付属の機能を実際に使用したかどうかにかかわらず、認められません。

第4章 コースのマーキング

1. 通 則

競技に先立ち、委員会はコースが適切に、また完全にマーキングされていることを確実にする責任があります。委員会がコースの境界線とウォーターハザードの限界を正確に決め、修理地として扱う区域を明確にマーキングするために時間をかければ、厄介な規則上の問題が起こる可能性を低くすることになります。ゴルフコースを適切にマーキングすることはすべてのゴルファーが規則に忠実にプレーすることの手助けとなります。したがって、コースはゴルファーがそうしたマーキングとその意味に慣れるように、単に競技のためだけではなくいつもマーキングされているべきです。

2. アウトオブバウンズ

球がインバウンズにあるのか、それともアウトオブバウンズにあるのかといった疑いが起きないようにするために、コースの境界が明確に標示されることは必要不可欠です。プレーヤーがその区域に球を打ち込みそうもないと思って委員会が何も標示しないままにしておくと、いずれ競技中にコース上のその部分で境界に関する問題が起こることはまず間違いありません。

フェンスが境界を標示している場合、アウトオブバウンズの線は、フェンスを支える斜めの支柱を除いて、地表レベルでフェンスの支柱の最も内側の点によって決められます。斜めの支柱、あるいはワイヤがインバウンズに張り出している場合、張り出している部分は障害物となります。このような斜めの支柱やワイヤがある場合、プレーヤーが境界のフェンスから付随的な救済を得ないようにするために委員会はこれらをコースと不可分の部分としたいと望むこともあるでしょう。コース側に傾いていて境界線よりも内側にあるフェンスの一部は障害物ではありません。フェンスの支柱がコンクリートで固められている場合、コンクリートの土台は境界を示すフェンスの一部とみなされ、したがって障害物とはなりません。こうした状況では委員会は境界線の位置に関して明らかにしておくべきです（裁定 24/3 参照）。



境界の斜めの支柱はコースと不可分の部分と宣言できます。

例えば、委員会が境界を標示するのに地表レベルより上にあるコンクリートの土台を使用したいと思う場合、次のローカルルールを導入すべきです。

「アウトオブバウンズ(規則 27-1)

境界フェンスの支柱のコンクリートの土台はそのフェンスの一部であり障害物ではない。そのようなコンクリートの土台が地上にある場合、アウトオブバウンズは地表レベルでそのコンクリートの土台の内側の点によって標示される。」

アウトオブバウンズを標示するために杭が使用される場合、これらの杭は白く塗られるべきです。ア

ウトオブバウンズの境界は地表レベルでその杭の最も内側の点によって決められます。

杭と杭の間の距離はさまざまですが、球がアウトオブバウンズかどうかを決定するために、二つの杭の内側の点を結ぶ長い紐を使うことがあるので、最も重要なことは杭と杭の間が見通しがきいているということです。したがって、杭が藪や木、またはそのようなもので杭が不明瞭になっていないように確認することが重要です。用心のために、もし委員会の承認なしにその杭が動かされた場合に委員会はその杭がどこにあったか、またどの場所に戻せばよいか分かるようにするためにそれぞれの杭の根元に白く丸い印をつけておくとよいでしょう。



委員会は境界を白線で標示することができます。

アウトオブバウンズは地上の線によって標示することができ、そのような線は白く描かれるべきです。白い線自体はアウトオブバウンズとなります。線は境界の標示を確実に明確にします。しかしながら、地形によっては線を引くことが難しく、それを維持するのに多大な時間を要することになるでしょう。

アウトオブバウンズが壁で標示される場合、委員会はローカルルールで、壁の内側の表面が境界を標示しているのか、あるいは壁を越えた球のみアウトオブバウンズとするのかを明確にしておかなければなりません。

境界線が溝によって標示され、球が溝の中に入ったり、その溝を越えた場合にアウトオブバウンズとすることは珍しくはありません。境界そのものを標示するというよりは、境界の杭にプレイヤーの注意を引くように杭が使われる場合、杭は上部を黒色とする白色で標示されるべきです。そのような杭は境界を標示しないので、動かせる障害物となります。この点についてもローカルルールで明確にしておくべきです。

コース内の区域をアウトオブバウンズとして標示することが許されないというのは、よくある誤解で

す。しかしながら、管理地や練習場やクラブハウスなどをアウトオブバウンズとして標示することは例外的なことではありません。そのうえ、ホールの特性を維持するためや、隣接したフェアウェイにいるプレーヤーを危険から守るために二つのホールの上に境界を設けることが必要になることもあります。このケースの場合、境界の始まりと終わりについて疑問が生じないようにその始まりと終わりについて考慮することが重要です。開始/終了地点が自然でない場合(例えば、境界が分離して存在、コース上の他の境界と繋がっていない場合)、開始/終了の各杭がどの方向に際限なく伸びているのかを示すために、最初と最後のそれぞれの杭に直角に杭を 2 つ並べて設置する必要がしばしばあるでしょう。

ある特定のホールにおいて特定のストローク、例えばティーインググラウンドからのストロークに対してのみアウトオブバウンズの区域をつくることは認められません(アウトオブバウンズ、第 3 章参照)。

3. ウォーターハザード

ウォーターハザードの定義では、海、湖、池、川、溝、排水路その他の開きよ(水があるかどうかは関係ない)、およびこれらと同様のものをウォーターハザードとしています。しかしながら、ウォーターハザードには 2 つの形態があります。通常のウォーターハザードとラテラル・ウォーターハザードです。

この 2 つを区別する要素は、プレーヤーの球が通常のウォーターハザードの中に止まった場合、プレーヤーはハザードの限界を最後に横切った箇所とホールを結ぶそのハザードの後方線上にドロップすることが可能かどうかです(規則 26-1b 参照)。ウォーターハザードがこのようにドロップすることができない位置に配置されているか、または委員会がそうすることが非現実的と判断した場合には、そのウォーターハザードはラテラル・ウォーターハザードとなります。

ラテラル・ウォーターハザードの一般的な例として、水の流がホールと並行していて、ハザードの遠いほうの限界は樹木に覆われていたり、藪が非常に深かったりする水域があるでしょう。このような状況では事実上プレーが不可能な箇所に球をドロップしない限り、規則 26-1b にしたがって処置することはできません。その結果、そのハザードがラテラル・ウォーターハザードと標示されていないければプレーヤーはストロークと距離の罰をとるしかありません。



傾斜のある土手はラテラル・ウォーターハザードの限界内に含めるべきです。

ハザードのステータスが変わる場所には黄色と赤色の杭を抱き合わせて標示すべきです。

ほとんどの場合、ラテラル・ウォーターハザードの条件を満たす水域はそのように標示されています。しかしながら、定義「ラテラル・ウォーターハザード」の注 3 では委員会にそのようなハザードをウォーターハザードとして標示する権限を与えています。委員会は規則 26-1c に基づく処置が寛大過ぎて特定のホールの挑戦を損なうと感じた場合に、ウォーターハザードとして標示したいと考える場合もあるでしょう。

例えば、パッティンググリーンが湖の中の島の上にある場合、定義上、その湖の部分をラテラル・ウォーターハザードと標記されるケースがあるかもしれません。しかしながら、そうすると球がパッティンググリーンの端の限界を最後に横切ってこの湖に入ったプレーヤーが規則 26-1c に基づいてパッティンググリーン上に球をドロップすることができることになる場合があります。このような状況の場合、委員会は定義「ラテラル・ウォーターハザード」の注 3 に基づいて、その湖をウォーターハザードとして標示し、1 打の罰のもとにプレーヤーがドロップする指定ドロップ区域を設けることができます。これはストロークと距離の処置(規則 26-1a)以外にもう一つの選択をプレーヤーに与えることとなりますが、プレーヤーは依然としてそのウォーターハザードを上手く切り抜けることを要求されることとなります(裁定 33-2a/10)。



The TPC at Sawgrass の 17 番の島グリーン周囲の池はラテラル・ウォーターハザードの定義に該当しますが、ウォーターハザードとして標示し、指定ドロップ区域を設置しています。

定義で規定されているように、ウォーターハザードの限界を標示する杭や線は黄色でなければならず、ラテラル・ウォーターハザードの場合は赤でなければなりません。

杭または線、あるいは杭と線の組み合わせをウォーターハザードとラテラル・ウォーターハザードの境界を標示するのに使用することができます。しかしながら、杭と線の両方を使用する場合、定義「ウォーターハザード」では線がハザードの限界を標示すると規定しています。杭と線の両方が使用され

ている場合、杭はウォーターハザードの限界を示す線の外に設置することを勧めます。

一般的にウォーターハザードの限界を標示する線や杭は、ハザードの自然の限界線に沿ってできるだけ近い場所に設置すべきです。すなわち、水のある窪みを形成するために地面が傾斜し始めている場所です。これの意味するところは、傾斜している土手はハザードの限界内だということです。しかしながら、例えば、ウォーターハザードの自然の限界の少し外側に深いブッシュがある場合、そのブッシュはハザードの限界内に含めるようにすることを勧めます。そうしなければ、そのハザードの区域に球を入れたプレーヤーがドロップするのに合理的な箇所がなくなってしまうからです。

ハザードの傾斜した土手を限界内に確実に含めておくことは、ラテラル・ウォーターハザードの場合には特に重要です。ハザードの限界から 2 クラブレングス以内に球をドロップしようとするプレーヤーが、ストロークするのに合理的な場所にドロップできるようにするためです。限界が水面そのものから合理的な距離にあり、ハザードの土手から球をプレーすることが出来るような場合、プレーヤーが自分の球がハザード内にあることに気づき、規則 13-4 の違反を無意識に犯さないようにそのハザードは明確に標示される必要があります。

限界を標示するのに杭だけが使用されている場合、杭と杭を結ぶ直線がハザードの限界を決定します。したがって、ハザード内であるべき区域が線の外側に出ないように考慮する必要があります（ただし、裁定 26/2 参照）。一方、ハザードの自然の限界が明らかな場合、例えば地面が 90 度に落ち込んでいる場合、ローカルルールで限界は地面が落ち込んでいるところであることを規定すれば、委員会はそのハザードの種別を示すために杭を使用することができるでしょう。

水域の一部がウォーターハザード、一部がラテラル・ウォーターハザードである場合、そのステータスが変わる場所には黄色の杭と赤杭を並べて置くべきです。これはたとえハザードが線によって規定されていても適用となります。このことは球が限界を最後に横切った場所のハザードのステータスを決定する際にプレーヤーの援助となります。

定義上、ハザードを標示する杭や線はハザード内です。また、杭は障害物です。したがって、杭が動かせる場合、プレーヤーは罰なしに規則 24-1 に基づき救済を受けることができます。杭が動かせない場合、球がハザードの外にあるときは罰なしの救済が規則 24-2 に規定されています。しかしながら、球がハザード内にある場合は動かせない障害物からの救済を受けることができません。したがって、ハザードを標示する杭は動かせるようにしておくことを勧めます。

4. 修理地

どのような区域であっても修理地として標示する前に、委員会は標示する必要がある区域を確かめるためにコース全体を巡回して実況見分を終えた場合にのみ、マーキングに着手することが勧められます。そのようにしないと、委員会は最初の 2,3 ホールの修理地の区域だけをマークし、その後にコースに多くの類似の区域があっても全てをマークすることは不可能だからです。

一貫性を持たすために、修理地をマークする仕事は委員会の少数の委員で行われるべきで、好ましいのは委員会の責任を負った人を含めた 2,3 人で行い、どのような決定も共同で行うことが理想的です。

修理地は白線で標示することを勧めます。しかしながら、地形が地面に白線を引くことが不可能な場合は、青や黒などのはっきりした色の小さな杭を使用することができます(白、黄、赤は勧められません)。

第3章で述べたように、委員会が修理地からのプレーを禁止したいと考える区域があるかも知れません。その場合、ローカルルールあるいは注意事項でその区域について触れるべきである一方で、その区域からのプレーを禁止することを記載した標示を修理地に置くべきです。

観客がホールを横切る区域があるトーナメントで、地面の状態が相当に変わる可能性がある場合、それら横切る区域を修理地として標示することを勧めますが、フェアウェイにあるそのような区域のみを標示すべきです。ラフにあるそのような区域を修理地として標示することは、踏みつけられた区域に球が落ちることですでに利益を得ているので、寛大過ぎると考えられます。いずれにしても、そのような区域が異常に損傷した場合は、ラフのその区域を修理地とする権限を委員会は有しています(第3章、裁定 33-2a/3 参照)。



横断地点は修理地として標示することができますが、その場合でもフェアウェイの部分だけを修理地とすることを勧めます。

5. 障害物

通常、障害物を標示する必要はありませんが、障害物の範囲が不明確な場合があります。例えば、人工の表面に覆われた通路が途中から自然の通路(すなわちコースと不可分の部分)となり、どこがその変わり目なのかを判断することが難しい場合です。そのような状況では、障害物の限界を杭や線で標示すべきです。こうした方法で委員会が障害物の限界を標示する場合、次のようなローカルルールを制定する必要があります。

「動かせない障害物(規則 24-2)

動かせない障害物に隣接する白線で囲んだ区域はその障害物の一部とみなす。」

6. 準環境保護区域(ESA)

コース上の区域や隣接する区域が関係当局より環境保護区域と宣言され、したがってその区域への侵入またはその区域からのプレーが禁止されている場合、その区域は物理的に保護し、フェンスや警告サインその他で侵入できないようにしておくべきです。

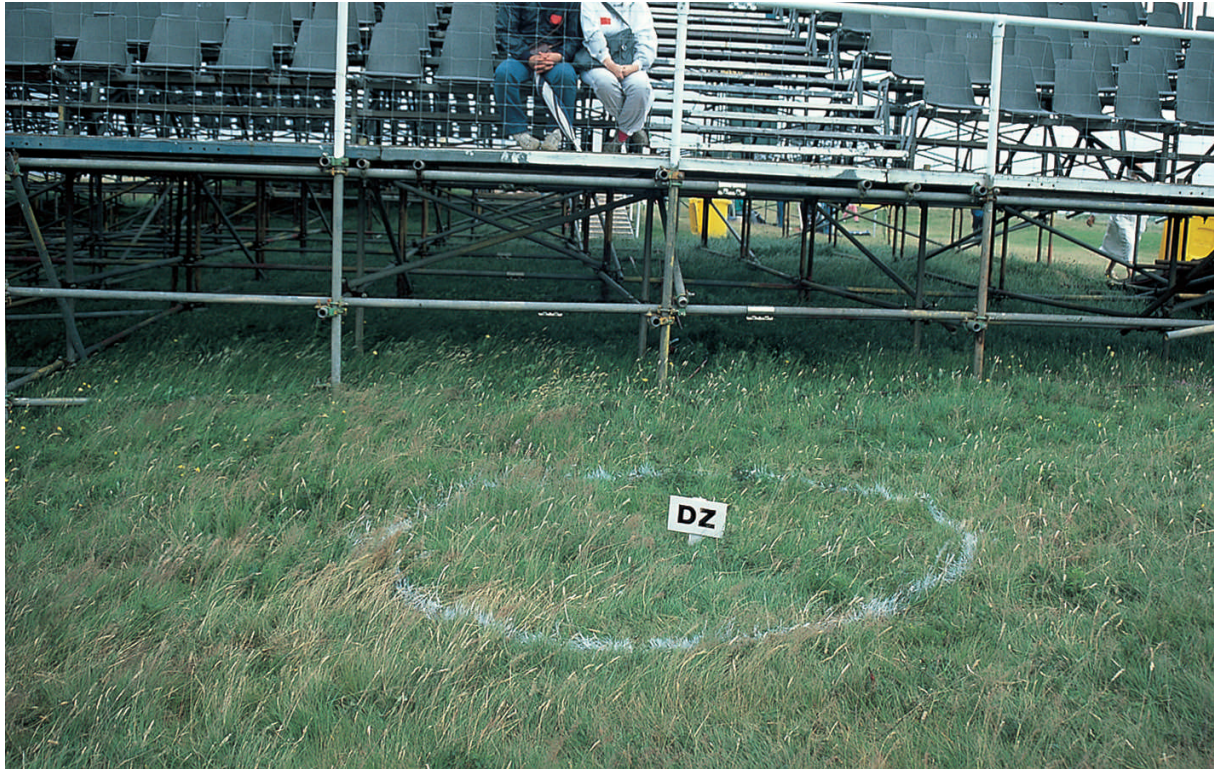
そのような区域は先端を緑色とした適切な色の杭で標示されるべきです。例えば、ESA がウォーターハザードの場合、その区域を標示する黄色の杭の先端が緑色とすべきです(裁定 33-8/41 参照)。

7. 指定ドロップ区域(第3章参照)

指定ドロップ区域はプレーヤーが規則に基づいて救済を受けられる区域からプレーすることができないとき、またはプレーすることが実際的でないと委員会がみなすときに使用されます。加えて、指定ドロップ区域は通常、観覧席のように臨時の障害物から救済を受けるために設置されます。

指定ドロップ区域は塗料で囲み、適当な目印をおくか、その区域に「指定ドロップ区域」または「DZ」と塗料で書くべきです。指定ドロップ区域はディボットが取られた後でも適切なライを提供できるように十分な大きさに設定すべきです。指定ドロップ区域がどんな形状であるべきなのか特別なガイドラインはないので、どのような形状でも良いでしょう。また、委員会はペイントする線の色を救済を受ける状況に関連させたいと考えるかもしれません。例えば、ウォーターハザードに関する指定ドロップ区域は黄色、ラテラル・ウォーターハザードに関する指定ドロップ区域は赤とすることもできますが、必ずそうする必要はありません。

指定ドロップ区域が臨時の動かせない障害物からの救済のために使用される状況では、ショットの難易度について、球が臨時の障害物の下の区域からプレーが可能であったと仮定した場合のライとプレーの線を反映すべきです。



観客席からの救済のためには指定ドロップ区域を設置するのが一般的です。指定ドロップ区域は、もしプレーヤーが観客席のあった場所から球をプレーする場合にプレーヤーに要求されるであろうショットをできる限り想定すべきです。

第5章 コースセットアップ

1. 通則

競技開始前に、委員会はコースをどのようにプレーして欲しいのかという明確なアイデアを持つことが重要です。各ホールの距離、ティーやホールの位置はプレーヤーのゴルフ技術を上手く引き出すことを念頭において判断されるべきです。セットアップが良いコースは、バッグの中にあるすべてのクラブ、あるいは少なくともほとんどのクラブを使用して様々なショットをプレーするプレーヤーの能力を試すことでしょう。しかしながら、この本にはコースの準備に関する特定のガイドライン(例えば、推奨されるパッティンググリーンスピードやラフの長さなど)は含まれていないことをご留意下さい。R&A はどのコースも独自の特徴を持っており、ある特色を持たすために設計者によってデザインされているという見地からコース特性の基準を提供することはしていません。競技のコースを準備する際には設計者が描いた戦略、コースのタイプ、また個々の条件を考慮することが重要であると考えています。

正しいコースセットアップを確立することは競技の数ヶ月前にそのコースを訪れることを必要とするでしょう。グリーンスタッフの計画に干渉し過ぎることは望ましいことではありませんが、競技前に望まれるパッティンググリーン速度、ラフの長さ、そしてフェアウェイの幅について意見がまとまっているか、そしてよく理解されているかを確認することは重要です。さらに、修繕作業が熟成するための十分な時間を与えること、そして新しい砂がバンカーに入れられるのであれば、その作業は競技に先立って少なくとも4ヶ月前に行うようにすることは重要です。

最初の練習日から競技の最終日までの間、コースの状態を実質的に同じ状態にすることがグリーンスタッフと委員会の目標であるべきです。練習日と競技期間中のコースの状態の変更は、特にパッティンググリーンに関しては、望ましくありません。

委員会は競技の各ラウンドごとにコースのセットアップを行う者を指名しなければなりません。委員会はこの作業のために、1名がそれぞれの9ホールを担当するように2名を指名します。そうした場合、ホール位置などの点でバランスを欠かないようにするために両者が互いの意図を十分に理解していることが不可欠です。指名される者は委員会の委員あるいは経験のあるグリーンスタッフが適切でしょう。

指名された者の任務は各ホールのティーインググラウンドを設定し、ホールの位置を決め、バンカーがならされていること、パッティンググリーン、フェアウェイ、ティーが刈られていることを確認し、アウトオブバウンズ、ウォーターハザード等を標示する杭や線が無くなったり、消されていないか、または委員会の許可なしに移動されていないかを確認することです。

2. ティーインググラウンド

前記の通り、競技の間、各ティーのどの区域が使用されるのかを前もって決めておくべきです。競技の前にティーの選択を通知し、それらのティー上でのプレーを制限することを倶楽部にお問い合わせください。ティー区域は平らで安定しているべきですし、フェアウェイに対して真っ直ぐのラインはせり出した木の枝やその他のものによって妨げられてはなりません。競技が数日にわたる場合は、

ティーの位置はコース全体の距離を著しく変えるほど変更すべきではありません。しかしながら、違うラウンドで異なる距離をプレーさせたい場合(例えば、ドライバーで届くよう Par4 を短くするなど)、プレーヤーにそうなる可能性があることを知らせるとともに、異なるティーから練習する機会を与えるべきです。

パー3のホールや、プレーヤーがティーからアイアンを使用する可能性のあるホールでは、使用するティーの区域はプレーする箇所からプレーヤーがよいターフを取ることができるように競技の前に十分保護しておくべきです。その区域は練習ラウンドの間はずっと保護しておかなければなりません。保護はその区域の地面上にネットのようなものを置くことでできます。しかしながら、プレーヤーがパー3の最大限の距離から練習できることが望ましいといえます。そのためにはティー区域の最も後方の狭い縞状の区域は競技中に使われる可能性はないので、そうした区域からの練習を認めればよいでしょう。一般的に、ティーマーカーは競技者が各ホールの最長の距離で練習ができるように練習日の期間のどこかの時点でその競技のティーインググラウンドの最も後方に設置すべきです。異なった練習日に異なったホールで最長の距離を練習することができます。



競技の前に使用予定のティーが荒らされないようにしておくことは重要です。

ホール番号、ヤーデージ、バーの標示は各ティーのはっきりと見えるところに置くことを勧めます。ティーの標示はそのコースを良く知らないプレーヤーのために特に重要です。そのような標示はマッチやグループがうっかりして誤ったティーからプレーすることを防いでくれます。混乱を避けるために、競技期間中はそれぞれのティーにティーマーカーを一式だけ置くようにしたほうが良いでしょう。しかしながら、それができない場合には、委員会はその競技でどのティーを使用するのかをプレーヤーが確実に分かるようにしておかなければなりません。このことは競技規定や掲示することによってプレーヤーに知らせることができます。

ティーマーカーは約6~7ヤード離して置くべきです。ティーインググラウンドの幅がそれ以上に広いとプレーヤーは不注意にティーマーカーの前にティーアップしてしまうことがあります。ティーインググラウンドの前方の境界線はドライブゾーンの中心に対して直角にセットアップされるべきです。そのようにするためには、ティーインググラウンドをセットする人がティーインググラウンド上に立ってドライブゾーンの中央(パー3のホールではパッティンググリーン)に向いて、そのドライブゾーンの中央に対して90度に腕を伸ばします。その腕の線に沿ってティーマーカーをおけば、スクエアにセットアップができます。その代わりに、T定規のようなものを位置合わせの援助のために地面に置くこともできます。

ティーの位置はティーマーカーが動かされたり、盗まれたときに委員会が置きなおすことができるように、ペンキでマークすることを勧めます。数日にわたって競技が行われる場合は第1ラウンドのティーの位置に1つの点をペンキでマークし、第2ラウンドのティーの位置に2つの点をペンキでマークするといったことを勧めます。

ゴルフ規則ではティーインググラウンドは奥行き2クラブレングスと規定しているため、ティーマーカーは常にティーの後ろの端から少なくとも2クラブレングス前方にあるべきです。プレーヤーは2クラブレングスの区域内でプレーヤーが望むどの場所にも球をティーアップし、また障害なしにスイングを行うことが許されるべきで、木や広告版などが障害とならないようにしなければなりません。また、ティーマーカーの位置を決める場合、左利きのプレーヤーのことを考慮に入れることも重要で、ティーインググラウンドは右利きのプレーヤーと同程度の位置を取る余地を左利きのプレーヤーにも与えるようにしなければなりません。



ティーマーカーが動かされたり、盗まれた場合のために黄色の点でティーの位置をマークしておくことを勧めます。

3. ホールロケーション

良いホールロケーションの選択には多くの要素が影響しますが、主要な目的は良いショットに報いるということです。以下の事項を考慮しなければなりません。

(a)設計者が意図した通りにそのホールがプレーされるように、必要に応じてそのホールのデザインを考慮に入れてください。パッティンググリーンへのショットの距離と、考えられるその日の状態(風、雨、そしてパッティンググリーンが有する特性)によってショットがどのように影響を受けることがあるのかを判断してください。これに関しては、天気予報をその地域の气象台から取り寄せることをお勧めします。雨の可能性がある場合、ホールは水が溜まるような場所に切るべきではありません。

(b)要求されたショットがパッティンググリーン上に留まるために、ホールからパッティンググリーン手前までとパッティンググリーンサイドまでの間は十分なパッティンググリーン面がなければなりません。例えば、そのホールでパッティンググリーンを狙うためにロングアイアンやウッドでのショットを要求される場合、短いピッチショットでパッティンググリーンを狙う場合よりもパッティンググリーンの奥で両サイドから離れたところにホールを位置させるべきです。

どんな場合でも、通常、ホールはどのグリーンエッジからも少なくとも4歩離れたところに決めることを勧めます。バンカーがエッジに近い場合やエッジから坂になっている場合、特にショットがピッチショット以上のときには、エッジからホールまでの距離はより長くするべきです。

パッティンググリーンを少しだけ外してしまったようなまあまあ良いショットをした後のリカバリーにはフェアな機会を与えることを考慮すべきです。一方で、失敗した場合の罰は、プレーヤーがある特定のホールを攻めるかどうかを決める場合にプレーヤーが考慮しなければならない必要があります。多くは競技者のレベルによります。

(c)ホールの周辺の2~3フィートの区域はできるだけ平らであるべきです。ホールは急斜面や山の背や、最近使用されたホールから3歩以内の区域に決めないようにして下さい。パッティンググリーンの設計がホールを傾斜に切るように意図する場合、ホールは傾斜に沿ってではなく、垂直に切られるべきです。また、ホールの上側からパットしたプレーヤーがそのホールの周辺に球を止めることが可能でなければなりません。

(d)ホールのすぐ近くの芝の状態を考慮し、完全に治っていないホール跡を避けるように特に配慮してください。

(e)左右、中央、前後等の位置に関してコース全体のホールロケーションの選択のバランスを保つべきです。例えば、ドローやフェードのショットが特に有利な結果となるようにホールロケーションがパッティンググリーンのある一方に偏りすぎないように注意してください。

(f)数日にわたってプレーされる競技では、日ごとのコースの難易度のバランスを保つべきです。コースはどのラウンドにおいても相当程度より難しいセットアップをするべきではありません。 balan

スがとれた扱いとすることが目標となります。ラウンドが進むにつれて徐々にコースを難しくしていくという考えは避けるべき考え方の一つです。バランスがとれたものにするためには難しいホールを6ホール、中程度の難しいホールを6ホール、比較的易しいホールを6ホールとすることです。

パッティンググリーンの左右の使い方のバランスを保つようにもすべきです。例えば、最初の9ホールでは右サイドを4ホール、左サイドを4ホール、センターを1ホール、後半の9ホールも同様とすることです。また、パッティンググリーンフロントエッジからの歩数もできるだけ変えるべきです。

(g)練習日のホールロケーションは競技中使われない区域、また、移動による損傷が生じない場所に決めることを勧めます。

(h)プレーヤーの歩く道筋を予想して下さい。あとのラウンドで使用するホールロケーションがプレーヤーの歩く道筋上にあり、損傷されることを避けることを考慮して最初のラウンドのホールロケーションを決めます。例えば、4日間競技では、可能であれば、初日のホールロケーションは次のティーへ向かう道の方に近いところに決めます。2日目のホールロケーションはプレーヤーが初日のホールロケーションの上を歩いていく所に決めます。そうすることでパッティンググリーンの半分が残りの2日間に使用することができます。

(i)マッチプレーでは、必要であればホールロケーションはラウンド中に変わることができます。ただし、各マッチでプレーヤーが同じロケーションのホールでプレーすることが条件です。

ストロークプレーでは、規則 33-2b はホールの損傷状態がホールの定義に適合するように修理することができない場合を除いて、1ラウンドのすべてのプレーヤーが同じ位置のホールでプレーすることを求めています(33-2b 注参照)。

1日に36ホールのプレーが行われる場合、ホールの位置はラウンドとラウンドの間には変えないというのが慣習ですが、変えてはならないという規則はありません。変える場合はすべてのプレーヤーに告知すべきです。

(j)ホールを切るグリーンスタッフはゴルフ規則を遵守し、とくに外径が108mmで、深さは少なくとも4.0インチ以上でなければならず、可能であれば、円筒は1.0インチ以上パッティンググリーン面より下に沈めなければならないという要件が徹底されなければなりません。

上記に述べられた全ての目標を達成することは不可能であるということは十分理解できますが、4日間の72ホール競技の下記の例をご参照いただければホールのロケーションを選択する方法に関するできるだけ多くの目標を委員会が達成することができるでしょう。

1. パッティンググリーンの異なった部分が各日に使用されるべきであることを考慮して、それぞれのパッティンググリーン上で最も良い4箇所のホールロケーションを選んでください。この選択は競技に十分前もって行われるべきです。次に、選択した4つのホールロケーションの最も難しいロケーションをNo.1、次に難しいロケーションをNo.2というようにして1から4にランク

付けしなければなりません。

- それぞれのパッティンググリーンの全ての 4 箇所は計測によって特定しなければなりません。この計測のための起点はパッティンググリーンフロントの中心点とすることを勧めます。この起点は、パッティンググリーンの後方に立ってホールの方を見て、プレーヤーがそのホールでプレーされるようにデザインされたルートに関して最適な中央位置からプレーするならば、プレーヤーがパッティンググリーンに向かってアプローチショットをプレーするだろう場所を判断することによって特定することができます。パッティンググリーンの形状によって、そのように特定された起点は必ずしもそのパッティンググリーンのフロントエッジの先端でないことがあります。
- この起点を特定したら、小さな T の形をペンキでマークし、それをパッティンググリーン中心に向けて計測する人の方向の目安とします。小さなマークはパッティンググリーン前方と一致したラインを出すことができるようにパッティンググリーンの後方のエッジにも付けておくべきです。(付属 E の説明図参照)。
- パッティンググリーンの前方からの計測は、そのホールロケーションに対してパッティンググリーン前に記された T マークから 90 度となる位置を歩測や計測によって決めます。パッティンググリーンの横に対する計測はその決めた位置から最も近いパッティンググリーンサイドまでを歩測または計測によって決めます(説明図参照)。このような計測の方法はその方法を使用する必要があるときに容易に全てのホールの計測を同じ方法で確実にを行うために必要です。
- 次に 4 箇所のホールロケーションをどの日に使用するかを決めます。これを決めるためには上記 (e)~(h) が忠実に行われていることが必要です。つまり、それぞれのホールのバランスが求められ、歩行により考えられる損傷ができるだけ避けられていることです。難度のバランスが達成されたかどうかは 18 ホールのホールロケーション難度(No1~4)の合計数が 45 に近いかが基準となります。
- 最後のステップは、ラウンドごとの各ホールロケーションを記入した図表、すなわちマスタープラン(全体計画)を作成することです。

この方法は事前の作業をかなり必要としますが、毎日のホールロケーションのバランスを確実にします。また、競技期間中に選択の作業をしなくてもチェックするだけで良く、忙しい競技中の貴重な時間を節約することができます。

ホールロケーションをマークする一般的な方法は、コースセットアップを担当する人が前日(例えば、練習ラウンドの最終日の午後)にペイントで点をつけてその位置をマークする方法です。ホールロケーションをプレー前に確認するときに、次の日のホールロケーションをペイントで点をつけてマークします。ホールを切る責務を負ったグリーンスタッフは事前にその日のホールロケーションを計測し、ペイントの点を目安にして新しいホールを切ります。

しかしながら、競技期間中に豪雨が予想される場合、委員会はマスタープランを十分に見直して、水

が溜まりにくいところにホールを決めるべきです。時として、そうした行為がストロークプレーでの1日のプレーを確保することができます。なぜなら、規則 33-2b では全競技者が1ラウンドを各ホールとも、同じ位置のホールでプレーしなければならないと規定しているからです。したがって、委員会はプレーの中断を回避するために特定のホールで1人のプレーヤーがプレーした後でホールロケーションを変更することはできません。



「ホール」の直径は4.25インチ(108ミリメートル)、深さは少なくとも4.0インチ(101.6ミリメートル)以上でなければなりません。円筒をはめ込む場合、円筒は土質の関係上そうすることが無理でなければ、少なくとも1.0インチ(25.4ミリメートル)以上パッティンググリーン面よりも下に沈められなければなりません。

1. ゴルフ規則

すべての競技はゴルフ規則に厳密に基づいて行われるべきです。そのために、委員会は最新のゴルフ規則書と規則の解釈が盛り込まれているゴルフ規則裁定集の準備が必要です(これらの本の入手方法に関しては付属 K 参照)。これらの基本的な道具がなければ委員会が規則に沿って競技を運営することはできません。

競技の参加者はできるだけ公平に扱われることを期待しており、それが達成される唯一の方法は規則が関係者全員に厳正に適用されるかどうかです。貧弱な管理運営は確実に競技の評判を損なうことになるでしょう。堅苦しく規則を適用することはときには難しく不愉快なこともあります。そうした行動を避けることは危険な前例を残し長期的には大きな困難を生むことにもなります。しかし強調すべきことは、平等な条件下で公平なプレーを推進するためだけに権限が行使されるべきであるということです。

2. 登録

委員会はプレーヤーの登録手続きを設けることを勧めます。プレーヤーが登録するときに競技に関する必要なすべての情報を与えることができ、先に公表した情報の修正を伝達することができます。

加えて、競技者が到着していない場合に委員会がそれを早く知ることができます。プレーヤーが登録をしていない場合、そのプレーヤーがスタート時間に現れない場合の必要な用意を委員会がすることができます。例えば、代替りのプレーヤーに連絡し、待機させたりすることです。登録をしなかったことに対してプレーヤーにゴルフ規則に基づく罰を課すことはできませんが、委員会はこの件に関して参加の条件を導入することができます。例えば、PGA ヨーロピアン・ツアーではプレーヤーが競技前日の夕方 6 時までに登録することを求めています。プレーヤーがこれを怠った場合、そのプレーヤーは出場を取り消され、補欠の 1 番目のプレーヤーがそのプレーヤーに代わることになります。

3. スタート

委員会は委員または役員を 1 人指名してプレーヤーたちがスタートしている間はコースに配置し、この者にスタート時間、マーカールの規定に関するすべての問題を処理する権限を与えることを勧めます。

スターターの主な責務は、すべてのプレーヤーが委員会の定めた時間にスタートすることを確実にし、ストロークプレーの場合、各競技者に日付と競技者の名前を付したスコアカードを発行することです。しかしながら、その他にもスターターが果たさなければならない任務が多くあります。

▽ ゲームがスタートする 5 分前に、スターターはプレーヤーの名前を呼び、スタートするティーに来るように告げなければなりません。そのようにすれば、スタート時間に先立って関係プレーヤーの所在を確認することができる時間があります。

▽ プレーヤーがティーに集合したときに、スターターはプレーヤーにそのプレーヤー本人のスコア

カード（スターターはそのプレーヤーが自分自身のスコアカードを渡されたということを忘れずに告げなければなりません）、競技の条件とローカルルール、その他プレーヤーへの注意事項あるいは競技規定やローカルルールに含まれていない情報のコピーを手渡さなければなりません。各組に規則委員がない場合、スターターはプレーヤーに14本を超えるクラブを持っていないことを確実にするためにクラブの本数を確認するように求め、コース上で規則委員に連絡する方法を説明します。また、プレーヤーにスコアの記録方法を明確にします。つまり、ストロークプレーではラウンド終了後に直ちにレコーダーにカードを提出することを指示し、マッチプレーではどちらのサイドのプレーヤーがレコーダーに報告する責任があるのかを知らせます（通常、その責任はマッチの勝者に与えられます）。

- その組がスタートする時間になったとき、スターターはできるだけ早くそのマッチを紹介します。例えば、「皆様、第14組目です」、そしてそれぞれのプレーヤーを紹介します、例えば「アイルランド出身、パドリグ・ハンリントン」というように。スターターはプレーヤーが公式なスタート時間前にティーオフさせないことが重要です。これはプレーのペースに悪い影響を及ぼすからです。1番ティーで遅れが生じている場合は、スターターは委員会にそのことを周知させておくべきです。
- ストロークプレーでは、スターターは最終組のプレーヤーが同伴競技者なしの1人だけとならないように後ろから2番目の組を送り出す前に最低2人が残っていることを確認すべきです。

こうした責務は簡単な指示書というような形でスターターに支給されるべきでしょう。

各組に規則委員がない場合、スタートティーで質問があることもあるのでスターターはゴルフ規則の知識を持っていることが必要です。スターターは非常に目立つ存在でもあるのでプレーヤーや観客に良い印象を与えるためにきちっとした服装をすることが重要です。

厳しい天候の場合、スターターのために1番ティー(2ティースタートを採用している場合は両方のティー)の上や近くに屋根のある区域を設けることが望ましいです。そして、各スターターは以下のものを準備しておかなければなりません。

- (a) テーブル
- (b) ゴルフ規則集
- (c) 組み合わせ表
- (d) 競技者の名前と日付を記したスコアカードとストロークプレー、マッチプレーともにプレーヤーが個人的に使用するための白紙のスコアカード
- (e) 競技の条件
- (f) ローカルルール
- (g) その他のプレーヤーに対する追加告知
- (h) 公認球リスト(競技の条件でリストに掲載されている同一球が使用されなければならない場合)
- (i) 不適合ドライビングクラブリスト(条件を制定する場合)
- (j) ホールロケーションシート(利用可能な場合)

- (k) 時計(ロッカールーム、食堂、プロショップ、練習区域にある時計と時間を合わせたもの)
- (l) P.A.システム (必要であれば)
- (m) 油性のペン(プレーヤーが球に識別マークを入れるためのもの)
- (n) 鉛筆、ティペッグ、ピッチマークリペア



スターターは選手を委員会が決定した時間にスタートさせ、ストロークプレーでは各競技者にスコアカードを発行しなければなりません。

4. スコアカードの発行とスコアの記録

ストロークプレーでは、日付と競技者の名前（フォアサムまたはフォアボールストロークプレーでは両競技者の名前）を記入したスコアカードを各競技者に発行することは委員会の責任です。様々な形のストロークプレーでのスコアの加算、ハンディキャップの適用等に関する委員会の責務は規則 33-5 に明確に示されています(スコアカードに関連する委員会、マーカー、競技者の責務の内訳は付属 F 参照)。

スコアの提出中に起こる間違いは重大な結果となり、競技に注がれた良い仕事の全てを台無しにすることにもなりかねないので、スコアを記録する仕事は責任のある人、グループに与えることが重要です。

スコアカードを受理する方法は競技の性格によって変わります。通常、完全に記入されたスコアカードを提出する「ボックス」を利用しますが、プロの競技ではレコーダーの部屋またはテントが設けられます。「ボックス」が使われる場合、スコアカードが「ボックス」に投函された時点をスコアカード提出時点と委員会がみなすことができます。

どのような方法がとられるかは関係なく、どの時点で競技者が「カードを提出した」とみなされるのかを委員会が明確にしておくことが最も重要です。それ以降はカードの内容を修正することはできません。このことは論争が起きた場合に備えて競技の条件で規定しておくべきでしょう。ジ・オープンでは次のような条件を使用しています。

「スコアカードの提出

プレーヤーのスコアカードはレコーディング・オフィス/エリアをそのプレーヤーが離れた時点で委員会に正式に提出されたものとみなされる。」

ジ・オープンではレコーダーは簡易事務所で作業をしますが、競技者がその事務所内にいる間はカードの提出過程にあると考えられ、たとえ競技者がスコアカードを委員会の委員に手渡した後もスコアカードを修正することができます。競技者はカードが確認されている間、その場所にいるように勧告されます。このようにすることでレコーダーは合計スコアの確認をして誤りを発見することができますし、あるホールでの誤ったスコア記入を発見するきっかけにもなることがあります。また、競技者が誤って署名していることを発見することもできます(裁定 6-6d/4)。そのような誤りは競技者が事務所の中にいる間は修正することができますが、競技者が事務所の外へ出た時点でその競技者は「カードを提出した」とみなされ、その後に修正することはできません。

競技者が正しくないスコアに署名したり、自分のカードに署名をしなかったりした場合、競技者は厳しい罰を課せられますから、委員会は競技者がラウンドを終了した直後に、インタビューに応える前に競技者がスコア提出エリアに入ることを確認すべきです。同様に、観衆やメディアは一定の距離より近づけないようにしておくとともに、スコア提出エリアへの出入りは厳しく制限すべきです。

レコーダーの所定の作業は次のとおりです。

- (a) 競技者が事務所またはテントに入ってきたときに、各競技者にホールごとのスコアを確認するように求め、役員がカードを確認し終えるまでその場にいるように言う。
- (b) 競技者のスコアが正しいスコアカードに書かれていることを確かめるためにスコアカードに記載されている名前をその競技者に復唱する。
- (c) 競技者とマーカー双方がカードに署名し、競技者の署名がカード上の名前と一致することを確認する(ハンディキャップ競技の場合、競技者のハンディキャップがカード上に記入されていることも確認する)。
- (d) 記録されたスコアの合計を確認し、そのラウンドのグロスの合計スコアを出す(ハンディキャップ競技の場合、カード上に記入されたハンディキャップを適用する)。

記録の責務に加えて、レコーダーはプレーヤーから口頭の苦情がある場合、それに対して意見を述べずに、メモとして残すべきです。そしてこの情報を委員会に伝えなければなりません。また、レコーダーは各組のラウンド終了時刻を組み合わせ表に記録すべきです。

こうした責務は簡単な指示書というような形でレコーダーに支給されるべきでしょう。

競技のスコアを記録し結果を計算するためにコンピューターを利用することは一般的で、そうした方法は委員会が競技を運営・管理するために大いに役立つことが認められています。しかしそのようなコンピューターを使用することが、ゴルフ規則で要求される事項であるハンディキャップをスコアカードに記入すること(規則 6-2b)やラウンド終了後できるだけ早くマーカ―と競技者がサインして委員会へ提出しなければならないこと(規則 6-6b)に優先されるものではありません。

加えて、委員会は競技者がスコアをコンピューターに入力する要件を制定することができますが、競技者が入力しなかった場合に委員会によって課せられる罰は、競技失格というようなゴルフ規則に基づく罰ではなく、懲罰的なものとしなければならないでしょう(裁定 6-6b/8 参照)。

マッチプレーではストロークプレーほど詳細な記録システムを設ける必要性はありませんが、プレーヤーがどこへマッチの結果を報告するか、また報告の責任は誰にあるか(例えば、マッチの勝者)をプレーヤーが知っておくことは重要です。

5. ルールズオフィシャル

可能であるならば、委員会はプレーを観察するためにコース上に多くの委員を配置し、ルーリングやその他のプレーヤーの補助ができるようにする必要があります。言うまでもなく、ルールズオフィシャルとしてコース上に配置された人は規則について精通しているべきです。

ジ・オープンでは各組に指名された同行レフェリーと、疑問が起きた場合にレフェリーを補助したり、ある組がアウトオブポジションとなりプレーのタイムスケジュールから遅れている場合には時間を計測したりするために各 9 ホールに配置した数名の移動レフェリーがいます。

しかしながら、プロの競技であってもこのレベルのルールスタッフの配置は標準というよりもむしろ例外的なものです。一般的にはコースの特定の区域を担当する移動レフェリーのみで、プレーのペースを観察し、要求されたときのみ裁定を与えるだけです。

競技に先立って、すべてのルールズオフィシャルが集まって会議を行うことが勧められます。会議ではチーフレフェリーがローカルルール、競技の条件を読み上げ、質問があれば回答します。こうした会議はすべてのコース上の異常な状態が一貫して扱われることやすべての特別な方針が明確に理解されることの助けとなるでしょう。

倶楽部競技ではプレーの行われている間にコース上にルールズオフィシャルが配置されることは稀です。しかしながら、プレーヤーは裁定を受ける資格があり、たとえそれがストロークプレーでの規則 3-3 に基づいた処置であり、裁定がラウンド終了時に与えられるものであってもです。したがって、委員会は規則に精通した者を指名して規則問題を解決するために競技期間中待機させるべきです。委員会の委員や役員は委員会の名のもとに最終的な裁定を与えることが認められていない限り、規則問題に裁定を下すべきではありません。

6. フォアキャディーとマーシャル

委員会は球が紛失する可能性ある区域にフォアキャディーを置くこと、またはマーシャルにその役割

を果たすことを求めることができます。こうした方針は球が迅速に発見されることや、球が見つからないことを知らされたプレーヤーが暫定球をプレーすることを促されることによりプレーのペースに役立ちます。全てのプレーヤーが同じ条件でプレーできるように委員会はフォアキャディーを確実に終日待機させなければなりません。

しかしながら、フォアキャディーの利用を成功させるには、関連プレーヤーにその球の状態が明らかになるように明確で有効な合図を送るシステムがなければなりません。球がインバウンズなのかアウトオブバウンズなのかの合図をそのフォアキャディーが行っているときにそのシステムが不明瞭であることは大きな問題です。最悪のシナリオはプレーヤーが別の球をインプレーにした後で、初めの球がインバウンズにあったことが判明することです。そのような状況の場合には、プレーヤーはアウトオブバウンズの合図が出ていても暫定球をプレーすることが勧められます。

7. プレーのペース

倶楽部、パブリックコース、リゾートそして競技主催者は、それぞれ何が適切なプレーのペースなのかについて異なった見解を持つことは理解できます。しかし、スロープレーが多くのプレーヤーにとってゲームを楽しむことを損なわせます。早いプレーに文句をいうプレーヤーはまずいでしょう。

スロープレーの場合については規則 6-7 で規定しています。規則 6-7 は「プレーヤーは不当に遅れることなく、委員会がプレーのペースについてのガイドラインを決めているときはそれに従ってプレーしなければならない」と規定しています。規則 6-7 の違反の罰はマッチプレーではそのホールの負け。ストロークプレーでは 2 打、その後更に同じ違反があった場合には競技失格です。ただし、規則 6-7 注 2 は次のように規定しています。

「スロープレー防止を目的として、委員会は、競技規定(規則 33-1)の中で、正規の 1 ラウンドや 1 ホール、1 ストロークについてそれぞれの許容時間の限度を決めることも含め、プレーのペースについてのガイドラインを作ることができる。

ストロークプレーに限り、委員会は前記の競技規定で規則 6-7 の違反に対する罰を次のように修正することができる。

初回の違反 1 打 2 回目の違反 2 打 その後更に同じ違反があった場合は 競技失格

実際問題として、そのような条件はそれを実施するために必要な委員会委員の人数がいるかどうかによりますが、プレーのペースのガイドラインの策定は競技を管理している委員会の決定事項です。

例えば、ジ・オープンではホールごとにプレーのペースのガイドラインを採用することは可能であり、したがってある組がコース上でアウトオブポジションとなり規定の制限時間を越えている場合はショットごとの時間を計測することになります(ジ・オープンで採用するプレーのペースの条件-付属 G 参照)。

言うまでもなく、そのような方法は倶楽部レベルでうまく採用される見込みはありません。したがって、委員会がプレーのペースについて問題を抱えている場合には簡単な条件を考案する必要があるでしょう。その条件に基づいて委員会はラウンドまたは特定数のホールに対してプレーヤーが終了する

ために十分と思われる以上の制限時間を規定します(これは組数とプレー形式によって変わります)。ある組がコース上で規定の時間を超えてアウトオブポジション(アウトオブポジションの定義に関しては付属 G を参照)となる場合、その組の全てのプレーヤーが罰の対象となります。

この条件の手順の例として、委員会はストロークプレーをプレーしている 3 人組は 9 ホールを終了するために 1 時間 45 分以上かかってはならないと決め、この制限を超え、アウトオブポジションとなった場合、3 人全てのプレーヤーが 1 打の罰を受けることになるかと規定することができます。加えて、この条件は次の 9 ホールを規定の時間でプレーすることができず、依然としてアウトオブポジションであった場合、3 人全てのプレーヤーがさらなる 2 打の罰を受けることになるかと規定することができます。

その組の全てのプレーヤーがこの条件の違反で罰を受けるという規定を採用することにもなう問題は、遅延に対する個々の責任を考慮しないという点と罪のないプレーヤーも罰を受けるということです。しかしながら、遅いプレーヤーはその組のプレーのペースを改善することを促されるのでこの種の規定は各組の自己規律という点で役に立つでしょう。

条件の中で規定される制限時間はプレーの形式(例えば、フォアサムはシングルより早くあるべきです)とプレーする人の年齢(例えば、ジュニアはシニアより早くあるべきです)を考慮に入れるべきです。また、委員会がプレーヤーの取る適切な時間を決定する大きな要素として、天候とコース(距離、難度、レイアウト等)があります。

大きなアマチュア競技やプロ競技では委員会はホールごとにプレーのペースのガイドラインを規定したいと思うことがあります。それぞれのホールに適用されるべき特定の時間を推奨することは不可能ですが、多くの要素が考慮されるべきです。まず、プロゴルファーはラウンドを終了するために無制限の時間が与えられているわけではないものの、プロゴルファーは生活の糧としてプレーしており、一般的にはアマチュア競技の場合よりも多くの時間が与えられることに留意しなければなりません。

さらに具体的に言うと、エリートアマチュアや、プロフェッショナルイベントで、委員会がパー3、パー4、パー5 の標準的な時間(例えば各 11,13,15 分)を決めている場合、調整は特定のホールの難度と最後にプレーしたホールのグリーンから次のホールのティーまでの歩行距離を考慮して行われるべきです。

プレーのペースの条件はプレーのペースの速度を観察することを助け、遅いプレーヤーを確認することができるものの、遅いプレーの全てがプレーヤーの過失にあるわけではありません。委員会があまりにも多くのプレーヤーをあまりにも早くコースに出すことでプレーが停止となる原因を作ることもあります。委員会がそれぞれの組のスタート時間の間に十分な時間をとって、各組に間隔を持たせ、プレーヤーがショットごとに待たないようにすることは大事なことです。さらに可能であれば、絶え間なく参加者全員をコース上に出すのではなく、ところどころに空白のスタート時間を置いて、「スターターズ・ギャップ」を設けることが勧められます。

また、難しすぎるコースセットアップがプレーのペースを予想以上に遅らせることもあります。特にホールの位置があまりにも難しい場合、パッティングの時間が増えます。

最も適したプレーのペースのガイドラインと理想的なスタート時間を発見するのは試行錯誤ですが、正しい手法が確立されるならば関係者全員がゲームを楽しむことができるようになります。一般のプレーに対するプレーのペースに関するさらなるガイダンスについては付属 G をご参照ください。

8. 険悪な気象状況とプレーの中断

委員会は荒天に対する準備をしなければならず、プレーヤーおよび競技開催当事者たちは委員会のプレー中断の合図を認識できなくてはなりません。プレーヤーがプレーが中断されたかどうかを知らない、または一部のプレーヤーは知っているが、他のプレーヤーは知らないといった状態は避けなければなりません。

競技は雨が非常に激しくてプレーの継続を求めることがフェアでない場合を除いて、単に雨を理由として中断する必要はありません。一般的には、コースがプレー不能(例えば、風のためにパッティンググリーン上で頻繁に球が動いたり、ホールがカジュアルウォーターによって囲まれた場合)とならない限り、プレーは中断すべきではありません。どの競技も雨がフェアでない状態となるほどに激しい場合とは、通常、少なくとも 1 つのパッティンググリーンのホールの周りにカジュアルウォーターがあっという間にできる状態をいいます。そういった事態が起きた場合、コースはプレーできないものと判断してプレーを中断しないと、委員会は怠慢であると言われるでしょう。雨がアンフェアな状況をもたらすほどには激しくはないものの、ホール周りにカジュアルウォーターを生じさせるほど強い場合、マッチプレーでは委員会は水で覆われていない適切な区域があるならば、ホールの位置を変えてプレーを再開することができます。しかし、ストロークプレーでは、損傷が激しい場合を除いてはホールの位置を変えることはできません(規則 33-2b 例外参照)。したがって、プレーはカジュアルウォーターの問題が解決するまで再開することはできません。

スクイージ(除水ローラー)は水溜りがパッティンググリーン上に出来はじめたときにはとても有効です。大雨の後に徐水作業をしないと一部のグリーンでかなりの間、カジュアルウォーターが残ることがあります。しかし、組織されたスクイージ部隊は通常、数分でカジュアルウォーターを除去することができます。ですから委員会はスクイージを用意してヘッド・グリーンキーパーがそれを使う部隊を待機させるべきでしょう。

委員会がスクイージ作業を展開させたいと思うほど水がグリーン上に溜まり始めたと判断した場合、球がそのパッティンググリーン上にあるときは次の方針を採用すべきです。

「プレーヤーの球がパッティンググリーン上にあり、そのパッティンググリーン上のカジュアルウォーターにより障害が生じる場合は、プレーヤーは次のいずれかの処置をすることができる。

(a) 規則 25-1b(iii)に基づいて救済を受けること

(b) ホールまでのラインにスクイージ作業を行うこと

注：スクイージ作業はパットの線を直交して行い、ホールを越えて合理的な距離を延長(少なくとも 1 ローラーレングス)して行われるべきである。

競技の順調な運営が危ぶまれるほどに状況が悪化した場合、委員会は規則 25-1b(iii)に基づいて球を動

かすことと、ラインを直交してスクイージ作業を行うことの併用を許すことができます。さらに、プレーヤーは、その球がパッティンググリーン外にあり、ライン上のカジュアルウォーターのために規則 25-1 に基づく救済を受ける資格がない場合、パッティンググリーン上にあるプレーの線上のカジュアルウォーターが実質的に意図するストロークに影響を与えるような例外的な状況では、委員会はそのカジュアルウォーターの除去を許すことができます。委員会はスクイージ作業にプレーヤーとそのキャディーに協力を求めることができることに留意すべきです(裁定 33/1)。

しかしながら、コースが激しい雨に見舞われたときはパッティンググリーンだけが問題の発生源ではありません。ストロークプレーではホール位置だけでなく、ティーマーカーも動かすことはできません。したがって、ティーインググラウンドにも注意深い配慮が必要です。ティーインググラウンド上の芝は通常のパッティンググリーンよりも長いので、水を除去するにはスクイージよりタオルの方が良いことがしばしばあります。



スクイージーはとても有効です。

委員会はスクイージーを使用する場合の明文化された方針を容易しておくべきです。

委員会はどうしても必要がある場合を除いて、プレーを中断すべきではありませんが、悪天候や雷からプレーヤーを守るためにできるだけのことをするのも委員会の責任です。したがって中断を躊躇してはなりません。市場には多くの雷探知器が出回っており、雷を予測するコンピューターのソフトウェアもあります。

規則 6-8b は委員会によってプレーが中断される場合について規定していますが、この規則の注では次のように規定しています。

「危険な事態を招く可能性の強い場合には委員会からのプレー中断の指示があり次第、その場ですぐにプレーを中断しなければならないことを、委員会は競技規定(規則 33-1)で決めておくことができる。その場合、プレーヤーがすぐにプレーを中断しなかったときは、規則 33-7 に決められているような正当な事情がなければ、そのプレーヤーは競技失格となる。」

委員会が潜在的な危険な状況に備えて、上記のような条件を採用する場合は、プレーの中断について



は規則 6-8 に優先します。この条件は R&A 主催の全ての競技で適用されています(ゴルフ規則付属 I (C)5)。

委員会が雷の接近について情報を得た場合、委員会はプレーヤーが避難場所を探したり、倶楽部ハウスに戻るができるように、嵐がくると予測される前にプレーを中断しなければなりません。そのような状況下でプレーヤーを助けるための避難手順を計画することを勧めます。これはプレーが中断された場合に険悪な天候になる前にプレーヤーを輸送するためにコース上のさまざまな場所に輸送手配をすることも含まれます(付属 H、避難計画例参照)。

雷が接近した場合に委員会がそれを観客に知らせることもまた重要です。これはスコアボード等に気象警報を掲示することで可能となります。

ストロークプレー競技では委員会はラウンドをキャンセルする権限を持ちますが、マッチプレーではキャンセルできないことに留意することは重要です。マッチのプレーヤーが例えば 6 番ホールを終了していた場合、彼らは 7 番ホールからプレーを再開しなければなりません。マッチはすべてを再プレーとすることはできません。

ストロークプレーでは、委員会はプレーを中断してプレーが中断されたところから再開するのか、そのラウンドをキャンセルして全てを再プレーするのを選択することができます。委員会がいつプレーを中断し、いつキャンセルすべきかに関して決まった規則はありません。しかしながら、一般的にラウンドをキャンセルとしないと著しく不公平になる場合にのみ、そのラウンドはキャンセルされるべきです。たとえば、一部の競技者がまったく不利な天候条件の下でプレーを始め、結果的に条件が悪化してその日さらにプレーすることが不可能な場合、ラウンドをキャンセルしないとスタートした競技者に不公平となります(裁定 33-2d/1 参照)。

コースがプレー不能となってプレーが中断されるとき、委員会は競技を予定通り終了させる機会を最大にするためにできるだけ多くの選択肢を考えなければなりません。

例えば、

- (a) 72 ホールストロークプレー競技で最初の 2 ラウンドの参加者総数は 156 名で、後の 2 ラウンドに 60 名が進出する。
- (b) 参加者数が原因で、最初の 2 ラウンドは通常暗くなる直前までは終了しない。
- (c) 第 2 ラウンドで日中に荒天によってコースがプレー不能となる。
- (d) その荒天による遅れが第 2 ラウンドを終了することを不可能にする。
- (e) その荒天が早く通過した場合、スクイージやポンプをつかってコースをプレー可能にし、プレーを数時間再開することが可能。
- (f) プレーを再開して数時間プレーが可能な場合、翌朝第 2 ラウンドを完了し、その後、第 3 ラウンドの組み合わせを急いで作成し、予定どおり第 3 ラウンドを終了する。

上記のような状況では、委員会がその荒天によってコースがプレー不可能となったとき直ちにその日のプレーを中断するという事は勧められません。そうすることで、委員会はもし実行していたら競技を予定通りに終了させることができたかもしれない選択肢を失うことになるでしょう。

一般的に、参加者数の半数以上がラウンドを終了していた場合、プレーを中断して翌日にプレーを継続する機会があるのであれば通常はラウンドをキャンセルすることはしません。しかしながら、1 日で 18 ホール競技を行う場合、次の日にプレーを再開する余裕がないことが予想されます。競技の日程を変更することが可能な場合、委員会はそのようにするよう努力すべきです。しかしながら、委員会はそのラウンドですでに開始された正規のラウンド数を減らす(例：18 ホールから 9 ホールへ)規則上の権限は持っていません。したがって、日程を変更することができない場合はその競技を取り消さなければなりません。

チームマッチで悪天候により、意図された進め方でマッチを終了することが不可能であり、理由の如何にかかわらず、マッチを終了させるために使える延長時間が不十分であるという問題が生じることは珍しいことではありません。そうした状況でのガイドラインについては付属 I を参照下さい。

第7章 ルールズオフィシャルの職務

1. 通則

ゴルフはほとんどの場合ルールズオフィシャルがいないところでプレーされます。しかしながら、競技を管理している委員会は、プレーに同行するレフェリー（時としてオブザーバー）を指名すること、あるいは規則についてプレーヤーを援助するために委員をコースの特定の場所に割り当てることができます。ルールズオフィシャルは、単なるプレーの知識以上のゴルフ規則について精通していなければならないことは言うまでもありません。

ルールズオフィシャルは裁定をするために呼ばれることなく、コースで何もしないで一日を終えることがあります。しかしながら、全く予期しない時に疑問が生じた場合に“傍観者”とならないように注意しなければなりません。

それゆえ、ルールズオフィシャルはただ規則に精通しているということだけではなく、自身の職務についての自覚と責任を、また様々な規則の状況をどのように取り扱うのが最善なのかについて正しい認識を持つことが求められています。

2. レフェリー

ゴルフ規則でレフェリーは、「事実問題を判定し規則を適用するためにプレーヤーに同行するよう委員会によって任命された人をいう」と定義されています。レフェリーは自分で直接目にしたことや報告を受けたことも含め、すべての規則違反について対応することになります。

要請があったときに正しい裁定を与えるだけではレフェリーとして十分ではありません。レフェリーはどんな時にもラウンド中に起こりうるすべての出来事についても正しく観察し、正確な判断をするために十分に気を配らなければなりません。レフェリーはこうした職務の範囲内でゴルフゲームがスポーツマンシップのもとで公正にプレーされることを助けるためにマッチやゲームに配置されています。

このことはプレーヤーがまさに規則に違反しようとしているのを目撃したときにレフェリーの道徳上の立場という問題を提起します。レフェリーはプレーヤーの意図的な規則違反に対して責任はありませんが、規則についてプレーヤーにアドバイスを与える義務は確実にあります。もしレフェリーがプレーヤーに規則上の権利や義務を知らせることを怠り、その結果として防げたはずの違反に対して罰を課すとすれば、それはフェアプレーの精神に反することになるでしょう。プレーヤーの規則違反を防ぐことを支援しようとするレフェリーは、どのプレーヤーに対しても同じ方法で役目を務めるだろうし、従って公平に自分の職務を遂行しているので、他のプレーヤーに対して1人のプレーヤーを助けても非難されることはありません。

規則違反を防ぐためにレフェリーがとることができる行動の例は以下の通りです。

- (i) 初めの球が紛失あるいはアウトオブバウンズのおそれがあるためにプレーヤーが別の球をプレーしようとしているときに、そのプレーヤーにそれは暫定球なのかどうか尋ねること

- (ii) いつでもプレーヤーが暫定球をプレーする場合や第2の球をインプレーにする場合には、そのプレーヤーが両方の球を確認できることを確実にする
- (iii) プレーヤーが自分の球をティーマーカーよりも前にティーイングする場合は、彼がショットを行う前にそのことに注意を向けさせる
- (iv) プレーヤーがバンカーやウォーターハザード内でルースインペディメントを拾い上げようとしているときは、彼の球がハザード内にあるということを指摘する
- (v) プレーヤーが誤ったドロップ処置をしようとしているときや、してしまった場合、そのことに注意を向けさせ、正しい処置を指摘すること

もうひとつ重要なレフェリングの一般的側面は、レフェリーが職務を遂行する態度です。レフェリーが立ち会うようなレベルでゴルフがプレーされる時、出場しているプレーヤーにはかなりのプレッシャーがかかっているかもしれません。高圧的、または思いやりのない発言は助けにならないばかりか集中力を乱すことでプレーヤーに有害な影響を与えかねません。それゆえ、レフェリーは理解と気配りをもって職務を遂行するように試みなければなりません。いつプレーヤーに話しかけるべきか、またいつ黙っているべきかを察知することが重要です。

1番ティーから始まる以下の解説は、ある状況に直面したときにレフェリーがどのように役割を果たすべきかについてのガイドラインを提示し、問題が生じるのを避けようとするためにレフェリーが取る処置を示唆しています：

(a) 最初のティー

その組やマッチのプレーヤーがレフェリーに同行された経験があるならば、レフェリーはプレーヤーに確実に自分の球を確認することや持ち運んでいるクラブの本数を数えることを求めることで通常足りるでしょう。プレーヤーがその経験があまりない場合、レフェリーの役割（すなわち、ある状況においてプレーヤーが正しい処置について疑問をもった場合にプレーヤーの助けになり、そばに居ること）についてプレーヤーに話しておくことが役に立つでしょう。

(b) 他のティー

プレーヤーがティーショットを行っているときにレフェリー自身がティーイングエリアにいること、またプレーヤーが球をティーインググラウンドの区域内にティーイングをしたかどうかを判断できるような場所にいることが勧められます。上記にあるように、レフェリーは見ずらい所に立って、プレーヤーがティーの区域外からティーイングしてプレーしようとしているのをプレーヤーに知らせずに眺めてはいけません。しかしながら、レフェリーはプレーヤーの邪魔となる可能性のある場所に行くことのないようにすべきです。

(c) ティーとパッティンググリーンの間

ティーインググラウンドから離れた後、どのプレーヤーが先にプレーするか疑問が生じるかも知れないときは、レフェリーはプレーヤーがプレーする準備が整う前にこの件を解決できるようにするためにプレーヤーより先にその場所に到着するべきです。プレーの順番の決定はストロークプレーよりもマッチプレーのほうが明らかに重要です。

状況によっては明らかに不可能な場合もありますが、レフェリーはそれぞれのプレーヤーが行うそれ

ぞれのストロークを観察できる位置に身を置くようにすることが勧められます。しかしながら、レフェリーはプレーヤーの気を散らしたり、不快にさせるほどにプレーヤーに付きまとうことのないように注意しなければなりません。

それぞれのストロークがプレーされるのを観察できる場所であれば、プレーヤーがアドレス時に球を動かしたかどうかといったような事実問題をレフェリーが判断するときに役立ちます。さらに、プレーヤーが規則 13-2 に関わるかもしれない場所からプレーをしている場合（例えば、ストロークを行うためにブッシュの中に分け入らなければならなくなっている場合など）に立ち会うことにもなるでしょう。その場合、レフェリーはプレーヤーがスタンスをフェアにとる過程でどのくらいまで介在している生長物を押し除けることができるのかを判断しなければなりません（裁定 13-2/1）。レフェリーはプレーヤーが規則 13-2 に違反しないように彼の行動を導くことができます。

(d) パッティンググリーン

パッティンググリーンに着いたら、レフェリーは観衆の邪魔にならないようにプレーを観察できる位置を選ばなければなりません。

レフェリーは拾い上げられた球が正しい箇所にリプレースされるのを観察できる位置にいるべきです。この区域での問題は、プレーヤーが自分のボールマーカーを他のプレーヤーの邪魔にならないようにパターヘッドひとつ分またはそれ以上ある方向に動かさなければならなかったときに良く起こります。レフェリーはそうした行動に特に注意し、球がリプレースされる前にそのボールマーカーが正しい箇所に戻されることを確実にしなければなりません。

経験を積んだ多くのレフェリーは、ボールマーカーが正しい箇所にリプレースされることを確実に見守る個々の方法を持っています。例えば、あるプレーヤーがボールマーカーをある方向に 1 クラブヘッド動かすのを見たときに、レフェリーはポケットからコインを取り出し、正しいリプレースを見届けるまでそのコインを元に戻さないようにするのです。このような方法をとれば、レフェリーはそのプレーヤーがボールマーカーを元の位置から動かしたということを忘れる可能性は低いでしょう。

レフェリーはまたプレーヤーが規則で許されている場合を除いて、パットの線に触れないことを確かめるために見ていなければなりません。球がホールの縁に止まった場合、レフェリーはまず初めにその球がホールの端にかかっているかどうかを判断し、もしそうであるならばその球が止まっているかどうかを決めるためにプレーヤーが規則 16-2 にしたがって認められている 10 秒間を使ったかどうかを判断しなければなりません。

パッティンググリーンで生じる可能性のある特に困難な状況のひとつは、マッチプレーでのパットのコンシードに関連することです。時としてプレーヤーは入ればそのホールの勝ちとなるパットをミスした後で、何も考えずに、ホールアウトすることも相手からコンシードされることもなくホールの近くから自分の球を取り除くことがあります。そのようなケースでは、レフェリーはそのパットがコンシードされたのかどうかを確かめなければなりません。レフェリーがプレーヤーにコンシードを明確に行うことを確実にするよう求めることがマッチプレーでは勧められます。このことは 1 番ティーインググラウンドにてレフェリーが行う補足的な職務でしょう。



レフェリーは各ストロークを観察できる場所にいるべきです。

(e) 通則

もうひとつの一般的な注意事項は、時としてプレーヤーは規則を守ることに不用心になるということです。実際に規則違反がなかった場合でも、レフェリーはプレーヤーに忠告をするべきです。そうすればその後プレーヤーが罰を課せられる可能性を最小限にすることができます。この忠告はプレーヤーが特定の規則に精通していることをレフェリーが確かめることで行われます。

どのような状況でも、プレーヤーが救済を受けたいと思う場合、レフェリーはそのプレーヤーが最も良い手順を決めるまで球に触れないように助言するべきです。プレーヤーが救済を受ける場合、レフェリーはプレーヤーに救済のニヤレストポイントと所定のドロップ区域を定め、マークするように指示するべきです。

レフェリーは所定のドロップ区域が定められたからといってプレーヤーから離れてはなりません。レフェリーはドロップされた球が再ドロップを要する位置に転がっていった場合や、ドロップされた球がプレーヤーやその携帯品に当たった場合にプレーヤーを助けることができる位置に留まらなければなりません。反対に、プレーヤーはドロップされてインプレーになっている球を再ドロップしなければならないと考えるかもしれません。レフェリーはプレーヤーがインプレーになっている球を拾い上げることを防ぐために居合わせるべきです。

時には気まずい状況も生じるでしょう。レフェリーは毅然として積極的でなければなりません。十分な時間をとる必要があります。いつでも規則書を参考にするのはよいことであり、そのことはプ

プレーヤーに規則書を読ませてあげるためにも役立ちます。問題に直面したとき、プレーヤーの意図を確かめることはかなりの援助となります。プレーヤーの意図の判定は通常の疑わしい行動の場合にもまた非常に役立ちます。例えば、プレーヤーがバンカー内で砂の深さをテストするように見えた場合、あるいは取り除くような目に見えるルースインペディメントがないときにパットの線に触れる場合です。

規則やローカルルールに加えて、レフェリーはトーナメントによってよく変わることがある競技の条件をよく理解していなければなりません。もしもスロープレーに直面した場合、レフェリーは所定の手順に従って行動することができるように、プレーのペースについての競技規定には特に注意を払うべきです。

3. オブザーバー

ゴルフ規則でオブザーバーは、「事実問題の判定について審判員を補佐するとともに、規則違反があればそれを審判員に報告するよう委員会によって任命された人をいう」と定義されています。プレーが始まる前に、それぞれの職務についてオブザーバーと合意に達していることはレフェリーにとって重要です。通常、可能な限りそのマッチに先行して職務にあたるのがオブザーバーにとって最善です。レフェリーはいつでもプレーヤーのそばにいて、すぐに質問に答えられなければなりません。

オブザーバーは、球が来て止まることが予想される区域に立つことで、プレーヤーの近くにいるレフェリーでは裁定することができそうもない事実問題を判断することができます。例えば、プレーヤーの球がアウトオブバウンズなのか、あるいは球がウォーターハザードの限界をどこで最後に横切ったのかを探しに出かける前に知ることはいつでも役に立ちます。ルールズオフィシャルだけがそうした事実を適切に判定することができます。同様に、局外者（観衆のような）によって球の方向が変更されたり止められたときに、その球がまだ動いていたかどうか、もしそうであるならば方向を変えられたことは意図的であったのかどうか、あるいはその球は止まってから局外者によって動かされたのかどうかを知ることは重要です。止まってから動かされたのなら、オブザーバーはその球が止まっていた元の場所を知ることができます。

プレーヤーたちがそれぞれのホールの反対側で困っているときは、それぞれの球に対するプレーを観察できるようにするために、可能であればオブザーバーは一方の球のそばにすることが望ましいと言えます。なるべく、次のプレーの前には通常的位置に戻れるように先にプレーされる方の球を見るべきです。

大観衆がいる場合、オブザーバーはプレーに先行して位置することで別の職務を遂行することができます。フェアプレーが行われることを確実に手助けするために、起こり得る観衆による妨害を防ぐことはレフェリーの職務です。オブザーバーは、パッティンググリーンに向けてショットが行われる前に観衆に注意を喚起したり、球が行きそうな場所から観衆を移動させたり、また観衆の中に入ってしまったかもしれない球を守るときに役立つことがあります。多くの場合、オブザーバーは観衆を適切にコントロールするためにマーシャルとともに行動する必要があるため、レフェリーより行動しやすい位置にいます。マッチや組においては、オブザーバーが注意を喚起してくれるとレフェリーにとって非常に役立ちます。

4. 委員会のメンバー

委員会のメンバーが偶然、あるいはコースの特定の場所に配置されてプレーを見ている場合、彼らの職務はレフェリーのものとは異なります。レフェリーのいないマッチプレーでは、個々のマッチに関わるプレーヤーたちがそれぞれのプレーヤー自身の利益を守ることになり、相手が違反に気付く場所にいないということが明らかな場合を除いては、委員会のメンバーが目にする規則違反に注目する理由はありません。相手が違反に気付く場所にいなかったのであれば、委員会のメンバーはプレーヤーの違反を相手に伝えるべきでしょう。その後クレームをしたいと思うかどうかを決定するのはその相手側の問題です（裁定 2-5/1 参照）。そうでない場合は、委員会のメンバーは相手のクレームが提起されたときにプレーヤーを援助するためだけにコースに存在しているのです（規則 2-5 参照）。その状況の対処の仕方は、委員会が個々のメンバーに委員会を代表して最終の裁定を与える無制限の権限を与えているかどうかによります。このことは委員会が事前に明確しておくべき問題です。しかしながら、どちらのサイドもマッチの状態をいつでも知る権利があるというというのがマッチプレーの原則なので、裁定を保留することは特別な事情のあるときにだけの手段として使われるべきです。

ストロークプレーでは状況は異なります。どの競技者も他のすべての競技者のプレーについて直接の利害関係があります。それゆえ、すべての委員会メンバーは競技に参加しているどの競技者の利害をも代表する義務があります。従って、委員会のメンバーは起こり得るいかなる規則違反についても処置しなければなりません。このことは、競技者に、手順について速やかに質問することによって行います。また、委員はコースで裁定を行うために呼ばれることでしょうし、そうした裁定は、即決の緊急性がないということを除いてマッチプレーと同様に対処されなければなりません。



委員会のメンバーはコースのあらゆるところに配置されます。その役割はプレー形式によって様々です。

第8章 その他の内容

1. エントリーフォーム

ほとんどのオープンアマチュアイベントとプロフェッショナルイベントでは、参加者はエントリーフォームに必要事項をすべて記入しなければなりません。委員会はエントリーフォームの中で参加資格、競技形式、日程と練習日、競技に適用されるすべての競技の条件、そしてエントリーの締め切り日といった事柄について明確にしておかなければなりません。

さらに、競技の条件を取り決めたり変更したりする権利や、いつでもその裁定理由を示すことなしにエントリーを受け付けたり、拒否する権利を有しており、すべての事項について委員会の裁定は最終であるということを述べている注意書きを含むことは委員会にとって望ましいことです。(付録AのThe Open Championshipのエントリーフォームを参照のこと)

2. 服装規制事項

委員会が競技の期間中に服装規制事項（例えば、短パンやデニムの着用を禁止すること）を導入したいと願うならば、そうした規制事項は関係するプレーヤーたちに明確に示されるべきです。これに加えて、そのドレスコードがキャディーにも適用となるのかどうかを述べることは重要です。プレーヤーとキャディーは競技に先立っていかなる規制についてもよく認識しておかなければなりません。

委員会は服や用具への営利的な広告マークの規制を設けることができます。そのような場合、そうした禁止事項はその競技のエントリーフォームの中で事前に記されるべきです。

3. スコアボード

その競技の性質にもよりますが、委員会はストロークプレーでのラウンドスコアやマッチプレーでのラウンドごとの勝者を掲示するスコアボードを準備したいと思いかもしれません。可能であれば、そうしたスコアボードは18番グリーンの近くに置かれるべきですが、直接プレーに関わるような場所や、プレーヤーがスコア記録所に入っていくのに邪魔になる場所に設置してはなりません。

トップクラスのアマチュア及びプロフェッショナルの競技ではホール・バイ・ホールのスコアを提示するオンコース・スコアボードが設置されることがあります。こうした場合、プレーヤーやそのキャディーがスコア係りにスコアについての情報提供をすることを求められることをあらかじめ告知しておかなければなりません。

4. 早朝、午後スタートのプレーヤーへの便宜

朝早くスタートするプレーヤーに便宜を図るために、委員会は練習場、ゴルフショップ、飲食施設を1組目のスタート時間の少なくとも1時間前には確実にオープンしているようにしなければなりません。

同様に、スタートの最後に近いプレーヤーにも最終グリーンをホールアウトしてから1時間かそれ以上そうした施設を利用する機会を与えるべきです。

5. ストロークインデックス

委員会はそれぞれのコースについてストロークインデックスと呼ばれる、与えられたハンディキャップストロークを受けるホールの順番を示すリストを作成しなければなりません(規則 33-4)。この順番は倶楽部のスコアカードに記載されるべきです。

伝統的に、ストロークインデックスの順番を決めるための基本的な原則はひとつではありませんでした。ある場合には、マッチプレーに準拠してストロークインデックス 1 は最も必要だと思われるホールに割り当てられる一方で、また別の場合には、ストロークプレーに準拠してパーをとることが最も困難だと思われる順番にホールを配置します。また単に数式に基づいてマッチプレーとストロークプレーでストロークインデックスを分ける場合もあります。

しかしながら、あるその他の因子がいつも考慮に入れられてきました。極端に初めのホールや終わりのホールには低いストロークインデックスを割り当てるべきではありません。その理由は、もしゲームがオールスクエアで終わり、プレーヤーたちが勝者を決めるために 19 番ホールやその後のホールに進む必要がある場合に、とても少ないストロークを受けているプレーヤーが 19 番ホールや 20 番ホールでストロークを受け取ることになると不当な優位性を得ることになります。同様に、低いストロークインデックスがラウンドの極端に後のホールに割り当てられるならば、わずかなハンディキャップストロークを受けているプレーヤーは、そこに行くまでにゲームが終わってしまうこともあるのでそうしたストロークを使う機会を持たないかもしれません。したがって、一般的にストロークインデックスの 1 から 4 は 1,2,17,18 番ホール(マッチが 10 番ホールから始まることが多いコースでは 8,9,10,11 番ホール)に与えられるべきではありません。

ストロークインデックスの順番を決定する際に考慮すべきもうひとつの重要な要因は、ストロークは 18 ホールに渡ってフェアに均等に分配されなければならないということです。ストロークインデックス 1 が最初の 9 ホールにある場合、ストロークインデックス 2 は次の 9 ホールにするべきであるといった具合です。

6. コースレコード

「コースレコード」という用語はゴルフ規則書の中では定義されていません。しかしながら、レコードスコアは公式競技用のホールロケーションとティーインググラウンドを使用して行われた個人戦のストロークプレー競技(ボギー、パーまたはステーブルフォード競技は除く)で記録されたときのみ、公式な「コースレコード」と認識されるとの考えが一般的です。

ローカルルールでプリファードライの運用を認めている場合には、レコードスコアを公式の「コースレコード」とみなすべきではないということをお勧めします。

7. レーキの位置

結論としてはバンカーレーキはバンカーの外に置くべきと考えます。しかしながら、バンカーレーキの位置に関するガイダンスについては、ゴルフ規則裁定集 その他/2 をご参照下さい。

8. エチケットの重大な違反

ゴルフ規則のエチケットの章と規則 33-7 ではエチケットの重大な違反を犯したプレーヤーを競技失格とすることを認めています。エチケットの重大な違反となる場合のガイダンスについてはゴルフ規則裁定集 33-7/8 をご参照下さい。

9. 障害を持つゴルファーのためのゴルフ規則の修正

障害を持つゴルファーが使用するために認められるゴルフ規則の修正を収録した本があり、R&A のウェブサイト(www.randa.org)から入手することができます。この本は健常者のゴルファーに適用するのと同じようにゴルフ規則の修正を行うことを意図しているというよりはむしろ、健常者のゴルファーや他種類の障害を持つゴルファーと公正にプレーができるようにするために障害を持つゴルファーのグループのためにゴルフ規則を適応させることを試みるものです。

規則は競技を運営する委員会によって制定された場合にのみ修正されるということを強調することは重要です。修正された規則は障害を持つゴルファーが関わる競技に対して自動的に適用するものではありません。

10. ゴルフ規則についての質問の提出

R&A 規則委員会宛に提出される規則についての質問の多くは個人から直接送られたために回答されずに返送されます。規則 34-3 に基づいて、疑問や争点はゴルフ倶楽部、協会、あるいはその責任をもつ団体の担当者を通じてのみゴルフ規則委員会に照会することができます。

R & A に加盟している海外諸国のゴルフ倶楽部より多くの質問が寄せられています。このことは規則にしたがった正しい方法ではありますが、ゴルフ規則委員会としてはまずその国のナショナル・ユニオンや協会に直接提出することが望ましいと考えています。そうした団体でさらに疑念が生じた場合にだけ R & A に照会することになります。

ゴルフ規則委員会は英国、アイルランドにあるその他のゴルフ団体や倶楽部から直接寄せられた質問に対しては引き続き回答を行います。

APPENDIX A – THE OPEN CHAMPIONSHIP
ENTRY FORM

ENTRY FORM



TURNBERRY

16, 17, 18 and 19 July 2009

International Final Qualifying – Africa – 3 & 4 February
Closing Date for Entries – 15 JANUARY 2009

International Final Qualifying – Australasia – 10 February
Closing Date for Entries – 22 JANUARY 2009

International Final Qualifying – Asia – 31 March & 1 April
Closing Date for Entries – 12 MARCH 2009

International Final Qualifying – America – 25 May
Closing Date for Entries – 7 MAY 2009

International Final Qualifying – Europe – 8 June
Closing Date for Entries – 21 MAY 2009

Closing Date for all other Entries – 28 MAY 2009



TO BE COMPLETED BY ALL ENTRANTS
Please complete all relevant areas in **BLOCK CAPITALS** and return with entrance fee to the address at the bottom of the page.

FIRST NAME ADDRESS TOWN COUNTY/STATE POSTCODE EXACT HANDICAP IF AMATEUR EMAIL ADDRESS DATE OF BIRTH	FAMILY NAME CITY COUNTRY TEL NO (with all codes) MOBILE NO (with all codes) NATIONALITY eg WELSH
--	---

GOLF CLUB ATTACHMENT

The entrance fee is £125 and, although preferred payment is by credit card, a cheque payable to R&A Championships Limited is acceptable.

MASTERCARD VISA Card Verification Code / Expiry Date / Card No

MAESTRO Issue No Start Date / Expiry Date / Card No

Entrants must complete section 1, section 2 or section 3 below.

1. REGIONAL QUALIFYING (RQ)
Entrants must state RQ courses preferred (see section B) 1st 2nd
Details of PGA Membership/Tour Affiliation

2. INTERNATIONAL FINAL QUALIFYING (IFQ) and LOCAL FINAL QUALIFYING (LFQ)
Entrants under sections D or E, who are not exempt at date of entry under section F, MUST select ONE competition below. Failure to select a qualifying competition will render this entry invalid.

	IFQ AFRICA	IFQ AUSTRALASIA	IFQ ASIA	IFQ AMERICA	IFQ EUROPE	LFQ
Closing Date for entries	15 January 09	22 January 09	12 March 09	7 May 09	21 May 09	28 May 09
Please mark X under the event you wish to play						

Any player on any IFQ reserve list who is notified of a place in the starting field less than 60 hours before the first starting time of that IFQ has the option of transferring his entry to LFQ.

If your Official World Golf Ranking (OWGR) at closing date does not allow entry to your chosen IFQ, you WILL be allocated a place in the starting field for LFQ.

3. THE OPEN
Entrants exempt from RQ, IFQ and LFQ under section F, give details:.....

I HEREBY AGREE TO THE CHAMPIONSHIP CONDITIONS SIGNATURE..... DATE.....

TO BE CERTIFIED ON BEHALF OF PROFESSIONAL ENTRANTS INTO RQ

BY THE PROFESSIONAL GOLFERS' ASSOCIATION OR TOUR OF WHICH THE ENTRANT IS A MEMBER
I hereby certify that the entrant is a male professional golfer and a member of the Professional Golfers' Association or professional tour below noted.

SIGNATURE..... POSITION.....
NAME & ADDRESS OF PGA OR TOUR.....
TEL NO (with all codes).....

TO BE COMPLETED ON BEHALF OF AMATEUR ENTRANTS

BY THE SECRETARY OF THE ENTRANT'S HOME CLUB IF WITHIN GREAT BRITAIN & IRELAND OR BY THE ENTRANT'S HANDICAPPING AUTHORITY IF OUTSIDE GREAT BRITAIN & IRELAND
I hereby certify that the exact handicap of the entrant is under the handicapping scheme adopted in the country from which he has entered and that the entrant, to the best of my knowledge and belief, is an amateur golfer in accordance with the Rules of Amateur Status.

SIGNATURE..... POSITION.....
NAME & ADDRESS OF CERTIFYING AUTHORITY.....
TEL NO (with all codes).....

Return to: ENTRIES DEPARTMENT, THE R&A, ST ANDREWS, FIFE, SCOTLAND KY16 9JD
Tel: 01334 460000 Fax: 01334 460005 Email: entries@randa.org Website: www.opengolf.com

A. CONDITIONS

- (1) The 138th Open Championship will be decided by stroke play over four rounds of 18 holes in accordance with the Rules of Golf as approved by R&A Rules Limited and in accordance with the Local Rules approved by R&A Championships Limited.
- (2) In the event of a tie after four rounds, the winner will be decided by a play-off by stroke play over the 5th, 6th, 17th and 18th holes. The play-off will start as soon as practicable after the last players have finished their round.
The player with the lowest aggregate over the four extra holes will be declared the winner. If the players are still tied having played these four holes, a hole by hole play-off will be played immediately over the 18th hole only until a winner emerges. If the play-off involves more than 2 players, those other than the winner will be deemed to have tied for 2nd place regardless of their scores in the play-off.
- (3) The starting field will be 156 players. The 70 lowest scores over the first 36 holes and any tying for 70th place will qualify for the 3rd round on Saturday 18 July and the 4th round on Sunday 19 July.
- (4) In the event of play being either delayed or declared null and void for any round of the Championship, additional play will be at the discretion of the Championship Committee. Additional play will take place on Monday 20 July and exceptionally Tuesday 21 July.
- (5) R&A Championships Limited arranges publicity before and during the Championship in the Press and by live and recorded radio and television broadcasting and filming and on the Internet. Each competitor by entering the Championship and by agreeing to these terms and conditions assigns to R&A Championships Limited and its assignees and licensees the right in perpetuity throughout the world to make, use, exhibit and reproduce in any way now known or hereafter devised (and to authorise others to do so) for commercial and other purposes from time to time and at their discretion, motion pictures, still pictures, live taped or filmed television, sound recordings and any other reproductions of any description of the competitor made during or in connection with the Championship (including, without limitation, during practice and play) without compensation for the competitor or the heirs, successors, executors, administrators or assignees of the competitor. The competitor also assigns the right to use and reproduce the competitor's name, voice, likeness and biographical material in any way now known or hereafter devised by R&A Championships Limited for the purpose of promoting the Championship and any subsequent Open Championships, without compensation for the competitor or the heirs, successors, executors, administrators or assignees of the competitor including in circumstances where it may include the logo of a third party or of a sponsor or patron of the Championship or any subsequent Open Championship or any other activities undertaken by R&A Championships Limited. Competitors shall be responsible for ensuring that their caddies will assign to R&A Championships Limited and its successors and licensees equivalent rights in relation to the caddie. Notwithstanding the foregoing grant of rights, R&A Championships Limited and its assignees and licensees agree that, other than as permitted above, they will not authorise any company contractually associated with R&A Championships Limited to use the competitor's name, voice, likeness and biographical material in a way which constitutes the endorsement of a product or service, without first requiring such associated company to obtain the competitor's authorisation. Also, to comply with certain contractual limitations relating to advertising on television, competitors assent that they or their caddies may not, without the prior approval of R&A Championships Limited, display any commercial identification on clothing or equipment other than that customarily affixed to and of the normal size and in the normal position on any such clothing or equipment.
- (6) Competitors shall at all times be liable for the actions of their caddies and shall ensure that the caddies comply with the Conditions as they apply to the competitors. Competitors shall ensure that their caddies wear clothing of a type appropriate to The Open Championship and, in particular, caddies shall be required to wear an Open Championship over-garment or bib of a type and design as shall be supplied by the Championship Committee. Caddies will be required to wear such an over-garment or bib during official practice rounds and during the Championship. Competitors' caddies may not wear headgear, visors or any other items of clothing which displays a logo other than the official Open Championship logo unless such logo represents a contract to which the competitor was bound at the commencing date of the Championship or an existing contract to which the caddie was bound as at 1 February 2009.
- (7) All competitors gaining entry to The Open Championship itself are subject to the provisions of the PGA European Tour's Anti-Doping Policy in force at the date of the Championship. Details of the Policy, and the Prohibited Substances and Prohibited Methods, are available from R&A Championships Ltd. Competitors who are taking medication and in doubt as to their clinical status should seek advice from R&A Championships Ltd. not later than 21 days before the start of the Championship.
- (8) A copy of the full pace of play conditions will be posted at each Championship venue and will be available on request.
- (9) The specimen conditions in the Rules of Golf are in effect as regards Driving Clubs, Conforming Golf Balls, One Ball Condition and Time of Starting.
- (10) Competitors must walk at all times during a stipulated round unless permitted to ride by the Championship Committee.
- (11) The Championship Committee reserves the right to amend the Championship conditions and the decision of the Committee will, in all matters, be final.
- (12) These terms and conditions shall be governed by and interpreted in accordance with the law of Scotland.

B. QUALIFYING COMPETITIONS

For those entrants not exempt into the Championship under section F, the qualifying procedure will be as follows:

INTERNATIONAL FINAL QUALIFYING (IFQ)

- (1) IFQ of 36 holes stroke play will be played in 2009 on Tuesday 3 & Wednesday 4 February at Royal Durban, South Africa (Africa), on Tuesday 10 February at Kingston Heath, Melbourne, Australia (Australasia), on Tuesday 31 March & Wednesday 1 April at Sentosa, Singapore (Asia), on Monday 25 May at Gleneagles G & CC, Dallas, Texas, USA (America) and on Monday 8 June at Sunningdale, Berkshire, England (Europe).
- (2) Entrants fulfilling the conditions of sections D(1), D(2) or D(3) may attempt to qualify through either IFQ or LFQ but not both.
- (3) The entrant may play in only one IFQ.
- (4) Each IFQ starting field will not exceed 78 players except IFQ Europe which will not exceed 96 players. If the field of any IFQ does not exceed 20 that particular competition may be cancelled. The entrants concerned may enter a subsequent IFQ or LFQ.
- (5) 3 places each for IFQ Africa and IFQ Australasia, 4 places for IFQ Asia, 8 places for IFQ America and 10 places for IFQ Europe will be available directly into the Championship. Any alteration in the number of available places will be decided by the Championship Committee at its discretion, having regard to the relative strength and size of each IFQ field. Any competitor who has qualified through IFQ is deemed an Exempt Player.
- (6) Ties for last places in each IFQ will be decided by hole by hole play-off as soon as is practicable after the last players have finished play.
- (7) In the event of play being either delayed or declared null and void for any round of IFQ, additional play will be at the discretion of the Championship Committee and may take place on the day following each IFQ.
The qualifying places available at a cancelled IFQ will be allocated to players in the starting field of that IFQ in OWGR order on the date of cancellation. Other competitors will have their entrance fees refunded in full.

LOCAL FINAL QUALIFYING (LFQ)

- (8) Separate LFQ of 36 holes each will be played by stroke play on Monday 6 and Tuesday 7 July 2009 at Glasgow (Gables), Kilmarnock (Barassie) and Western Gables.
- (9) For LFQ, the field will be divided evenly between the designated courses. 12 places will be reserved from LFQ for the Championship and these will also be so divided. Any competitor who has qualified through LFQ is deemed an Exempt Player.
- (10) Ties for last places in each competition will be decided by hole by hole play-off as soon as practicable after the last players have finished play.
- (11) In the event of play being either delayed or declared null and void for either round of any LFQ, additional play will be at the discretion of the Championship Committee.

REGIONAL QUALIFYING (RQ)

- (12) To determine qualifiers to LFQ, separate RQ of 18 holes each will be played by stroke play on Wednesday 24 June 2009 at Abridge, Alwoodley, Berwick-upon-Tweed (Goswick), Coventry, Effingham, Enville, Ferndown, Gog Magog, Lindrick, Mere, Musselburgh, Old Fold Manor, Pleasington, Rochester & Cobham Park, Royal Ashdown Forest and Royal Dublin. If the entry exceeds the number that can be accommodated at these courses, additional courses may be added. It may not be possible to allocate all entrants to their preferred courses.
- (13) Entrants must intimate on their entry form which RQ courses they wish to play. If the field of any of these competitions does not exceed 40 that particular competition may be cancelled and the entrants concerned required to play in another RQ. After allowing for players who fulfill the conditions under section E, the number of qualifying places available in LFQ will be determined by the size of each field.
- (14) Ties for last places in each competition will be decided by hole by hole play-off as soon as practicable after the last players finish their round.
- (15) Irrespective of play-off places, see B(14), reserve places in case of subsequent withdrawals from LFQ will be decided by a card countback, if necessary, from each RQ competition. The card countback will use the second 9 holes or 6 or 3 or 2 or 1 hole and, if a tie still arises, the last 6 or 3 or 2 or 1 hole of the first 9 holes and, if a tie still arises, by the drawing of lots.
- (16) In the event of play being incomplete or declared null and void on Wednesday 24 June, the competition will continue or take place on Thursday 25 June at the same venue and at the same starting times. In the event of play being declared null and void on Thursday 25 June, the competition will be cancelled and entrance fees refunded in full. No competitors will go forward from that competition to LFQ.

C. ENTRIES

- (1) Entry into RQ will be accepted from any male professional golfer, from a male amateur golfer whose playing handicap does not exceed SCRATCH and from any female golfer in
 - (i) The top 5 and ties in the 2009 Kraft Nabisco Championship
 - (ii) The top 5 and ties in the 2009 McDonald's LPGA Championship. Blank entries into RQ will be made for this category.
 - (iii) The top 5 and ties in the 2008 US Women's Open Championship.
 - (iv) The top 5 and ties in the 2008 RICOH Women's British Open Championship.
- (2) Entry into IFQ, LFQ or The Open will be accepted from any golfer who fulfils the conditions in section D, section E or section F respectively.
- (3) Amateur entrants from Great Britain & Ireland shall be under the current CONGU handicapping scheme or, from outside Great Britain & Ireland, under the handicapping scheme adopted by the recognised authority controlling golf in the country from which they enter.
- (4) Amateur entrants from Great Britain & Ireland must enter through the Secretary of their Home Club. Amateur entrants from the USA shall enter through their home State Association. Other amateur entrants from outside Great Britain & Ireland shall enter through the Secretary of the recognised authority controlling golf in the country from which they enter.
- (5) Entries to IFQ must be received by the Entries Department no later than the respective closing date for entries. All other entries must be received by the Entries Department no later than Thursday 28 May 2009.
- (6) Entries shall be accepted by the Entries Department only if the entry form is fully completed and signed by the entrant.
- (7) Entrance fees will not be refunded unless intimation of withdrawal is received before the respective closing date for entries. A service charge of £20 will be deducted from all refunds.
- (8) The Championship Committee may require independent certified evidence of the playing ability of entrants.
- (9) All entries will be subject to the approval of the Championship Committee which reserves the right to accept or refuse, or having accepted, subsequently reject any entry without giving reason for its decision.
- (10) The Championship Committee reserves the right to disqualify any competitor making a false statement on his entry form.

D. ENTRY AT INTERNATIONAL FINAL QUALIFYING STAGE is open to:

- (1) Past Open Champions.
- (2) Any player with OWGR pointage at date of entry. A place in the starting field of IFQ will be subject to OWGR ranking on the closing date.
- (3) Anyone who played in the 2008 Open Championship at Royal Birkdale.

E. ENTRY AT LOCAL FINAL QUALIFYING STAGE is open to:

- (1) Past Open Champions.
- (2) Any player with OWGR pointage at date of entry who has not been accepted into the starting field of any 2009 IFQ or has not entered IFQ.
- (3) Anyone who played in the 2008 Open Championship at Royal Birkdale.
- (4) First 10 and anyone tying for 10th place in the 2008 PGA Glenmuir Club Professional Championship.
- (5) First 10 and anyone tying for 10th place in the 2008 PGA of America Club Professional Championship.
- (6) Past playing members of Ryder and Presidents Cup teams.
- (7) Playing members of the 5 leading teams and ties in the 2008 Eisenhower Trophy.
- (8) The Amateur Champions 2004-2008.
- (9) The US Amateur Champions 2003-2007.
- (10) The European Amateur Champions 2003-2007.
- (11) The 2008 English, Scottish and Welsh Amateur Champions.
- (12) The Irish Amateur Champion. Blank entry will be made on behalf of the 2009 Champion.
- (13) The runner-up in each of the 2009 Amateur Championship, for whom a blank entry will be made, the 2008 US Amateur Championship and the 2008 European Amateur Championship.
A tie in the European Amateur Championship will be decided by the better final round score and, if still tied, by the better third round score and then by the better second round score. If still tied, a hole by hole card play-off will take place starting at the 18th hole of the final round.
- (14) The leading 10 R&A World Amateur Golf Ranked entrants, not otherwise exempt, as at WAGR Week 22.
E(7) to E(14) are only applicable if the entrant concerned is still an amateur on 7 July 2008.

F. PLAYERS EXEMPT FROM REGIONAL, LOCAL FINAL AND INTERNATIONAL FINAL QUALIFYING

- (1) First 10 and anyone tying for 10th place in the 2008 Open Championship at Royal Birkdale.
- (2) Past Open Champions born between 17 July 1943 and 19 July 1948.
- (3) Past Open Champions aged 60 or under on 19 July 2009.
- (4) The Open Champions for 1999-2008.
- (5) The first 50 players on the OWGR for Week 21, 2009, intended publication date Monday 25 May 2009.
- (6) First 30 in the final European Tour Order of Merit for 2008.
- (7) The BMW PGA Championship winners for 2007-2009.

(continued overleaf)

- (8) First 3 and anyone tying for 3rd place, not otherwise exempt, in the top 20 of the Race to Dubai for 2009 on completion of the 2009 BMW PGA Championship.
 - (9) First 2 European Tour members and any European Tour members tying for 2nd place, not otherwise exempt, in a cumulative money list taken from all official PGA European Tour events from OWGR Week 19 up to and including the BMW International and including The US Open. Blank entries will be made on behalf of players qualifying in this category.
 - (10) The leading player, not otherwise exempt, in the first 5 and ties of each of the 2009 Open de France ALSTOM and the 2009 Barclays Scottish Open. Ties will be decided by the better final round score and, if still tied, by the better third round score and then by the better second round score. If still tied, a hole by hole card play-off will take place starting at the 18th hole of the final round. Blank entries will be made on behalf of players qualifying in this category.
 - (11) The US Open Champions for 2005-2009. Blank entry will be made on behalf of the 2009 Champion.
 - (12) The US Masters Champions for 2005-2009.
 - (13) The US PGA Champions for 2004-2008.
 - (14) The PLAYERS Champions for 2007-2009.
 - (15) The leading 30 qualifiers for the 2008 TOUR CHAMPIONSHIP.
 - (16) First 3 and anyone tying for 3rd place, not exempt having applied F(5), in the top 20 of the PGA TOUR FedExCup Points List for 2009 on completion of the HP Byron Nelson Championship.
 - (17) First 2 USPGA TOUR members and any USPGA TOUR members tying for 2nd place, not exempt, in a cumulative money list taken from the USPGA TOUR PLAYERS Championship and the five USPGA TOUR events leading up to and including the 2009 AT&T National. Blank entries will be made on behalf of players qualifying in this category.
 - (18) The leading player, not exempt having applied F(17) above, in the first 5 and ties of each of the 2009 AT&T National and the 2009 John Deere Classic. Ties will be decided by the better final round score and, if still tied, by the better third round score and then by the better second round score. If still tied, a hole by hole card play-off will take place starting at the 18th hole of the final round. Blank entries will be made on behalf of players qualifying in this category.
 - (19) Playing members of the 2008 Ryder Cup teams.
 - (20) First and anyone tying for 1st place on the Order of Merit of the Asian Tour for 2008.
 - (21) First and anyone tying for 1st place on the Order of Merit of the Tour of Australasia for 2008.
 - (22) First and anyone tying for 1st place on the Order of Merit of the Southern Africa PGA Sunshine Tour for 2008.
 - (23) The Japan Open Champion for 2008.
 - (24) First 2 and anyone tying for 2nd place, not exempt, on the Official Money List of the Japan Golf Tour for 2008.
 - (25) The leading 4 players, not exempt, in the 2009 Mizuno Open Yomiuri Classic. Ties will be decided by the better final round score and, if still tied, by the better third round score and then by the better second round score. If still tied, a hole by hole card play-off will take place starting at the 18th hole of the final round. Blank entries will be made on behalf of players qualifying in this category.
 - (26) First 2 and anyone tying for 2nd place, not exempt having applied F(25) above, in a cumulative money list taken from all official 2009 Japan Golf Tour events up to and including the 2009 Mizuno Open Yomiuri Classic. Blank entries will be made on behalf of players qualifying in this category.
 - (27) The Senior Open Champion for 2008.
 - (28) The Amateur Champion for 2009. Blank entry will be made on behalf of the champion.
 - (29) The US Amateur Champion for 2008.
 - (30) The European Amateur Champion for 2008.
- F(28) to F(30) are only applicable if the entrant concerned is still an amateur on 16 July 2009.

G. THE STARTING FIELD

In the event of an exempt player withdrawing from the Championship or further places becoming available in the starting field after close of entries, these places will be allocated in ranking order of entrants from OWGR at the time that intimation of withdrawal is received or further places are made available by the Championship Committee. Any withdrawals following issue of OWGR Week 27 will be taken in ranking order from OWGR Week 27. A player who withdraws after the relevant closing date or fails to compete at IFQ, LFO or RQ will not be considered an entrant under this condition.

If a player, having entered, withdraws or otherwise fails to play in any round of any qualifying event, without satisfactory explanation, the Committee reserves the right to not accept an entry into The Open from that player in any subsequent year or years.

H. REGISTRATION

IFQ AND LFO

Competitors must register at the course where they are playing by 12 noon BST on the day prior to the start of the competition. If unable to register in person, competitors may indicate their time of arrival and address for the duration of the competition to the Committee at the venue at which they are playing by telephone or fax to be received before 12 noon BST on the day prior to the start of the competition. The Committee must receive telephone calls personally. A competitor's place may be forfeited if contact has not been made by the stipulated time.

THE OPEN

Competitors must register at Turnberry between 9am BST on Sunday 12 July and 6pm BST on Tuesday 14 July 2009. If unable to register in person, a competitor may indicate his time of arrival and address for the duration of the Championship by telephone or fax to be received before 6pm BST on Tuesday 14 July. Telephone calls must be received at the Championship Office. A competitor's place may be forfeited if contact has not been made by the stipulated time.

I. PRIZES

The winner will be the Champion Golfer of the year and will receive the Championship Trophy, which will be held for that year, and the Championship Gold Medal. The trophy shall be returned in time for the following Championship to an address to be ordered by the Chief Executive but the winner will receive a replica for retention. The runner(s)-up will receive a Silver Salver. The leading amateur in the Championship, unless the winner, will receive a Silver Medal on completion of 72 holes. Other amateurs who complete 72 holes will each receive a Bronze Medal.

Prize money shall be allocated to professional golfers. Players who are disqualified or withdraw from the Championship at any stage or for any reason shall forfeit all prize money. The Championship Committee at its total discretion may waive or otherwise amend this condition. If an amateur golfer wins any qualifying competition, he will receive a memento after the Championship.

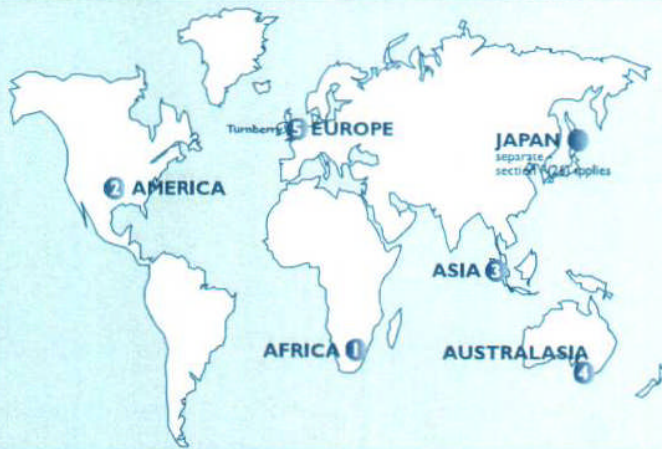
THE OPEN	If more than 70 professional golfers qualify for the final two rounds, additional prize money will be added.
IFQ	In each competition, prize money will be allocated to the first four places.
LFO	In each competition, prize money will be allocated to the first four places.
RQ	In each competition, prize money will be allocated to the first three places.

PETER DAWSON Chief Executive
MICHAEL BROWN Chairman

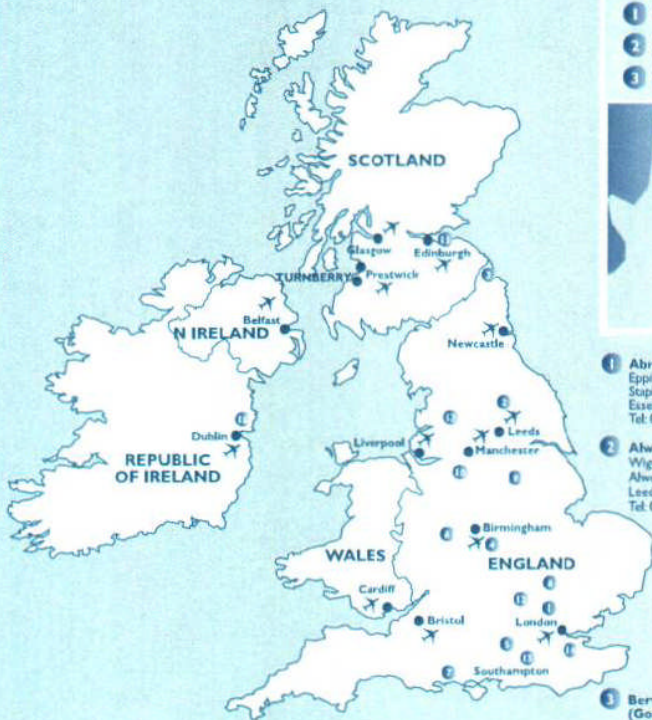


INTERNATIONAL FINAL QUALIFYING VENUES

- 1 **AFRICA**
Royal Durban, South Africa
- 2 **AMERICA**
Gleneagles, Dallas, Texas, USA
- 3 **ASIA**
Sentosa, Singapore
- 4 **AUSTRALASIA**
Kingston Heath, Melbourne, Australia
- 5 **EUROPE**
Sunningdale, Berkshire, England

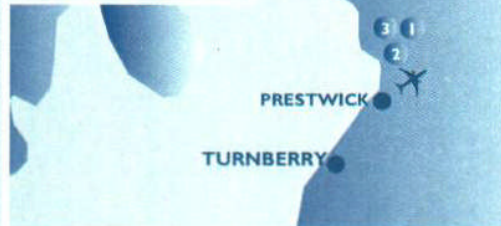


REGIONAL QUALIFYING VENUES



LOCAL FINAL QUALIFYING VENUES

- 1 Glasgow (Gailles)
- 2 Kilmarnock (Barassie)
- 3 Western Gailles



- 1 Abridge
Epping Lane
Stapleford Tawney
Essex RM4 1ST
Tel: 01708 688396
- 2 Ahwoodley
Wigton Lane
Ahwoodley
Leeds LS17 8SA
Tel: 01132 681680
- 3 Berwick-upon-Tweed (Goswick)
Goswick
Berwick-upon-Tweed
Northumberland
TD15 2RW
Tel: 01289 387256
- 4 Coventry
St Martins Road
Finham Park
Coventry
CV3 6RJ
Tel: 02476 414152
- 5 Effingham
Gulford Road
Effingham
Surrey KT24 5PZ
Tel: 01372 452203
- 6 Enville
Highgate Common,
Enville, Scourbridge
Staffordshire DY7 5BN
Tel: 01384 872074
- 7 Ferndown
119 Golf Links Road
Ferndown
Dorset BH22 8BU
Tel: 01202 874602
- 8 Gog Magog
Shalford Bottom
Cambridge
Cambridgeshire CB22 3AB
Tel: 01223 247626
- 9 Lindrick
Lindrick Common
Worksop
Nottinghamshire
S81 8BH
Tel: 01909 475282
- 10 Mere
Chester Road
Mere
Knutsford
Cheshire WA16 6LJ
Tel: 01565 830155
- 11 Musselburgh
Monistonhall
Musselburgh
East Lothian EH21 6SA
Tel: 0131 665 2005
- 12 Old Fold Manor
Old Fold Lane
Hasley Green
Barnes
Hertfordshire EN5 4QN
Tel: 0208 440 9185
- 13 Pleasington
Pleasington, Blackburn
Lancashire BB2 5JF
Tel: 01254 202177
- 14 Rochester & Cobham
Park Pale, by Rochester
Kent ME2 3UL
Tel: 01474 823411
- 15 Royal Ashdown Forest
Chapel Lane, Forest Row
East Sussex RH18 5LR
Tel: 01342 822247
- 16 Royal Dublin
North Bull Island
Nature Reserve
Dollymount
Dublin 3
Ireland
Tel: 00 353 1 833 6346

THE OPEN
www.opengolf.com



Produced in Japan by Rinsen & Co. Ltd.

付属 B 2 ティー・スタート時間

Tusker Kenya Open 2009 Draw for Round 1 and 2



Round 1 Round 2

Game	Time	Tee	Game	Time	Tee	Name	Country	Attachment
1	06:30	1	40	11:30	10	Simon THORNTON	IRL	Royal Co Down GC
						James MORRISON	ENG	St Georges Hill
						Dismas INDIZA	KEN	
2	06:40	1	41	11:40	10	Nick BRENNAN	ZAM	
						Carl SUNESON	ESP	
						David ODHIAMBO	KEN	
3	06:50	1	42	11:50	10	Julien GUERRIER	FRA	Golf du Vandremie
						Rob HARRIS	ENG	Blankney GC
						Garry HOUSTON	WAL	Principal Group
4	07:00	1	43	12:00	10	Robert COLES	ENG	Aspect
						Mark F HAASTRUP	DEN	Hoersholm GK
						Olivier DAVID	FRA	Golf du Vaudreuil
5	07:10	1	44	12:10	10	Roland STEINER	AUT	Fontana GC
						Martin ROMINGER	SUI	Samedan GC
						Louis MOOLMAN	RSA	Gardener Ross G&C Estate
6	07:20	1	45	12:20	10	Greig HUTCHEON	SCO	Peterculter
						John KAGIRI	KEN	
						Richard MCEVOY	ENG	Thorpe Hall GC
7	07:30	1	46	12:30	10	George COETZEE	RSA	Pretoria CC
						Richard AINLEY	KEN	
						Yassin SALEH	TZA	
8	07:40	1	47	12:40	10	Thomas FEYRSINGER	AUT	
						Julien QUESNE	FRA	Fourqueux
						Nicholas ROKOINE	KEN	
9	07:50	1	48	12:50	10	James HEATH	ENG	
						Steven JEPPESEN	SWE	Barsebäck G&CC
						Matthew MILLS	ENG	Wentworth
10	08:00	1	49	13:00	10	Marcus HIGLEY	ENG	Yeovil GC
						Noel FOX	IRL	MMI
						Lloyd KENNEDY	ENG	Chelmsford Golf Club
11	08:10	1	50	13:10	10	Javier COLOMO	ESP	Crow Legacy Company
						Alan WAGNER	ARG	
						Louis DE JAGER	RSA	Gardener Ross G&C Estate
12	08:20	1	51	13:20	10	Johan WAHLQVIST	SWE	Barsebäck G&CC
						Jamie LITTLE	ENG	Bridle Insurance Brokers
						Alan MURRAY	IRL	Team Ireland
13	08:30	1	52	13:30	10	Nicolas VANHOOTEGEM	BEL	Royal Waterloo GC
						Ganive GIDDIE (AM)	KEN	Sigona GC
						Julien CLÉMENT	SUI	Payane GC

08 April 2009

08:51 PM

Tusker Kenya Open 2009
Draw for Round 1 and 2



Round 1

Round 2

Game	Time	Tee	Game	Time	Tee	Name	Country	Attachment
14	06:30	10	27	11:30	1	Gary BOYD	ENG	Cherwell Edge
						Christopher WILLIAMS	RSA	Modderfontein GC
						Neil CHEETHAM	ENG	Lees Hall GC
15	06:40	10	28	11:40	1	Gerald GRESSE	BEL	Royal Golf Club du Sart Tilman
						Andrew MCARTHUR	SCO	
						Trevor FISHER JNR	RSA	Modderfontein GC
16	06:50	10	29	11:50	1	Leif WESTERBERG	SWE	Sollentuna GK
						Andreas HÖGBERG	SWE	AIK
						Oscar FLOREN	SWE	Ojared GK
17	07:00	10	30	12:00	1	Rodolfo GONZALEZ	ARG	TPG Tour
						Gustavo ROJAS	ARG	
						Tim DYKES	WAL	Wrexham GC
18	07:10	10	31	12:10	1	Raphaël DE SOUSA	SUI	
						Kopan TIMBE	KEN	
						Dennis KÜPPER	GER	
19	07:20	10	32	12:20	1	Ken ABUTO	KEN	
						Simon NGIGI	KEN	
						Jacob OKELLO	KEN	The Golf Park
20	07:30	10	33	12:30	1	Pablo DEL GROSSO	ARG	
						Rikard KARLBERG	SWE	ALE GK
						Charles-Edouard RUSSO	FRA	Lacoste
21	07:40	10	34	12:40	1	Julien GRILLON	FRA	
						David WAKHU	KEN	
						Benjamin ALVARADO	CHI	Club de Polo San Cristobal
22	07:50	10	35	12:50	1	Matthew CORT	ENG	
						David GRIFFITHS	ENG	Sea Island
						Nicolas MEITINGER	GER	Avantarde Consulting GmbH
23	08:00	10	36	13:00	1	Kyron SULLIVAN	WAL	Vale-Hotel.com
						Oliver SUHR	DEN	Rungsted GK
						Ben EVANS	ENG	
24	08:10	10	37	13:10	1	Gboyega OYEBANJI	NGR	
						Matthew G GRIFFITHS	WAL	Oakdale GC
						Ajay SHAH	KEN	Great Rift Valley Golf Resort
25	08:20	10	38	13:20	1	Andrew WILLEY	ENG	Tiny Dog Records
						Gareth SHAW	NIR	Lurgan GC
						Martin WIEGELE	AUT	GC Erzherzog Johann
26	08:30	10	39	13:30	1	Christophe BRAZILLIER	FRA	
						Ally MELLOR	ENG	Shanklin & Sandown GC
						Anthony GRENIER	FRA	Moliets

08 April 2009

08:51 PM

Tusker Kenya Open 2009
Draw for Round 1 and 2



Round 1

Round 2

Game	Time	Tee	Game	Time	Tee	Name	Country	Attachment
27	11:30	1	14	06:30	10	Riz CHARANIA	KEN	
						Amos KAMYA	UGA	
						Liam BOND	WAL	Marriott St Pierre
28	11:40	1	15	06:40	10	J�rome FORESTIER	FRA	
						Jan-Are LARSEN	NOR	Miklagard GC
						Sion E BEBB	WAL	Vale of Glamorgan GC
29	11:50	1	16	06:50	10	James LORUM	KEN	
						Gerald AYELLA	UGA	
						Chris GANE	ENG	Sundridge Park GC
30	12:00	1	17	07:00	10	Kasper Linnet JORGENSEN	DEN	Kokkedal GK
						Mark TULLO	CHI	Marbella CC
						Robert D STEELE	ENG	Kenilworth GC
31	12:10	1	18	07:10	10	Stefan ANDERSEN (AM)	KEN	
						Tom WHITEHOUSE	ENG	The Belfry
						Andrew MARSHALL	ENG	
32	12:20	1	19	07:20	10	Ryan CAIRNS	ZIM	Stellenbosch GC
						Charan THETHY	KEN	
						Anil Ashok SHAH	KEN	Royal Nairobi
33	12:30	1	20	07:30	10	Sebastian L SAAVEDRA	ARG	Club de Golf Coroel Pringles
						Dale MARMION	ENG	Eaton GC
						Richard TREIS	GER	
34	12:40	1	21	07:40	10	Hardeep THETHY	KEN	
						Peter NJIRU	KEN	
						Hassan KADIO	TZA	
35	12:50	1	22	07:50	10	Andrew ODOH	RSA	
						Michael McGEADY	IRL	McCambridge Duffy
						Simon ROBINSON	ENG	The Wynyard Club
36	13:00	1	23	08:00	10	Johan AXGREN	SWE	Oijared GK
						Chris RUSSELL	ENG	RAW Golf Course Design
						Michele REALE	ITA	
37	13:10	1	24	08:10	10	Edoardo MOLINARI	ITA	Royal Park Golf
						Fran�ois CALMELS	FRA	Bussy St Georges
						Tiago CRUZ	POR	Oceanico Millenium
38	13:20	1	25	08:20	10	Gregory MOLTENI	ITA	Villa D'este
						George MURRAY	SCO	
						Ricardo SANTOS	POR	Oceanico Victoria GC
39	13:30	1	26	08:30	10	Adam GEE	ENG	The Wisley
						Lloyd SALTMAN	SCO	Aegon
						Alessio BRUSCHI	ITA	Golf Club Le Pavoniere

08 April 2009

08:51 PM

Tusker Kenya Open 2009
Draw for Round 1 and 2



Round 1

Round 2

Game	Time	Tee	Game	Time	Tee	Name	Country	Attachment
40	11:30	10	1	06:30	1	Lee S JAMES	ENG	The Golf Club of Georgia
						Sam WALKER	ENG	
						Jean-Nicolas BILLOT	FRA	Lyon Salvagny Golf Club
41	11:40	10	2	06:40	1	Soren JUUL	DEN	Smørum GC
						Johan SKÖLD	SWE	Brollsta GK
						Anders Schmidt HANSEN	DEN	Juelsminde GC
42	11:50	10	3	06:50	1	André CRUSE	RSA	CC Johannesburg
						Mark J SMITH	MAW	
						Ben MASON	ENG	Cookridge Hall GC
43	12:00	10	4	07:00	1	Peter GUSTAFSSON	SWE	FUTUREWORKS
						Tyrone FERREIRA	RSA	Reading CC
						Lars BROVOLD	NOR	Onsoy
44	12:10	10	5	07:10	1	Max KRAMER	GER	
						Patrick NIEDERDRENK	GER	GC Am Alten Fliess
						Greg SNOW (AM)	KEN	
45	12:20	10	6	07:20	1	Peter O'KEEFFE	IRL	Douglas GC
						Merrick BREMNER	RSA	Cullinan GC
						Ali KIMANI	KEN	
46	12:30	10	7	07:30	1	Mark PILKINGTON	WAL	
						Grant JACKSON	ENG	Garforth GC
						David HEWAN	RSA	CC Johannesburg
47	12:40	10	8	07:40	1	Kelvin PHIRI	ZAM	
						Patrick MWENDAPOLE	ZAM	
						Michiel BOTHMA	RSA	Woodhill CC
48	12:50	10	9	07:50	1	TC CHARAMBA	ZIM	Chapman GC
						Jamie MCLEARY	SCO	Marriott Dalmahoy Hotel & CC
						Bradford VAUGHAN	RSA	Smart/Cutter & Buck
49	13:00	10	10	08:00	1	Andrew BUTTERFIELD	ENG	Sundridge Park GC
						Michael CURTIS	ZIM	Chapman GC
						Adrien BERNADET	FRA	Racing Club de France
50	13:10	10	11	08:10	1	James RUTH	ENG	Tavistock GC
						Vincent BYAMUKAMA (AM)	UGA	
						Victor RIU	FRA	Saint Nom la Breteche
51	13:20	10	12	08:20	1	Benjamin MIARKA	GER	
						Daniel FROEICH	GER	GC Jakobsberg
						Peter WHITEFORD	SCO	Wellsgreen
52	13:30	10	13	08:30	1	Eric RAMSAY	SCO	Carnousite GC
						Iain PYMAN	ENG	Bonalba Golf Resort & Spa
						Kalle BRINK	SWE	Vasatorp GK

08 April 2009

08:51 PM



2009 R&A 選手権及びマッチ

ローカルルール

ゴルフコースにおいて R&A によって定められた追加、修正を含め、次のローカルルールが R&A が運営するすべての選手権と国際マッチに適用される。

1. アウトオブバウンズ(規則 27-1)

- (a) コースの境界を標示している壁、柵、白杭を越えた場合
- (b) コースの境界を標示している白線の上にあるか、白線を越えた場合。球全体がその白線上にあるか、越えた場合、その球はアウトオブバウンズである。
- (c) コースの境界を標示している溝の中にあるか、その溝を越えた場合

注：アウトオブバウンズが白杭や柵柱(支柱を除く)によって標示されている場合、その杭や柱の地表レベルで最も近い 2 点を結んだ線が境界を標示する。球全体がその線上にあるか、その線を越えた場合、その球はアウトオブバウンズである。

2. ウォーターハザード(ラテラル・ウォーターハザードを含む)(規則 26)

ウォーターハザードは黄杭あるいは黄線で標示し、ラテラル・ウォーターハザードは赤杭あるいは赤線で標示する。

注：ウォーターハザードに対してのドロップ区域

ウォーターハザードに対してドロップ区域がある場合、球を規則 26 に基づいてプレーするか、1 打の罰のもとに球がそのウォーターハザードの限界を最後に横切った地点から最も近いドロップ区域に球をドロップすることができる。

ドロップ区域へのドロップ、再ドロップに関する規定については、ゴルフ規則付属 I (B)8 の注を参照のこと。

3. 修理地(規則 25-1)

- (a) 白線によって囲われた区域
- (b) ルールズオフィシャルによって異常とみなされた地面の損傷区域(例 観客や自動車の移動によるもの)
- (c) ケーブル溝を覆っている芝
- (d) フレンチドレイン(石を敷き詰めた水路)
- (e) 貼り芝の継ぎ目；ゴルフ規則のローカルルール参考例を実施する(付属規則 I (B)4e 参照)
- (f) スルーザグリーン(スルーズザグリーン)の芝草を短く刈ってある区域にあるヤーデージマーキングのペイントによる球のライ、意図するスイング区域に対する障害からの救済を受けることができる。

4. 動かさない障害物(規則 24-2)

- (a) 動かさない障害物として標示された区域に接合する白線の区域はその障害物の一部とみなされ、修理地ではない。
- (b) 障害物によって囲われた庭園はその障害物の一部とする。
- (c) ケーブルを覆っている保護マットやプラスチックの接続部は動かさない障害物である。

5. コースと不可分の部分

- (a) コースの境界を標示する固定物に近接するすべてのケーブルや広告板
- (b) 木や他の恒久物に近接するワイヤ、ケーブル、巻物、その他の物
- (c) ウォーターハザード内にある護岸用の人工の壁、杭

6. バンカー内の石

バンカー内の石は動かせる障害物とする(規則 24-1 適用)。

7. パッティンググリーン上のターフプラグ

すべてのパッティンググリーン上で、ターフプラグは古いホールの埋め跡と同じ取り扱いとなり、規則 16-1c に基づいて修理することができる。

8. バンカーの側面

積み芝で作られているバンカーの側面は「芝草を短く刈ってある区域」とはみなさない(規則 25-2)。

9. 臨時の動かさない障害物

R&A によって発行されるすべての追加、修正ローカルルールとともに、ゴルフ規則のローカルルール参考例を実施する(付属規則 I (B)7)。

10. 臨時の動力線とケーブル

ゴルフ規則の参考例を実施する(付属規則 I (B)7b)。

ローカルルールの違反の罰：

マッチプレー ホールの負け ストロークプレー 2打

競技の条件

申込書あるいはゴルフコースのものに R&A よって定められた追加、修正とともに、次の条件を R&A によって運営されるすべての選手権、国際マッチに対して規則 33-1 に基づいて適用する。

1. 参加資格

プレーヤーは特定の選手権の参加申込書で定められている参加資格の規定を満たしていなければならない。

2. 適合ドライバーヘッドリスト

ゴルフ規則の条件参考例を実施する(付属規則 I (C)1)。

注：R&A のウェブサイト(www.randa.org)より最新の適合ドライバーヘッドリストを入手できる。また、このリストは選手権本部においても入手できる。

3. 公認球リスト

ゴルフ規則の条件参考例を実施する(付属規則 I (C)1b)。

注：R&A のウェブサイト(www.randa.org)より最新の公認球リストを入手できる。また、このリストは選手権本部においても入手できる。

4. スタート時間(規則 6-3 注)

ゴルフ規則の条件参考例(所謂、5 分条件)を実施する(付属規則 I (C)2 参照)。

5. プレーのペース(規則 6-7 注)

(a) 許容時間

各ホールには、そのホールの長さや難易度に基づいた最大終了時間が与えられる。18 ホールを終了するための許容最大時間はプレー前に入手できる。

アウトオブポジションの定義：

最初の組と「スターターズギャップ」後の組は、その組の累積時間はラウンド中のどの時点においても、終了したホール数に対する許容時間を超えた場合、「アウトオブポジション」とみなされる。その後の組は、前の組とのスタート間隔を越え、終了したホール数に対する許容時間を超えた場合、「アウトオブポジション」とみなされる。

(b) 組がアウトオブポジションの場合の処置

1. 組の時間を計測することを決定した場合、その組の各プレーヤーはルールズオフィシャルによって個別に計測されることになる。その組の各プレーヤーは彼らが「アウトオブポジション」であり、計測されることを告げられる。
2. ショットごとの最大許容時間は 40 秒である。次の場合に最初にプレーするプレーヤーにはさらに 10 秒が許される。
 - ▽ パー3 のホール
 - ▽ アプローチショット
 - ▽ チップ、パット

計測はプレーヤーが自分の球に到着する十分な時間を与え、プレーの順番となり、障害がなしにプレーすることができるようになった時から開始される。

パッティンググリーン上では、球を拾い上げてふいて、リプレースし、ボールマークを修理し、パットの線上のルースインペディメントを取り除くための合理的な時間を与えて計測を開始する。ホールに向こう、あるいは球の後ろからラインを読む時間は次のストロークのための時間の一部として計算される。

3. 計測はその組がインポジションに戻ったときに終了し、プレーヤーはそのことを知らされる。
この競技の違反の罰：

1	バッドタイム	プレーヤーはさらにバッドタイムとなった場合には罰を受けることを告げられ、オフィシャルより注意を与えられる。
		ストロークプレー マッチプレー
2	バッドタイム	1 打の罰 ホールの負け
3	バッドタイム	更に 2 打の罰 最終警告
4	バッドタイム	競技失格 競技失格

- (c) 同じラウンドで再度アウトオブポジションとなった場合の処置

同じ組が 1 ラウンドの間に 2 回以上アウトオブポジションとなった場合、そのたびごとに上記の処置が適用となる。同じラウンドでのバッドタイムや罰の適用はそのラウンドの終了まで持ち越される。プレーヤーが最初のバッドタイムを知らされる前に 2 つ目のバッドタイムとなった場合、そのプレーヤーに罰は適用されない。

6. 険悪な気象状況によるプレーの中断(規則 6-8b 注)

ゴルフ規則の条件参考例を実施する(付属規則 I (C)5)。

注：危険な状況によるプレーの中断は 1 回の長いサイレンで合図される。その他のすべての中断は連続する 3 回の短いサイレンの繰り返しで合図される。プレーの再開は連続する 3 回の短いサイレンの繰り返しで合図される。

7. 練習(規則 7-1)

ストロークプレーでは規則 7-1b の規定を適用する。マッチプレーでは、競技のすべての日について選手権コース上の練習はプレーヤーの最初のマッチの前と、マッチとマッチの間は禁止される。

この条件の違反の罰：

競技失格

注：コースの境界内にあるすべての指定練習区域は選手権のすべての日に練習のために使用されることになる。

例外：国際マッチ — 委員会に問い合わせること

8. ティーム競技でのアドバイス(規則 8 注)

ゴルフ規則 8 注にしたがって、チームのメンバーにアドバイスを与えることができる人(規則に基づいてアドバイスを求めることができる人に加えて)を指名することができる。その人はアドバイスを与える前に委員会に届出しておかなければならない。

9. 移動

ゴルフ規則の条件参考例を実施する(付属規則 I (C)9)。

10. アンチ・ドーピング

プレーヤーは参加する選手権あるいはマッチのために関連する申込書、事前注意、ゴルフコースに詳細に定められたアンチ・ドーピング・ポリシーに従うことが要求され、拘束される。

11. スコアカードの提出

プレーヤーがレコーディングオフィス/エリアを離れた時点でスコアカードを提出したものとみなされる。

12. タイの決定

タイの決定方法は関連する申込書に規定されるか、R&A によってゴルフコースで定められる。

13. マッチ、あるいは選手権の結果—競技の終了時点

(a) マッチプレー

マッチの結果は選手権本部に結果が記録された時点で正式に公表されたものとみなされる。

(b) ストロークプレー

選手権トロフィーが優勝者に授与された時点で、その競技の結果は正式に公表されたものとみなされ、競技は終了する。

例外：ジ・オープンの予選競技 — 委員会に問い合わせること

R&A 選手権競技委員会

2009 年 1 月

付属 D 臨時の動かさない障害物に関するローカルルールの簡単な解説

次の本文と図は TIO のローカルルールを説明しています。タイトルで示している通り、この解説は TIO のみを扱っています。臨時の動力線とケーブルについては付属規則 I (B) 7b の別のローカルルールで扱っています。

臨時の動かさない障害物のローカルルールについて、このローカルルールの 5 つの項のそれぞれの重要なポイントは次のとおりです。

I. 定義

TIO とは、競技の際によく建てられる恒久的でない人工の物件として定義され、固定されているか容易に動かさないものです。

サポート用のガイワイヤは委員会が空中に張られたラインあるいはケーブルとして宣言しない限り、それは TIO の一部となります。

II. 障害

2 種類の障害があり、そのために 2 つの救済方法があります。通常障害物の救済と同様の救済は、球が TIO の外で、TIO の前にあり、TIO がプレーヤーのスタンスや意図するスイング区域に対して物理的に障害となっている場合にのみ救済を与えるために用いられます。TIO の「前」にある球とは球とホールを結ぶ等距離の円弧上に沿って 1 クラブレンジスを計測した場合に、TIO のどの部分も球よりホールに近い所にはない場合です(図 1 の球 A, B 参照)。

介在の救済は、球が TIO の中、上、下あるいは後ろにあるため TIO の一部が球とホールの間に直接介在しているか、その球がそのような場所から 1 クラブレンジス以内にある時に救済が与えられることとなります。TIO はプレーヤーのプレーの線上になければなりません。場合によっては、TIO がプレーヤーのスタンスや意図するスイング区域に対して物理的に障害となっていないかもしれませんが、このことは介在が生じているという事実を変えるものではありません。注は球が TIO の下にあることを決めるための「ドリップライン(滴下線)」の概念を述べています(図 1 球 C, D 参照)。

要約すると、プレーヤーの球が TIO(ホールへの直線上にあり、かつ、プレーの線上にある)の中、上、下あるいは後ろにある場合、救済の処置は TIO から 1 クラブレンジス以上、2 クラブレンジス以内にドロップすることです。プレーヤーの球が TIO の前にあって(第 1 段落参照)、物理的な障害が生じている場合にのみ、救済のニヤレストポイントを決定し、そのポイントから 1 クラブレンジス以内でホールに近づかないところに球をドロップすることになります(つまり規則 24-2 と同様の処置をします)。

Ⅲ. 救 済

救済の項の重要な要素には次のことが含まれます。

- (a) アウトオブバウンズにある TIO からプレーヤーが救済を受けられることを明確にすること
- (b) 注は球がハザード内にある場合、適用できるのであれば規則 26 あるいは規則 28 に基づく処置もとることができることを規定している。
- (c) もう一つの注はドロップ区域や“Ball Drop”を採用するローカルルールの採用や、TIO の反対側(すなわち、救済のニヤレストポイントが右側であってもその障害物の左側にドロップすることができる)にその球をドロップすることを認めるローカルルールの採用を認めています。

3 項の例外へは規則 24-2 を本質的に写しており、同様の原則を適用しています。

球が他の理由でプレーすることが不可能だったり、球をホールまでの直線上に持っていくストロークを行うことが何らかの理由で妨げられている場合、あるいは TIO に届かせることが何らかの理由で妨げられている場合は救済を認めるべきではありません。

4. 紛失球

球を TIO の中、上、下で紛失したプレーヤーは適用できるのであれば 3 項あるいは 5 項となります。3 項あるいは 5 項は球が最後に TIO を横切った所にあったものとしてみなし処置することを明確にします。そのためにその障害物の限界が垂直に上方に及ぶものとします。

5. ドロップ区域 (ボールドロップ)

この項はプレーヤーに TIO からの障害が生じた場合に、委員会はドロップ区域の使用を認めたり、要求することができることを規定しています。このような区域の使用に関連する最も一般的な再ドロップについての質問に関しては付属規則 I (B)8 に規定する「ドロップ区域」をご参照下さい。

次の図は臨時の動かせない障害物 (TIO) のローカルルールの運用をイラストにしたものです。

図 1

2項「前に」の定義

球 A は TIO から 1 クラブレンジス以内にありますが、TIO の「前に」あります。

なぜなら、その 1 クラブレンジスの計測はホールと等距離の円弧に沿って行われなければならないからです。TIO が介在しているかを定めるためにそれ以外の方向に計測することは禁止されます。TIO からの物理的な障害もないので、球 A についてはこのローカルルールに基づく救済はありません。

球 B も TIO の「前に」ありますが、この場合、TIO が物理的に障害となります。

通常の障害物からの救済(救済のニヤレストポイントから 1 クラブレンジス以内)を適用できます(図 2 参照)。

球 C は TIO からの物理的な障害はありませんが、TIO が球とホールとの間に介在する所から 1 クラブレンジス以内にありますが、介在の救済(1 クラブレンジス以上、2 クラブレンジス以内)が適用できます(図 2 参照)。

球 D は TIO からの物理的な障害はありませんが、球から 1 クラブレンジス以内の TIO の一部が球の前にあります。介在の救済(1 クラブレンジス以上、2 クラブレンジス以内)が適用できます(図 2 参照)。

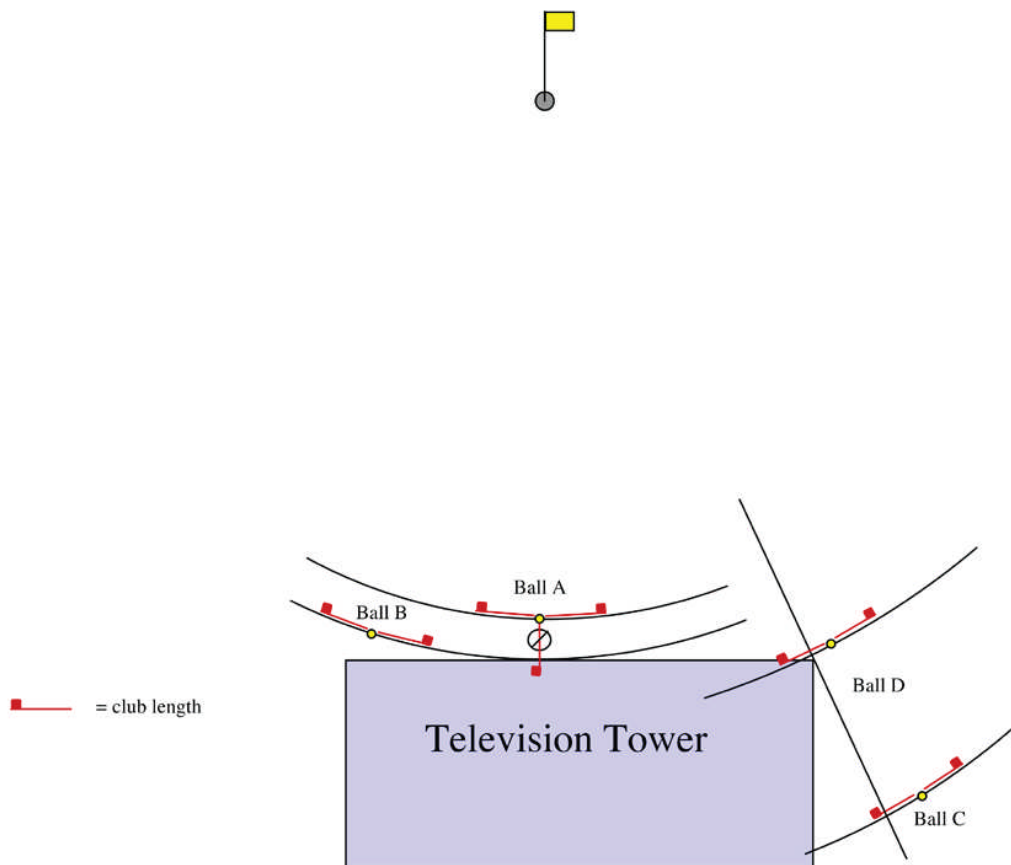


図2

図1の球B,C,Dに対する救済の図解 - 3項(a)

球 B

X 点は、TIO の障害から救済を得られるホールに近づかないハザード以外の場所で球 B が止まっていた箇所から最も近い地点です。球は X 点から 1 クラブレングス以内の斜線部分にドロップされなければなりません。このケースでは球 B は TIO による障害が生じているだけで、TIO は介在していませんが、重要なことなので追記しておきますと、このローカルルールによる救済を受ける場合、救済を受けてドロップする箇所(斜線の部分)は第 2 項に規定する障害、つまり介在の障害からの救済も受けられる場所でなければなりません。したがって、斜線の部分が多少変形するのです。

球 C

Y 点は球とホールを結ぶ等距離の圆弧に沿って存在する介在から 1 クラブレングスの地点です。球は Y 点から 1 クラブレングス以内の斜線部分にドロップされなければなりません。

球 D

Z 点は球とホールを結ぶ等距離の圆弧に沿って存在する介在から 1 クラブレングスの地点です。球は Z 点から 1 クラブレングス以内の斜線部分にドロップされなければなりません。

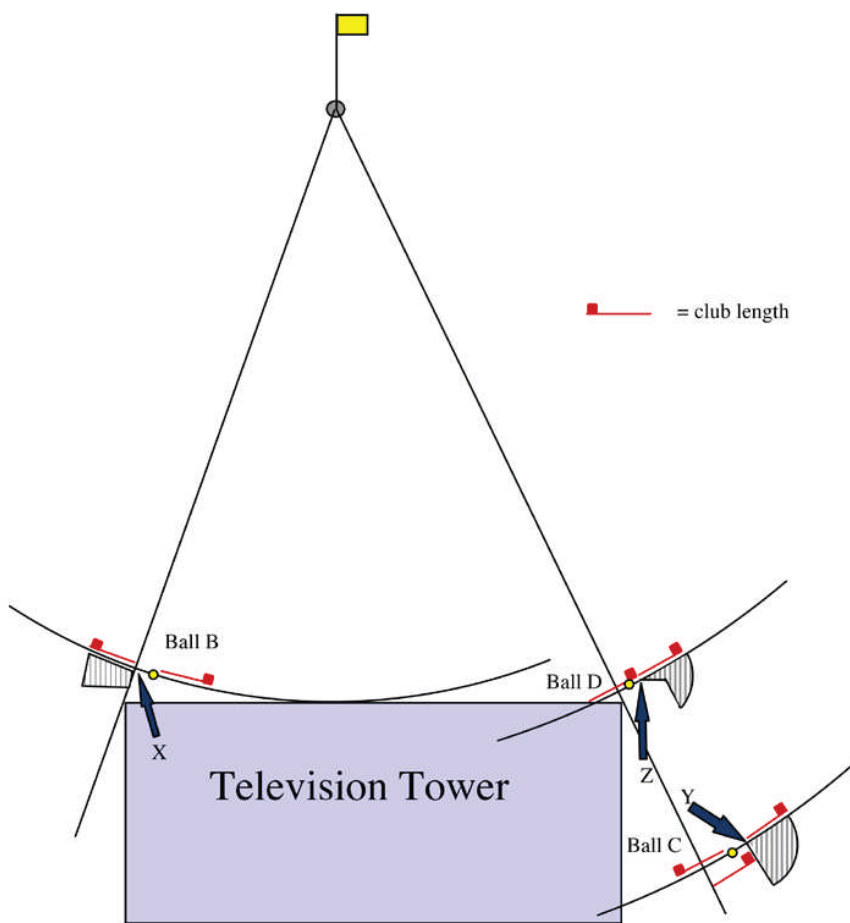


図3

TIOの中、または下にある球 — 3項

球AはTIOの「中」にあり、したがって介在しています。救済を受ける場合、最初の処置は球とホールを結ぶ等距離の円弧上に沿ってTIOの端から1クラブレングスを計測することです。この1クラブレングスの円弧の延長がY点です。球はY点から1クラブレングス以内の斜線部分にドロップされなければなりません。

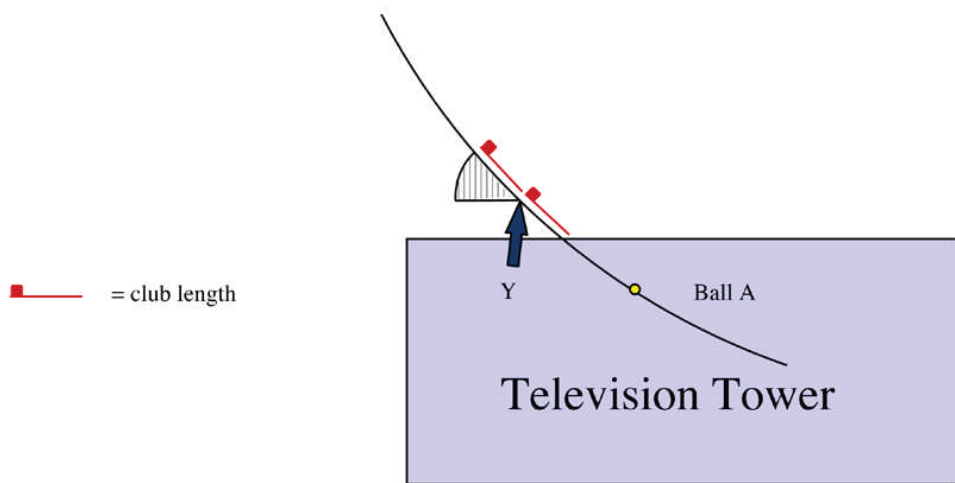


図4

TIOの「中、上、下」にある球 - 3項

球AはTIOの「中」にあります。X点は球とホールを結ぶ等距離の円弧上に沿って計測してTIOから1クラブレングスの地点であり、介在からの救済を受けます。しかし、X点は意図するスイング区域に対してTIOの物理的な障害が生じます。Y点は介在と物理的な障害の両方からの救済を受けられ、X点から最も近い地点です。球はY点から1クラブレングス以内の斜線部分にドロップしなければなりません。

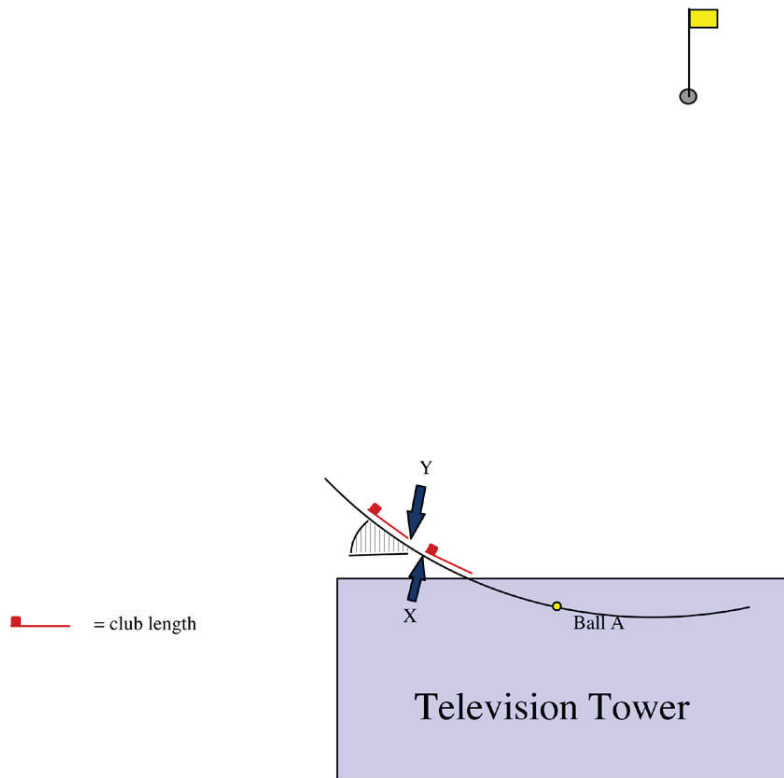


図5

2項と3項例外

注：テレビ塔がホールから 200 ヤードの所にあります。木々を越えてのプレーや、下を通してのプレーをすることは不可能な状態です。

球 A は TIO の後ろにあります。TIO はホールへの直線上にありますが、木があるためにプレーの線上(点線)にはなりません。したがって、プレーヤーに障害は生じず、救済を受けることはできません。

球 B は TIO の後ろにあり、ホールへの直線上とプレーの線上にもあります。したがって、プレーヤーに障害が生じています。救済を受ける場合は TIO がホールへの直線上にないように救済を受けなければなりません(斜線部分 X)。

球 C は TIO の後ろにあります。木があるので、TIO の方向へのプレーの線は合理的ではなく、このローカルルールに基づく救済を受けることはできません。しかしながら、TIO が横に出すためのストロークに物理的に障害となる場合は規則 24-2 に基づく救済を受けることができます。

球 D は球とホールとの間に TIO が直接は介在しない場所にありますが、点線で示されたプレーヤーの意図するプレーの線上に TIO があります。しかしながら、TIO がプレーの線上にだけ介在しており、ホールと球を結んだ直線上にない場合には、このローカルルールに基づく救済を受けることはできません。

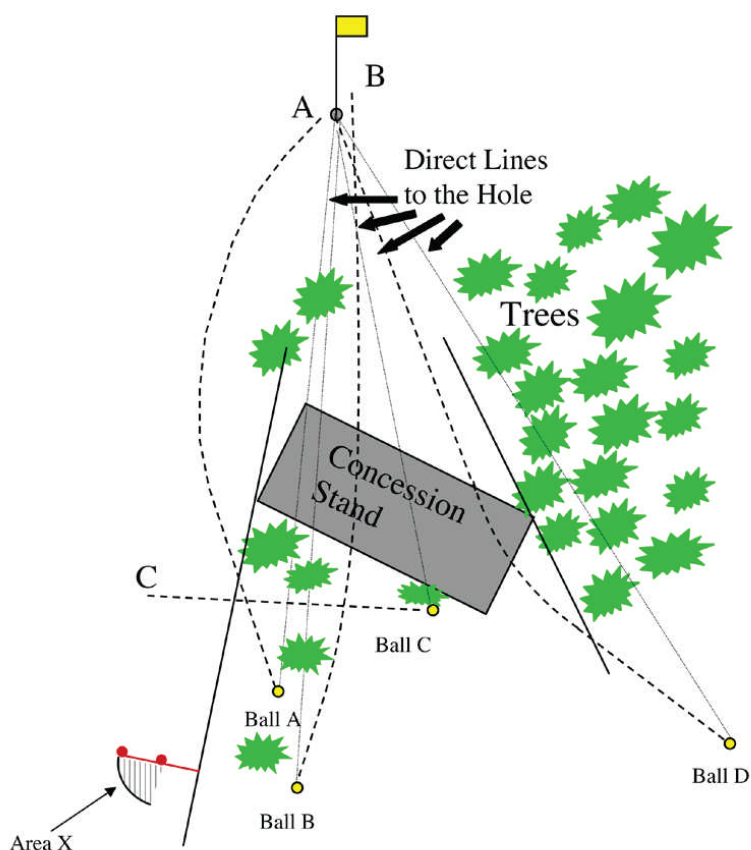


図6

外壁のない TIO からの救済

球 A は TIO の下にあります。X 点は球とホールを結ぶ等距離の円弧上に存在する介在から 1 クラブレングスの地点です(TIO の外側の限界は高さに関係ありません)。球は X 点から 1 クラブレングス以内の斜線部分にドロップされなければなりません。

球 B は TIO の後ろにあります。Y 点は球とホールを結ぶ等距離の円弧上に存在する介在から 1 クラブレングスの地点です(TIO の外側の限界は高さに関係ありません)。球は Y 点から 1 クラブレングス以内の斜線部分にドロップされなければなりません。

球 C は TIO の前にあり、TIO の「ドリップライン」から 1 クラブレングスの等距離の円弧上にはありません。意図するスイング区域やプレーヤーのスタンスが TIO の中に入ったとしても、実際の建造物からの物理的な障害は生じないので救済を受けることはできません。

球 D は TIO から物理的な障害はありませんが、TIO の「ドリップライン」を考えると、その TIO の一部は球とホールを結ぶ等距離の円弧上に沿って計測された球から 1 クラブレングス以内にあります。球は Z 点から 1 クラブレングス以内で斜線で示されている区域にドロップしなければなりません。

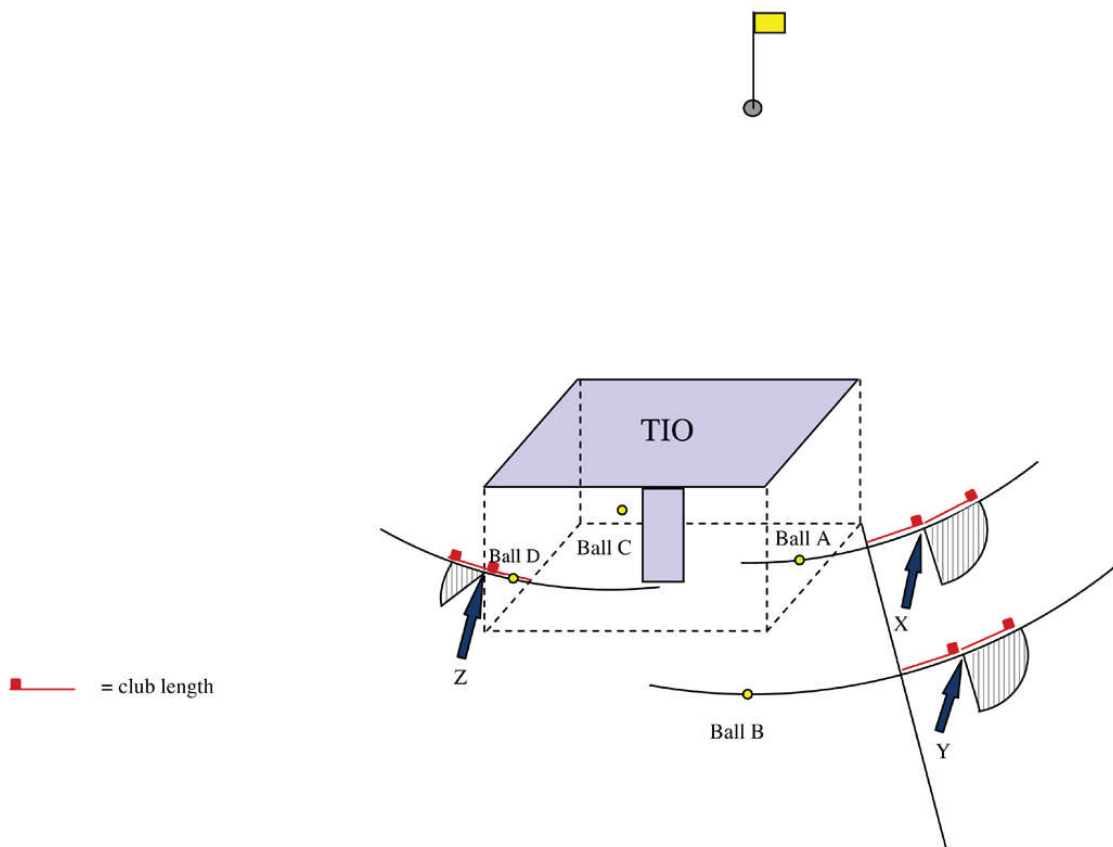


図7

TIO のガイワイヤからの救済

球 A は TIO の「前に」あり、TIO からの物理的な障害は生じていません。球 A の介在の状態にもなっていません。なぜなら、TIO のどの部分も球とホールを結ぶ等距離の円弧上に沿って計測した球から 1 クラブレングス以内でないからです。球が TIO の最も前方の部分(ガイワイヤが地面に固定されている所)を結ぶ架空のラインの後ろにあることは関係ありません。球 A について、このローカルルールに基づく救済を受けることはできません。

注：ローカルルールでこうした点を実線で結ぶことは認められます。この場合、そのラインは TIO の「前」となります。そうした場合、球 A は TIO の中にあることになり、したがって X 点から始まる斜線部分での救済を受けることができます。

球 B は前方左のガイワイヤの後ろにありますが、TIO からの物理的な障害はありません。救済は Y 点で受けることができます。球は Y 点から 1 クラブレングス以内の斜線部分にドロップされなければなりません。

球 C は TIO の「中」にあります。救済のニヤレストポイント(Z 点)を決める場合、TIO の外側の限界はガイワイヤを含めて決めなければなりません。球は Z 点から 1 クラブレングス以内の斜線部分にドロップされなければなりません。

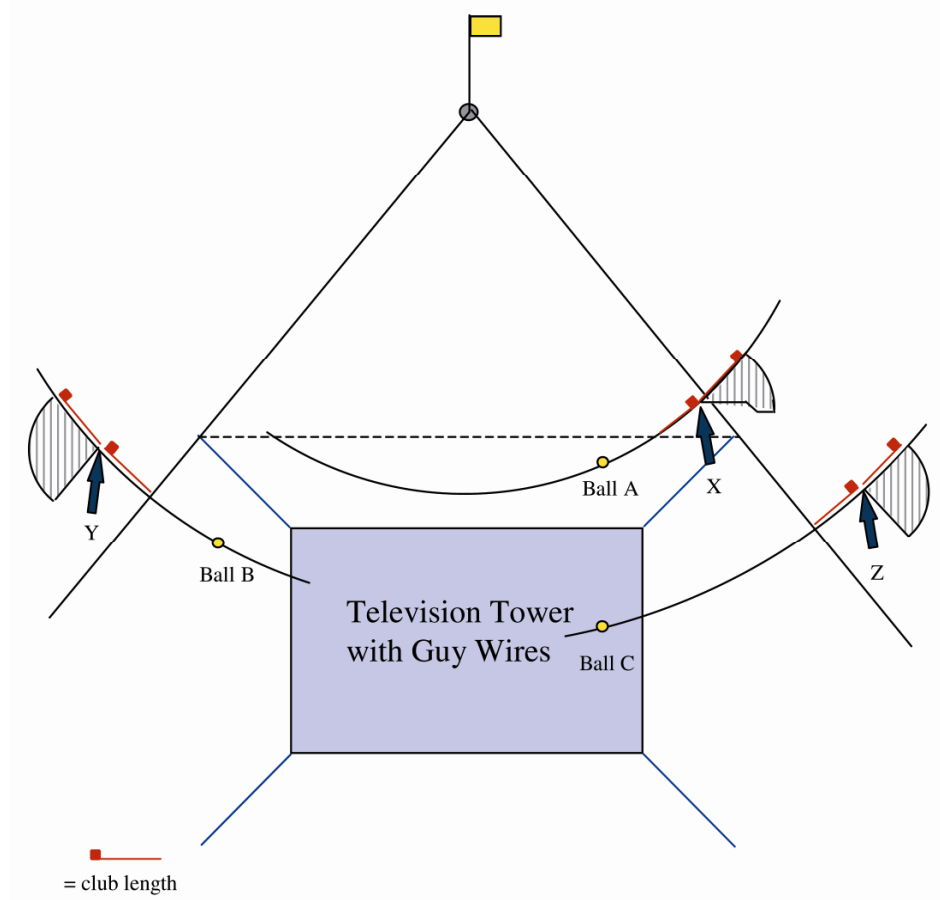


図 8

等距離の円弧外の救済地点

球 A は TIO の中にあります。球とホールを結ぶ等距離の円弧上に沿って計測した最初の 1 クラブレングスはハザード内となります(X 点)。Y 点は球とホールを結ぶ等距離の円弧上に沿って計測した場合の次の 1 クラブレングスでハザード外となる点です。Z 点はスルーザグリーンに救済を受けることを条件とする場合に TIO の中にあった球から最も近い地点でハザード外となる点です。救済のニヤレストポイントを決める際にホールから等距離であることは要件ではなく、Z 点のほうが Y 点より球の位置から近いので、このローカルルールに基づいて処置しようとする場合、プレーヤーは Z 点から 1 クラブレングス以内の斜線で示された区域に球をドロップしなければなりません。

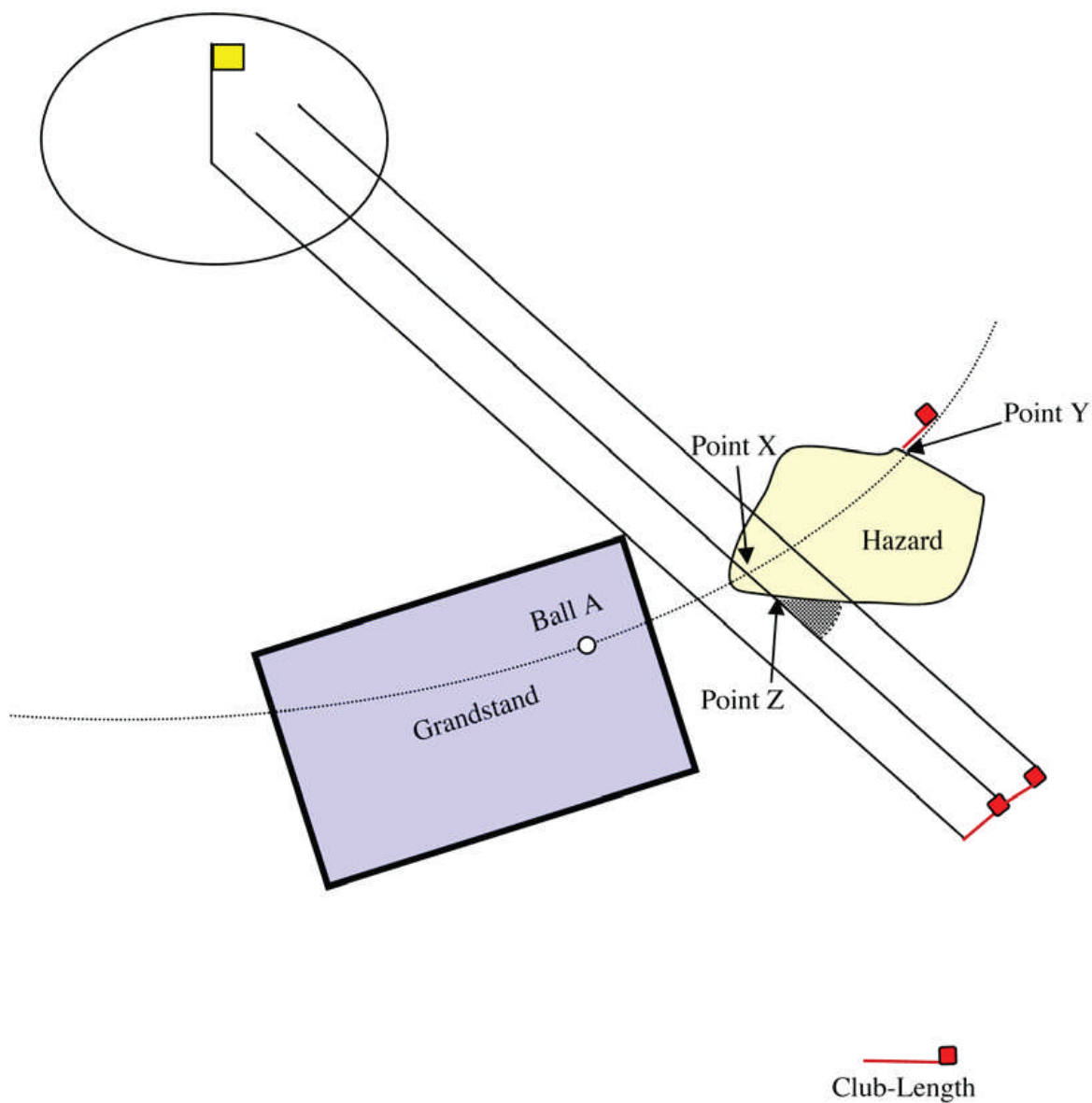


図9

ハザード内の最大限の救済

球 A はハザード内にあり、TIO の後ろにあります。TIO の A の部分の高さは 20 フィート、B の部分の高さは 10 フィートあります。TIO からの完全な救済を受けられる場所はハザード内にはありません。Y 点は TIO が最も低い所で球とホールを結ぶ等距離の円弧上の点です。Z 点は完全な救済が存在する W 線に最も近い球とホールを結ぶ等距離の円弧上の点です。X 点は完全な救済が存在する W 線に最も近いバンカー内にあったとした球に最も近い点です。X 点は完全な救済が存在する W 線に最も近く、バンカー内の球のあった場所に最も近い点です。最大限の救済を受けられる点を決める際にホールから等距離であることは要件としていないので、プレイヤーが罰なしにこのローカルルールに基づいて処置するのであれば、球が初めにあった所よりホールから遠くになりますが、X 点に球をドロップしなければなりません。

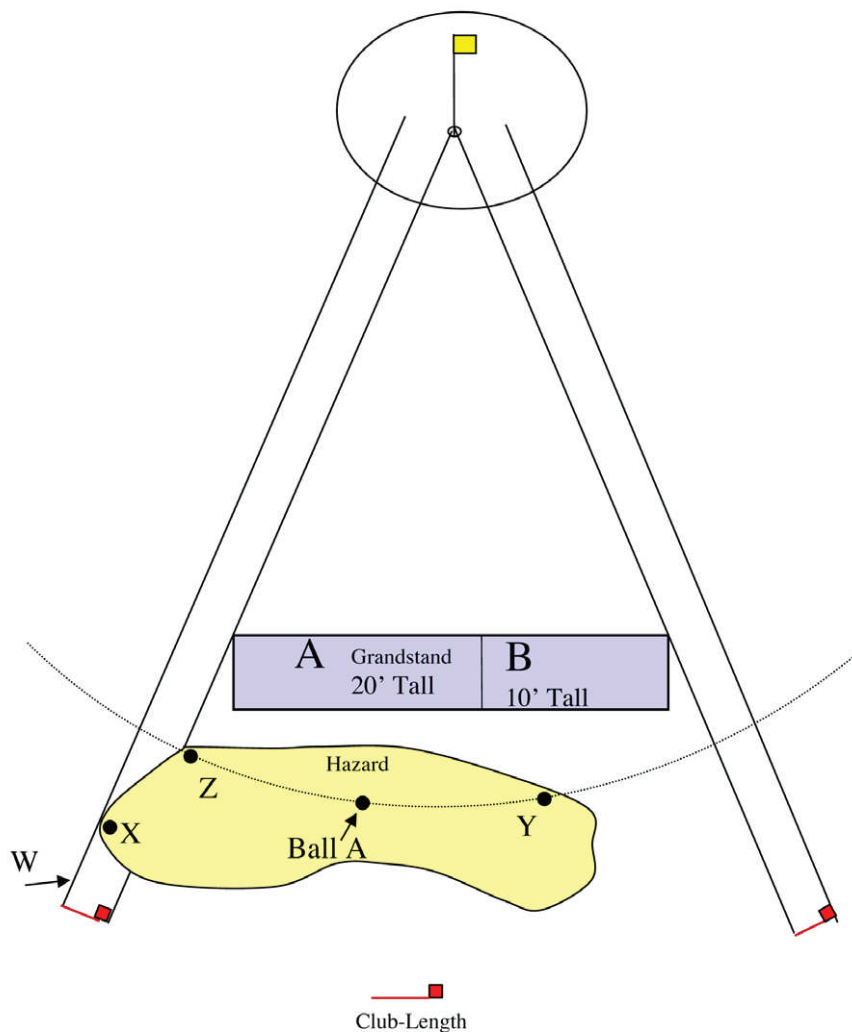


図 10

特別救済処置

TIO の両サイドへの救済

パッティンググリーンの左手前にあるスコアボードは、スコアボードの左側に木々があるために、3項に基づいて正確に決めた救済のポイントからそのスコアボードの反対側にドロップすることを認めるローカルルールが妥当であるケースを例証しています。

球 A と B は球とホールを結ぶ線上に直接介在するスコアボードの後ろに止まっています。3項により要求されるスコアボードの左側でそれぞれ斜線により示された区域にドロップすることに加え、スコアボードの右側(球 A に対しては前)の斜線の区域にドロップすることもできます。

注：ジ・オープンローカルルールに基づく、プレーヤーの球が TIO の前にある場合(つまり、介在の救済はないが、物理的な障害がある場合)、介在の救済の場合と同様に、救済を受ける場合に右か左に行くことを認めています。

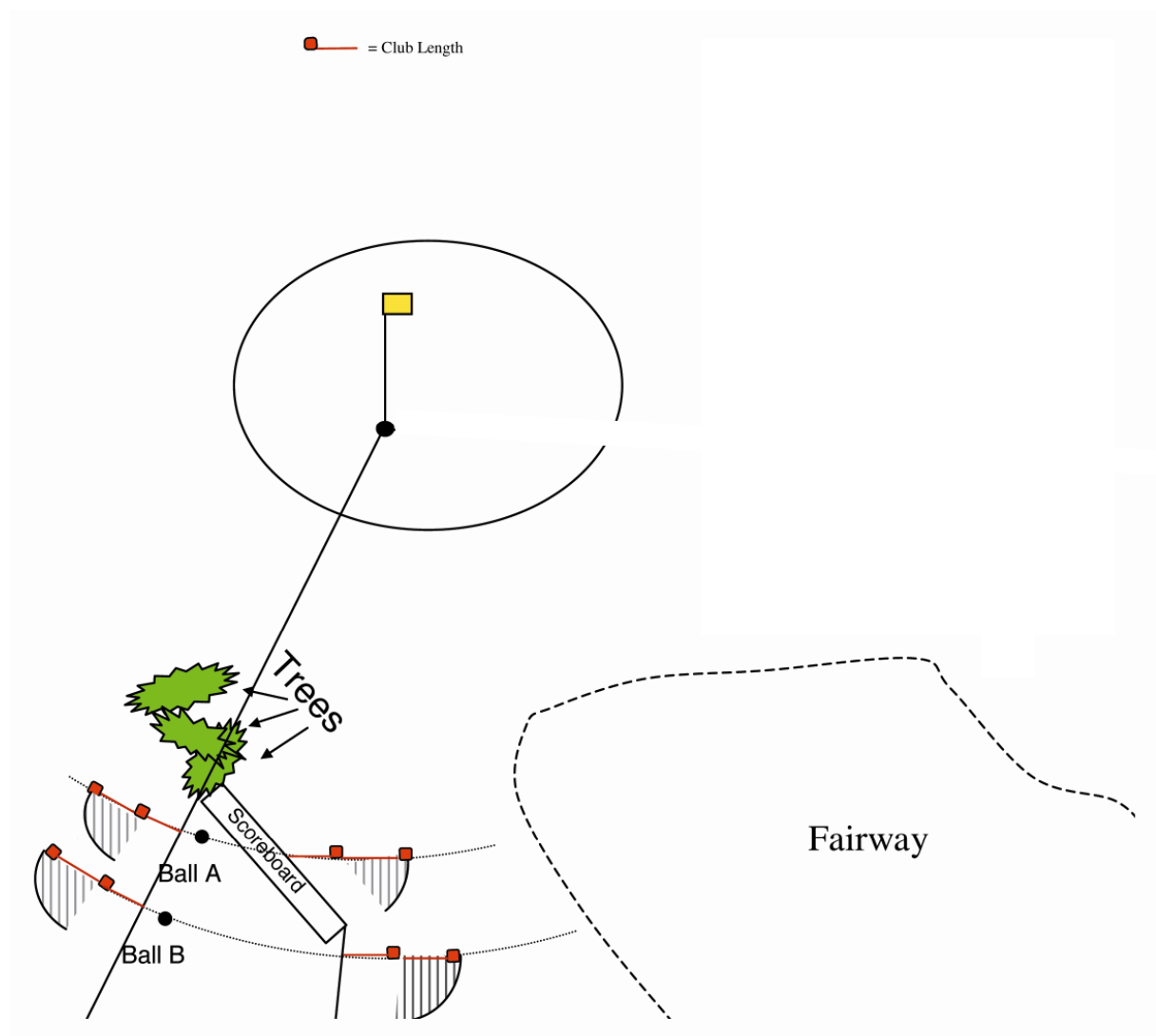
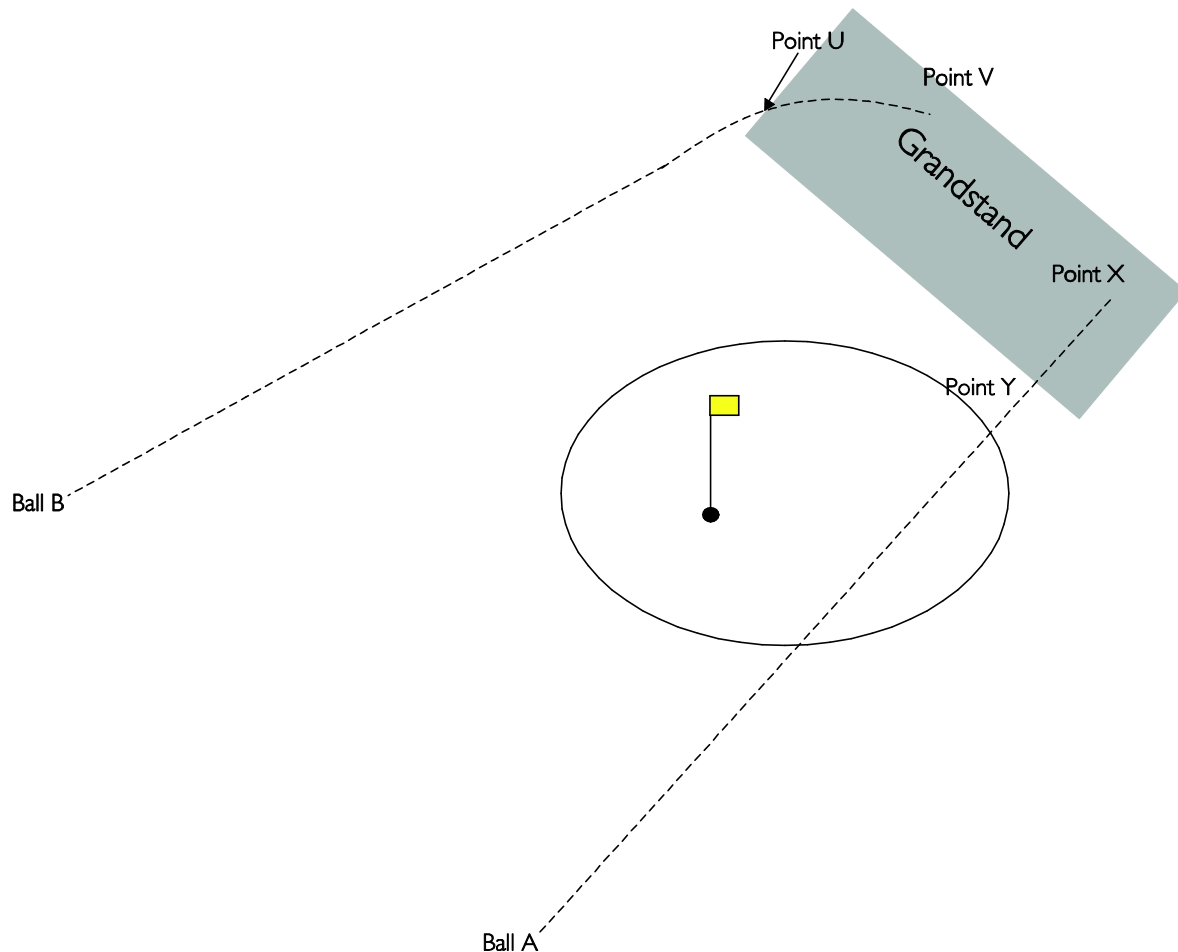


図 11

TIO の中で球が紛失

球 A はフェアウェイからプレーし観客席に入りました。球は見つかりませんでしたが、球が TIO の中で紛失したことが分かっている、あるいはほぼ確実という状況でした。球は観客席の X 点に入りましたが、Y 点は球が TIO の最も外側の縁を球が最後に横切った地点です。臨時の障害物のローカルルールの 4 項に基づく処置のために、Y 点は救済を受けるための基点となります。したがって、プレーヤーは Y 点から最も近いドロップ区域に球をドロップしなければなりません。

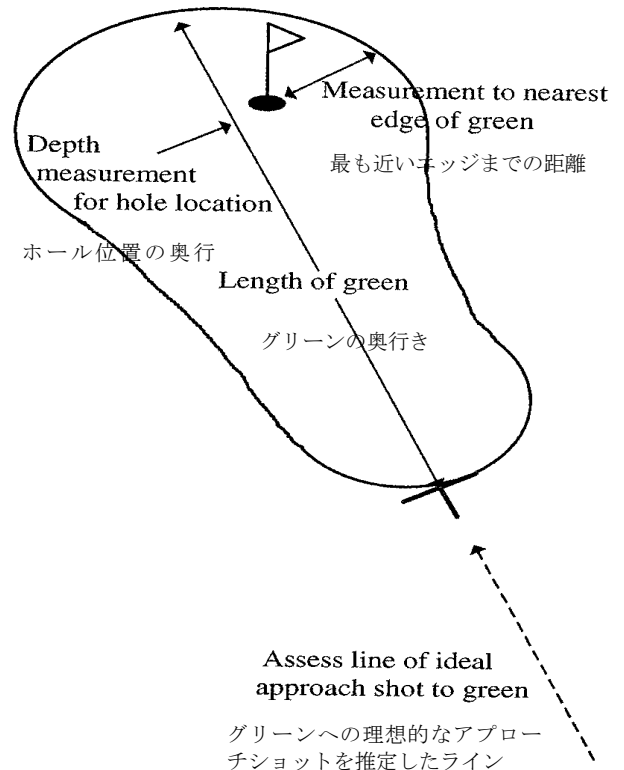
球 B はフェアウェイからプレーし観客席に入りました。球は見つかりませんでしたが、球が TIO の中で紛失したことが分かっている、あるいはほぼ確実という状況でした。球は観客席の中の V 点に入りましたが、U 点は球が TIO の最も外側の縁を球が最後に横切った地点です。臨時の障害物のローカルルールの 4 項に基づく処置のために、U 点は救済を受けるための基点となります。したがって、プレーヤーは U 点から最も近いドロップ区域に球をドロップしなければなりません。



付属 E ホールロケーションの計測

ガイドライン

1. パッティンググリーンへの理想的なアプローチショットの方向を決めます。これはパッティンググリーン後方からも再考すべきです。
2. 理想的なアプローチのラインとパッティンググリーン前方のエッジが交わる地点をマークします（注：この地点は必ずしもグリーンエッジ上でなくてもよい）。この地点を標示するために小さいペイントマークを使用します。また、このラインの延長線上のパッティンググリーン後方にも小さいペイントマークを付けます。
3. 理想的なアプローチショットのライン上にマークした地点からグリーン奥までを計測してパッティンググリーンの長さを計算します。
4. 同じラインに沿って計測し、各日のホールロケーションの奥行きを決めます。
5. ホールロケーションからエッジまでを計測する「グリーン奥行き」の線から 90 度の方向でグリーンエッジまでを計測します。



例
 グリーンの長さが 30 ヤード、ホールロケーションの奥行きが 23 ヤード、ホールからグリーン右サイドの距離が 9 ヤードの場合、標準的なホールロケーションシートは右のようになります。

The diagram shows a circular hole location sheet. The diameter is labeled '30 yards'. A right-angled triangle is drawn with the hypotenuse from the center to the edge. The vertical side is labeled '23' and the horizontal side is labeled '9'.

付属 F スコアカードの発行、記入、確認のガイドライン

スコアカードに関する委員会、マーカ―（通常、同伴競技者）、競技者の責任は次の通りです。

1. 委員会の責任

- (a) ハンディキャップストロークが与えられるホール順序を示しているハンディキャップストローク表(規則 33-4)を発行すること。これはスコアカードに記載されてもよい。
- (b) 個人のストロークプレーで、各競技者に日付と競技者名の記されたスコアカードを発行すること、そして競技者がカードを戻す際に、合計スコアを出すために各ホールのスコアの足し算すること、またに記載されたハンディキャップを適用すること（規則 33-5）。
- (c) フォアボール・ストロークプレーで、スコアカードに記載されたハンディキャップを適用すること、各ホールの良いほうのスコアを確かめそのスコアを足し算すること（規則 31-3, 33-5）。
- (d) ボギー競技またはパー競技で、ハーフ、勝ち、負けのホールを記録すること。ステーブルフォード競技では、記入されたポイント数を計算すること（規則 32-1）。

注：

- (i) 全ての形式のストロークプレーで、委員会は各競技者に日付と自分の名前をスコアカードに記入するように要求することによって援助を求めることができます。
- (ii) 提出されたスコアカードの合算が間違っていたり、競技の条件に基づいて受けることが認められているハンディキャップを誤って適用したりしたとしても競技者は罰を受けることはありません。
- (iii) ボギー競技またはパー競技で、ホールに対して誤った結果が記されていてもそのホールのグロススコアが正しく記録されていれば競技者は罰を受けることはありません。同様に、ステーブルフォード競技で各ホールに対するポイントを計算するのは委員会の責任です。

2. マーカ―の責任

- (a) 罰打も含め、各ホールの競技者のスコアを確認すること（規則 6-6a）。
- (b) 各ホールの競技者のグロススコアを記録すること（そのホールを終了後すぐに記録することが望ましい）
- (c) ラウンド終了後、スコアカードにサインして競技者に渡すこと

3. 競技者の責任

- (a) ハンディキャップ付きストロークプレーでは、委員会に提出する前に自分のスコアカードに自身のハンディキャップが記載されていることを確認すること（規則 6-2b）

- (b) 各ホールプレイヤーのスコアを確認すること（規則 6-6b）
- (c) 委員会と共に疑問点を解決すること（規則 6-6b）
- (d) マーカーがスコアカードにサインしたことを確認すること（規則 6-6b）
- (e) スコアカードに自分の副署をすること（規則 6-6b）
- (f) 速やかにスコアカードを委員会に提出すること（規則 6-6b）
- (g) フォアボール・ストロークプレーでは、採用するグロススコアがスコアカードで個々に識別可能になっていることを確認すること（規則 31-3）

注：

- (i) どこでスコアカードが確認されるのかは重要ではありません。
- (ii) 競技者がスコアカードに副署したという事実は、通常彼がそれを確認したという証拠として受け入れられるべきです。競技者がマーカーがサインするべき箇所にサインした（またはその逆）としてもそのスコアカードは無効とはなりません。
- (iii) 競技者は規則 6-6b のいかなる違反に対しても競技失格の罰を受けることとなります。このことは提出するスコアカードの正確性、適切に署名と副署がなされていることを確認する責任を競技者に印象付けるという意図があるのです。
- (iv) 委員会は競技失格の罰を免除したり修正する権限（規則 33-7）がありますが、この権限は例外的な個々のケースについてのみ用いられるでしょうし、競技者の不注意、あるいは怠慢であったケースに用いられるべきではありません。
- (v) スコアカードを委員会に“速やかに”提出するという競技者の義務（規則 6-6b）は合理的に解釈されなければなりません。スコアカードが委員会に提出された後はいかなる修正もできないので（規則 6-6c）、競技者には慎重にスコアカードを確認する十分な時間が認められなければなりません。スコアカードを提出する際の遅延が合理的かどうかは委員会が決定することとなります。

付属 G プレーのペースの条件

THE OPEN

プレーのペースの条件(規則 6-7)

R&A ハードカードのプレーのペースの条件に下記の事項を補完する。

許容時間

競技の第 1、第 2 ラウンドの 18 ホールに割当てられる最大限の時間は、3 人組みのプレーの場合 4 時間 26 分となります。

競技の最後の 2 日間は、2 人組となり、許される最大の時間は 3 時間 45 分となります。

各ホールにはホールの距離や難易度に基づいた終了するための限度時間が与えられ、裏面チャートに詳細に記載されます。

定義「アウトオブポジション」

第 1、第 2 ラウンドで第 1 組、第 27 組は、ラウンド中どの時点においても、その組の通算した時間がそれまでプレーされたホール数に対して許される時間を超えた場合にアウトオブポジションとみなされます。

その他後続の組は、前の組からスタート間隔以上遅れ、かつその組の通算した時間がプレーされたホール数に対して許される時間を超えた場合にアウトオブポジションとみなされます。

アウトオブポジションの組の処置

プレーのペースを監視し、アウトオブポジションとなっている組の時間を計測すべきかどうかを決定することはローバーの主要な職務です。ローバーは必要な場合には同行ルールズオフィシャルと連絡を取り合い、前に起こった情状酌量が認められる事由、例えば、非常に長いルーリング、紛失球、アンプレアブルなどについて知らされる必要があるでしょう。しかしながら、ローバーが同行しておらず、同行ルールズオフィシャルがその組が所定の時間より 2 分を超えてアウトオブポジションとなっていると思った場合にはローバーを呼ぶべきです。

プレーヤーたちを計測するという決定がなされた場合、その組の各プレーヤーは個々にローバーによって時間を計測されることとなり、ウォーキングルールズオフィシャルは各プレーヤーにアウトオブポジションとなっていること、及び時間が計測されることを忠告します。

したがって、R&A のハードカードの時間規定を適用する。

**Pace of Play - Maximum Times Allowed
Rounds 3 & 4 (2 Balls)**

HOLE	1	2	3	4	5	6	7	8	9	OUT
PAR	4	4	4	5	3	5	4	3	4	36
MAXIMUM TIME ALLOWED	12	12	12	15	10	15	13	9	12	
MAXIMUM CUMULATIVE TIME	.12	.24	.36	.51	1.01	1.16	1.29	1.38	1.50	

**Pace of Play - Maximum Times Allowed
Rounds 1 & 2 (3 Balls)**

HOLE	1	2	3	4	5	6	7	8	9	OUT
PAR	4	4	4	5	3	5	4	3	4	36
MAXIMUM TIME ALLOWED	15	14	14	17	12	17	15	11	15	
MAXIMUM CUMULATIVE TIME	.15	.29	.43	1.00	1.12	1.29	1.44	1.55	2.10	

HOLE	10	11	12	13	14	15	16	17	18	IN
PAR	4	4	4	4	3	4	5	3	4	35
MAXIMUM TIME ALLOWED	14	15	12	13	9	13	15	10	14	
MAXIMUM CUMULATIVE TIME	2.04	2.19	2.31	2.44	2.53	3.06	3.21	3.31	3.45	

HOLE	10	11	12	13	14	15	16	17	18	IN
PAR	4	4	4	4	3	4	5	3	4	35
MAXIMUM TIME ALLOWED	16	17	15	15	11	16	17	12	16	
MAXIMUM CUMULATIVE TIME	2.26	2.43	2.58	3.13	3.24	3.40	3.57	4.09	4.25	

一般のプレーに対するプレーのペース

倶楽部、パブリックコース、リゾート、そして競技主催者では何が適切なプレーのペースなのかについて異なった見解を持つであろうことは理解できます。しかしながら、スロープレーは多くのゴルファーにとってゲームの楽しみを損なわせることは事実で、速くプレーすることについて不平を聞かされるゴルファーはいないでしょう。

したがって、すべてのレベルゲームにおいて、プレーヤーと主催者はゴルフをプレーするコースにとって適切なペースでプレーすることを確実にする責任があります。何が適切なペースなのかについて影響する要素としては、コースの難易度、グリーンとティーの距離、天候、そしてそのコースをプレーする選手の飛距離の能力などがあるでしょう。

さらに、趣味やレジャーとしてプレーされるゴルフと、職業として高いレベルでプレーするため一定の許容時間が定められているような高いレベルでプレーされるゴルフは区別する必要があります。エリートレベルでは、通常、コース上にオフィシャルがいて、その人がプレーのペースを観察し、各組がホールごとのスケジュールを保ち、そのスケジュールを保てなかった場合には罰を課すために個々のストロークを計測するといった厳密な規定を実施します。このような規定を通常のプレーに採用することは現実的ではなく、したがって、主催者は適切なラウンド時間を守るための良い習慣とプレーヤーの協力にたよる必要があります。

この点において、主催者はラウンド時間の目標を設定することが重要です。上述のとおり、ラウンド時間についてすべてに当てはまるモデルはありませんが、目標は時間が多く余ってしまうことなしに達成できることが重要です。

参考までに、一般に2球でのラウンドは3時間10分を越えるべきではありません。3球でのプレーでは3時間30分を越えるべきではありません。そして、4球でのプレーは3時間50分を越えるべきではありません。実際には、必要に応じて、これらより短いラウンド時間を全てのプレーヤーの目標とすべきです。しかしながら、すでに言及したように、主催者はコースのデザインや、暑さといった要素がラウンド時間をより長くすること考慮することも必要でしょう。

スロープレーがあなたの倶楽部、コース、リゾートで問題となっている場合、その問題を緩和するために強固な措置をとるべきです。

ラウンド時間を最小限に抑えるために主催者ができること

- 短いスタート間隔を使用することによってコースに詰め込みすぎないこと。2つの球でプレーする場合、少なくとも8分間隔、3あるいは4球でプレーする場合は少なくとも10分間隔とすべきです。
- できれば、生じる遅れを清算するためその日のコースの中でスターターズ・ギャップを組み入れる。
- プレーヤーの能力にふさわしいティーからプレーするよう奨励し、スターターにラウンドの前にこれに関してプレーヤーに指導するようお願いする。
- 日常のプレーのためのラフは多くの紛失球を避けるような長さとするべきです。
- 日常のプレーのためのホールロケーションやグリーンの速さは厳しすぎないものとするべきです。
- コースをプレーするために要する時間をプレーヤーに知らせ、プレーのペース(前の組についていくこと、そして早い組はパスさせることなど)に関するプレーヤーの責任を再認識させます。

ラウンド時間を最小限に抑えるためにプレーヤーができること

- 前の組に対しての自分の位置を認識しておくこと
- 後ろの組は重要ではありません。後ろの組みを待たせていないということに関係なく、前の組について行くことがあなたの組の責任です。
- あなたの組が遅れていると感じたのであれば、同じ組の他のプレーヤーにもそのことを告げます。
- あなたの組が遅れた場合はすぐに回復するように努力しましょう。
- 完全に前の1ホールを空けて後ろの組を遅らせている場合、あるいは、前の組がいなくて後ろの組を遅らせている場合、後ろの組をスルーさせましょう。
- あなたの順番がくるまでグローブを着けないで待ってはいけません。
- あなたの順番がくるまで距離の計測やクラブの選択をしないで待ってはいけません。
- あなたの組の他のプレーヤーがパットの線を読んでいる間に自分のラインを読んでおきましょう(エチケットの範囲内で)
- パッティンググリーンでは、次のティーに行くためにパッティンググリーンを早く移動できるような位置にバッグを置きましょう。
- あなたの組の全てのプレーヤーがホールアウトしたらすぐにパッティンググリーンを離れましょう。スコアカードには次のティーに行く途中で記入しましょう。
- 球がウォーターハザード外で紛失したり、アウトオブバウンズとなるおそれがある場合には暫定球をプレーしましょう。
- 前の組について行けば、スロープレーと非難されることはありません。

付属 H 落雷の安全への助言、プレーの中断とコース避難計画

委員会が落雷からプレーヤーを守るためにできる限りのことをする責任がある一方で、プレーヤーも自身の安全を確保するための処置をとらなければなりません。下記は雷雨にあった場合のプレーヤーへの助言です。

落雷の安全への助言

探しましょう：

- 恒久的に密閉された建物
- 密閉された建物がなければ、車やバンのような車両も有効な代替物となります。
- 建物や車がなければ、できる限りの低地に行きましょう。

避けましょう：

- 木やポールのような高い物
- 小雨や日よけ用の小屋
- 大きな空き地、湿った区域、高台
- クラブ、手押しカート、ゴルフカート、フェンスなどの全ての鉄製の物、電気コース管理作業車、動力線

安全な場所に避難することができなかった場合の助言

- 組の他の人から離れる。
- うずくまる、頭をかかえこんで耳を塞ぐ。
- 突然の危難が去ったらすぐに最も安全な場所に移る。

プレーの中断

- 競技中のプレーヤーは、雷雨の恐れがあると思った場合には、委員会の承認がなくても、プレーを止める権利があります。

THE OPEN
Royal Birkdale 2008

プレーの中断

プレーの中断に関するすべての裁定はピーター・ドーンソンか私が行ないます。コース上の状態がレフェリーやローバーにとって懸念される場合、すぐに無線本部に知らせて下さい。例えば、豪雨によってパッティンググリーン上にカジュアルウォーターが生じた場合、スクイージーオペレーターは最も影響のあるコースの場所に配置されたり、あるいはプレーを続けることができるように、組に同行します。

険悪な状況でない場合の中断の場合(例えば、カジュアルウォーターが広範囲に及んだり、強風や視界不良など)、合図は3回の連続した短いサイレンとなり、レフェリーには無線でこの情報をお知らせします。この場合、規則 6-8b の通常の処置が適用となります。

しかし、険悪な状況による中断の場合(例えば、雷)は、プレーヤーは直ちにプレーを中断しなければならないことに注意して下さい(R&A ハードカードの競技の条件 5 項と規則 6-8b 注)。険悪な状況のためのプレー中断の合図は1回の長いサイレンとなり、無線本部によって確認されます。

プレーが中断された場合、レフェリーは同行している組を前もって決定してある地点にプレーヤー達をつれていかなければなりません。避難場所に関しプレーヤーが従うべき処置を説明し、コース上の各場所でのピックアップの準備について詳述している追加の注や地図に言及して下さい。

プレーは適切なときになり次第再開されます(詳細注参照)。

プレー再開の合図は2回の短いサイレンの繰り返しとなり、その処置については規則 6-8d に規定されています。

W.M.B Brown
Chairman
Championship Committee

THE OPEN
Royal Birkdale 2008

プレー中断の場合の措置
(コース避難とプレー再開を含む)

選手権の間に競技が中断される場合、次の手続きを実行する。

1. ウォーキング・ルールズオフィシャルズ(以下 **WROs** という)は、プレーの中断がある場合、中断の種類、つまり、通常の中断なのか、険悪な状況による中断なのかを無線本部より知らされます。そして、サイレンを使用し、プレーの中断を合図するローバーによってカウントダウンが行なわれます(1回のサイレンは険悪な状況による中断、3回の連続するサイレンは通常の中断)。**WROs** はプレーヤーにまもなく中断となることを知らせます。
2. **WROs** は無線本部より、(a)中断がどれくらい継続するのかを判断する間、一時的にコース上の避難小屋(あるいは、適切な場合には倶楽部ハウス)にプレーヤーを連れていかなければならないのか、(b)プレーを一度中断してプレーヤーをコースから輸送することになるのかに関して指示を受けます。
3. いずれの場合にも、**WROs** は受け持ちのプレーヤーたちを、コース上のそのグループのために特定された適切な場所に誘導しなければなりません(集合場所を示した添付地図を参照)。このことはプレーヤーが事前に配置されたマイクロバスまで近距離を歩いていくことやリンクスクラブハウスまで歩いていくことを含みます。もしプレーヤーたちが避難の間だけクラブハウスに連れて来られる場合、短時間の後にコースに戻ることを要求されるかもしれないのでさらなる告知があるまでキャディーとともにロッカールームに留まるようにすべきでしょう。無線本部はすべての組が集合場所に到着していることを確実にするために確認(点呼)を行います。ウォーキングレフリーは自分の受け持つ組番号と到着したかどうかを回答しなければなりません(すなわち、「第16組、到着済み」あるいは「第16組、まだ到着していません」)。まだ到着していない理由のさらなる説明は無線本部から特に要求された場合にのみ行われるべきでしょう。
4. コース上の避難所にいるプレーヤーたちをクラブハウスに輸送する決定をした場合は、無線本部がすべてのグループに連絡をとったことを確認したときのみ、マイクロバスの運転手に輸送を開始する指示を行います。運転手は無線本部がそうした指示を出すまでは輸送を開始してはなりません。
5. プレーヤー、キャディー、**WROs** (オブザーバーを含む)だけが輸送されます。しかしながら、もしプレーヤーに同行して歩いていた関係者(家族、親族など)がいる場合は、そうした人たちも含まれます。それ以外の人を輸送することはありません。ミニバスは各避難箇所にしたがって、A1,A2,A3,B1などと識別されます。**WROs** はミニバスの番号を書きとめるべきでプレー再開時に

は同じミニバスに乗るようにプレーヤーとキャディーに注意すべきです。

6. バスに乗せられたプレーヤーたちはクラブハウスに輸送されます。全てのプレーヤーに競技者家族用テントあるいはクラブハウスに留まるように指示すべきです。プレー再開のアナウンスは上記2つの場所と練習場で行われます。しかしながら、危険な状況でのプレーの中断の間、練習場はクローズになるでしょう。**WROs** はアナウンスが行なわれる競技委員会テントにいます。
7. プレーの再開に先立って、バスなどによって輸送されたプレーヤーやキャディーについてはクラブハウスの裏からの移動手段が用意されます。これらのプレーヤーやキャディーは、コース上のプレーを中断した場所に歩いて戻るべきではありません。彼らは最初のバスでピックアップされた元の場所に輸送されます。無線本部はすべてのグループを確認(点呼をとって)してから運転手に輸送を始めるように指示を出します。その車両が到着したときに、**WRO** はプレーヤーを元の場所につれていくべきです。
8. プレーの再開に先立って、無線本部はコース上のそれぞれのウォーキングレフェリーに組番号順に連絡をとり、その組のプレーヤーたちが元の位置に戻り、プレーの準備ができているかどうかを確かめます。
9. 無線本部はすべてのプレーヤーが位置についてプレーを再開する準備ができたことを確認して、ローバーに対してプレー再開の合図を行う権限を与えます。
10. こうした手順において無線回数を最小にしておく（無駄な連絡を抑える）ことが重要です。こうした時には重要な連絡のために無線の使用を制限してください。



チームマッチでのプレーの中断

悪天候により予定していたフォーマットでマッチを終えることができず、延長する時間がどんな理由であれ、十分に、あるいは全くとれない場合にチーム競技で問題が生じます。

こうしたチーム競技では多くの異なったフォーマットがありますが、おそらく最も一般的なものは連日にわたってプレーされるフォアサムまたはフォアボール（規定数）のマッチと、それに続くシングルマッチ（規定数の倍）という一連のマッチでしょう。そうした競技では、プレーが短縮された場合に競技を成立させる権限があることを競技の条件に規定しておくべきです。委員会は公正な裁定を行なう権利を有しています。

同様の問題はリーグ戦でのマッチでも生じます。競技に参加しているチームの内の2チーム間のマッチが短縮され、両サイドのすべてのメンバーがプレーを再開できる日時を決めることが不可能な場合です。

そうした状況では、そのマッチが規則 33-2d にしたがって終了できるように再開の日程を決めるあらゆる努力がなされるべきであることを強調しておきます。しかしながら、不可能であるとわかった場合、委員会に残されている選択肢は：

- (i) 終了したマッチの結果は有効で、終了していないマッチは無効とするか、あるいはハーフとして扱う。
- (ii) 終了したマッチの結果は有効で、終了していないマッチは無効とし、委員会はそうしたマッチを再び行う日時を指定する。それぞれのチームは、終了したマッチに出場したプレーヤーが終了していないマッチの再マッチに出場しないことを条件に、元のチーム構成を自由に変更してよい。
- (iii) マッチ自体を無効とし、すべての再マッチを行う日時を指定する。それぞれのチームはチーム構成を自由に変更してよい。

次の状況は1チーム10名のチームマッチでそうした事態が起きた場合の適切な選択を示しています。

- (a) チームAは5つのマッチに勝ち、ドローのマッチが3つ、オールスクエアのマッチが2つ — 選択肢(i)
- (b) チームAは5つのマッチに勝ち。チームBは他の5つのマッチでドロー — 選択肢(ii)
- (c) チームAは3つのマッチに勝ち。チームBは3つのマッチに勝ち、4つのマッチでドロー — 選択肢(ii)
- (d) 1つのマッチしか終了していない — 選択肢(iii)

もちろん、委員会が考慮に入れたいと思う要因はこの他にもあります。

例えば、マッチはひとつも終了していませんでしたが、引き続いての日にプレーを再開できないのはたった一人で、彼はチームAの選手で9ホール終わった時点で9ダウンだったとしたらどうでしょう。委員会はそのマッチをチームBの勝ちとするべきで、他のマッチには規則 33-2d にしたがってプレーを再開するように指示するべきです。もしそのプレーヤーが9ダウンではなく9アップだった場合、そのマッチはハーフとして他のマッチを再開することもあるでしょう。

こうした組み合わせは無数にあり、裁定は困難となるでしょうし、時として誰かにとっては明らかに不公平となるでしょう。しかしながら、一般的な要点としては、委員会はゴルフ規則にしたがって、マッチや複数のマッチを終了することができない場合に競技の条件の中で公正の理念にしたがって裁定を行う権利を有しています。

プレーの中断 — 霧の場合の方針

霧が発生しているときに、正規のラウンドを始めるのか、あるいはプレーを続けるのか、いずれの場合もその決定は難しいものです。霧はその性質から予想することが簡単ではなく、いつ始まって終わるのかを予想することも難しいです。

競技ができるかという観点から、プレーされるすべてのショットの落下地点がプレーヤー達から目視できる場合に正規のラウンドを始める、またはプレーを続けるというのが R&A の方針です。この点について、ドライバーを要するティーショットは、ほとんどの距離を包括して考えることになるので、最も難しい問題を生じさせるでしょう。ドライブ区域のフェアウェイのライン、ハザード、木などの物はかなりの範囲まで目視できなければなりません。しかしながら、球の飛球線全部が見えないということではない程度の霧で、視界が部分的に不透明な場合はプレーを遅らせる、またはプレーを中断するという決定は通常行ないません。

2つの別々のコースを使用している場合、非常に多くの場合、1つのコースでプレーを遅らせたり、あるいはプレーを中断した場合は、一方のコースも同様にしなければなりません。このことは(i)2つのコースが近接している場合で、(ii)プレーを遅らせる、あるいは中断する理由(例：霧、雷など)は問わずに適用します。他の方法をとった場合にはプレーヤー達に異なった扱いをしておそらくフェアではない多くのシナリオを生じさせるでしょう。

付属 J 競技会場でのクラブの適合性についての質問に関する ルールズオフィシャルへのアドバイス

はじめに

自分のクラブがゴルフ規則に適合したものであることを確認しておく責任はプレーヤー自身にあり、特定のクラブについて疑問がある場合、「そのクラブを持ち運ばないように」とのはっきりとしたアドバイスを受けることになるでしょう。しかしながら、そのようなアドバイスは、特に競技中や競技終了後に紛議が生じた場合には必ずしも適切とは限りません。そうした場合には裁定が求められます。

使用される用語について

- 「R&A 裁定」とは、関係するプレーヤーやオフィシャルはおそらく知らないでしょうが、紛議が生じた時点で R&A エキップメントスタンダードのデータベースやゴルフ規則裁定集に既に存在している裁定のことです。
- 「R&A ルーリング」とは、R&A エキップメントスタンダードコミティーまたはその承認を受けたサブコミティーが紛議の生じているクラブに対して行うルーリングのことです。R&A ルーリングは、競技開始前・競技中・競技終了後を問わず、適切な R&A エキップメントスタンダードの代表者に紛議が連絡された後に行われます。
- 「その競技期間中限りの条件付回答」は、ストロークプレー競技の運営に当たっているオフィシャルによる回答であり、その効力はその競技終了後には及びません。「その競技期間中限りの条件付回答」はその競技が終了した後は効力がなく、したがって、そのプレーヤーは次の競技会でそのクラブを使用する前に、正式な適合性の決定のためにそのクラブを R&A に提出するようにアドバイスされるべきでしょう。また、その後のルーリングは今回与えられたその競技期間中限りの条件付回答とは異なることがあるということをプレーヤーに承知させておくべきでしょう。
- 「そのラウンド中限りの条件付回答」は、マッチプレー競技の運営に当たっているオフィシャルによる回答であり、その効力はそのラウンド終了後には及びません。「そのラウンド中限りの条件付回答」はそのラウンドが終了した後は効力がなく、したがって、そのプレーヤーは次のラウンドでそのクラブを使用する前に、正式な適合性の決定のためにそのクラブを R&A に提出するようにアドバイスされるべきでしょう。また、その後のルーリングは今回与えられたそのラウンド中限りの条件付回答とは異なることがあるということをプレーヤーに承知させておくべきでしょう。

A. 競技開始前に出された質問

1. オフィシャルは、プレーヤーや同伴競技者・相手・第三者がなぜそのクラブに疑問を抱いているのかを常に確かめるべきです。
2. この段階での明確な裁定は、オフィシャルが自分の裁定の正しさに絶対的な確信がある場合のみ行われるべきです。念のため、裁定を下す前に必ずゴルフ規則やゴルフ規則裁定集、クラブと球の規則ガイドに記載されていることを調べるようにしてください。
3. オフィシャルは、裁定について確信が持てないときは、時間が許せば R&A にアドバイスを求めるべきです。第一に、そのクラブが裁定を受けるために今までに R&A に正式に提出されたことがあるかどうかを確かめるべきです。

4. R&A 裁定が既に存在し、オフィシャルが時間内にそのことを知り得たときはプレーヤーにその裁定内容を告げるべきです。
5. 該当する R&A 裁定が記録に見当たらない場合は、オフィシャルはそのクラブの詳細な説明を R&A に提供すべきです。時間があり、適切な設備も整っていれば、電子メールに画像を添付して送付したり、ファックスで図面を送るべきでしょう。R&A はそうして与えられた情報を基に出来る限りのガイダンスを与え、そして多くの場合、推奨される裁定を提供することになります。
6. オフィシャルは、R&A からのアドバイスを基に問題のクラブについて裁定を下すべきです。もしそのクラブが明らかに「適合」あるいは「不適合」である場合、オフィシャルはその趣旨の裁定をすべきでしょう。しかしながら、たとえほんの少しでも不確定要素があれば、「その競技期間中限りの条件付回答」あるいは「そのラウンド限りの条件付回答」を出すに留めるべきです。
7. プレーヤーのスタート時間が迫っているために、オフィシャルがアドバイスを十分に求めることができなかつたり、あるいは R&A に連絡をとることができなかった場合は、オフィシャルはそのラウンドではそのクラブを持ってスタートしないようにプレーヤーにアドバイスすべきです。
8. 遅れて届いたアドバイスにより、そのクラブが実際に適合であることが確認でき、プレーヤーがそのクラブを持たずにそのラウンドをスタートしていた場合、プレーヤーにできるだけ早くその正式な裁定を伝えるべきでしょう。このことは、プレーヤーは（14 本未満でスタートしていたことを前提として）そのラウンド中に自分のキャディーバッグにそのクラブを加えることができる、あるいは次のラウンドでそのクラブを持ち運ぶことができるということを意味します。
9. オフィシャルのアドバイスを無視して、疑問の残るクラブを持ってスタートしたプレーヤーは、その後そのクラブについて不適合との「その競技期間中限りの条件付回答」、「そのラウンド中限りの条件付回答」、または「正式な裁定」が出た場合は、規則 4-1a に基づく罰を受けることになります。これは競技が終了しているかどうかに関わらず適用されます。

B. ストロークプレー競技中に出された質問

1. そのクラブがすでに使用されていた場合、オフィシャルが質問を受け付けるのはラウンドとラウンドの間、またはプレーを終えたあと競技終了までの間だけにすべきです。
2. オフィシャルは、プレーヤーや同伴競技者・第三者がなぜそのクラブに疑問を抱いているかを確認すべきです。
3. オフィシャルが正しい裁定に絶対的な確信がある場合は、プレーヤーにその裁定を告げるべきです(上記 A2 参照)。
4. オフィシャルが裁定に確信をもてない場合、プレーヤーには競技終了前までに「正式な裁定」あるいは「その競技期間中限りの条件付回答」が与えられることを告げるべきでしょう。その後の措置は、競技開始前に質問が出された場合と同じです(前記 A3～A6 参照)。
5. その後の照会先からのアドバイスにより「そのクラブは不適合」であることを確認できた場合は、できるだけ早急に「その競技期間中限りの条件付き回答」あるいは「正式な裁定」をプレーヤーに伝えた上、そのプレーヤーは規則 4-1a に基づいて罰を受けるべきでしょう。

C. マッチプレー競技中に出された質問

1. マッチプレー競技中の場合は、上記ストロークプレー競技中の場合の措置に修正を加える必要があります。

2. 質問がラウンドとラウンドの間で出た場合、疑惑のクラブの持ち主であるプレーヤーに負けてしまった相手がクレームを出すにはもはや遅すぎますが、相手から質問が出ているということは、そのプレーヤーが次のラウンドをスタートする前に問題のクラブをチェックするだけの理由付けになるでしょう。
3. 手続きとしては、プレーヤー、相手や第3者と協議し、決定を行う前にすべての利用可能な情報を入手することでしょう。主な手続きはストロークプレー競技の場合と同じですが(前記 A3～A6 参照)、そのクラブが不適合であるのかどうかをそのプレーヤーが次のラウンド(同日であるかもしれない)をスタートする前に知ることが望ましいので、マッチプレーではより緊急性を要するでしょう。
4. 正式な裁定」が得られた場合、あるいは「そのラウンド中限りの条件付回答」を出すことになった場合は、できるだけ早急にプレーヤーに告げるべきでしょう。その裁定が問題のクラブは「不適合」の場合は、プレーヤーが次のラウンドでその不適合クラブを持ってスタートしたときは規則 4-1a に基づく罰を受けることになることを、オフィシャルはプレーヤーに警告することになります。
5. 「相手が不適合クラブを持ち運んでいる」とプレーヤーがマッチの途中でクレームしてきた場合、オフィシャルは切迫した時間的制約のもとで裁定を行わなければなりません。理想的にはマッチが終了する前に裁定を行うべきです。そのような時、そのクラブが不適合であるという明らかな証拠がないのであれば、オフィシャルはほとんどの場合、間違いを犯すとすれば「そのクラブは適合」と裁定する間違いを犯すべきでしょう。しかしながら、そうした裁定は「そのラウンド限りの条件付回答」となるでしょうから、次のラウンドの前により正式な裁定が行われるべきです。
6. そのような経緯があった後で、その相手がマッチに勝った場合、とるべき措置はラウンドとラウンドの間で質問が出た場合と同じです(上記 C3 と 4 参照)。

D. 競技終了後に出された質問

競技が終了してしまえば、そのクラブが適合かどうかを調べるために R&A と連絡をとる時間および/またはクラブを提出する時間は十分にあります。そのクラブが不適合と判明した場合、そのプレーヤーを競技失格とするかどうかは、そのプレーヤーがそのクラブが不適合クラブであることを知っていたかどうかによって決まります(規則 34-1 参照)。それは事実問題となりますが、委員会はその事実問題を決定する際、プレーヤー自身の証言とともに他の証拠もまた考慮に入れることでしょう。

むすび

ゴルフクラブの大部分はゴルフ規則に適合しているので、用具の適合性についてのこの種の質問を受けることは稀です。しかしながら、そのような質問も時々出るのでオフィシャルはその対処法を知っておく必要があります。「適合クラブを使ってプレーすることはプレーヤー自身の責任である」ということは心に留めておくべき重要なことです。プレーヤーはこの責任をオフィシャルに転嫁することはできません。

オフィシャルの役割として、この種の質問には関係者一同に十分配慮しながら回答するべきです。ゴルフ規則やゴルフ規則裁定集、クラブと球の規則ガイドを参照したり R&A に連絡をとるなどしかるべ

き対応がなされるべきです。最終的な裁定をすぐに下すことができなければ「その競技期間中限りの条件付回答」あるいは「そのラウンド中限りの条件付回答」を出すべきでしょう。

「その競技期間中限りの条件付回答」あるいは「そのラウンド中限りの条件付回答」を出す際に、オフィシャルが適合・不適合を決めかねる場合、間違いを犯すとすれば「問題のクラブは適合とみなす」方を選ぶべきです。後になって適合クラブと分かったクラブを持ち運んだり、使用したプレーヤーに罰を課すことの方が、後になって不適合クラブと分かったクラブの使用をプレーヤーに許したことよりも、より重大な誤りを犯していることになるからです。

- ◆ ゴルフ規則書
- ◆ ゴルフ規則裁定集
- ◇ 図説ゴルフルール
- ◇ 概略ゴルフ規則
- ◆ クラブと球についての規則ガイド(日本語版はダウンロード)
- ◇ 障害を持つゴルファーのためのゴルフ規則の修正
- ◇ Don't be a Golf Menace (エチケットブック)
- ◇ アマチュア資格規則
- ◇ アマチュア資格規則裁定集
- ◇ ゴルフ規則実例(DVD)
- ◇ Pádraig Harrington のゴルフエチケット(ダウンロード)
- ◆ 競技運営ガイダンス(ダウンロード)

これらの出版物は www.randa.org で入手できます。

◆の出版物はその日本語版を(財)日本ゴルフ協会ホームページ(www.jga.or.jp)で入手できます。